

## エネルギー・原子力に関する調査の実施と分析

### 1 エネルギー・原子力に関する首都圏調査の実施

平成 18 年度に「エネルギーと原子力に関するアンケート」第 1 回専門家調査を実施した。その際と同様の調査票（ただし、フェースシートが異なる）を用いて、第 1 回首都圏住民調査（以下、単に首都圏調査という）を実施した。

#### (1) 実施概要

時 期：2007 年 5 月～6 月

対 象：首都圏 30km 圏内

方 法：割り当て留め置き法

回収数：500 名

#### (2) フェースの分析

首都圏調査の回答者の性別および年齢の分布は表 2-1 のとおり。

表 2-1 首都圏調査の回答者のフェース

	男性（人）	女性（人）	計（人）
20～29 歳	45	40	85
30～39 歳	55	50	105
40～49 歳	40	40	80
50～59 歳	45	40	85
60～69 歳	48	65	113
70 歳以上	17	15	32
計	250	250	500

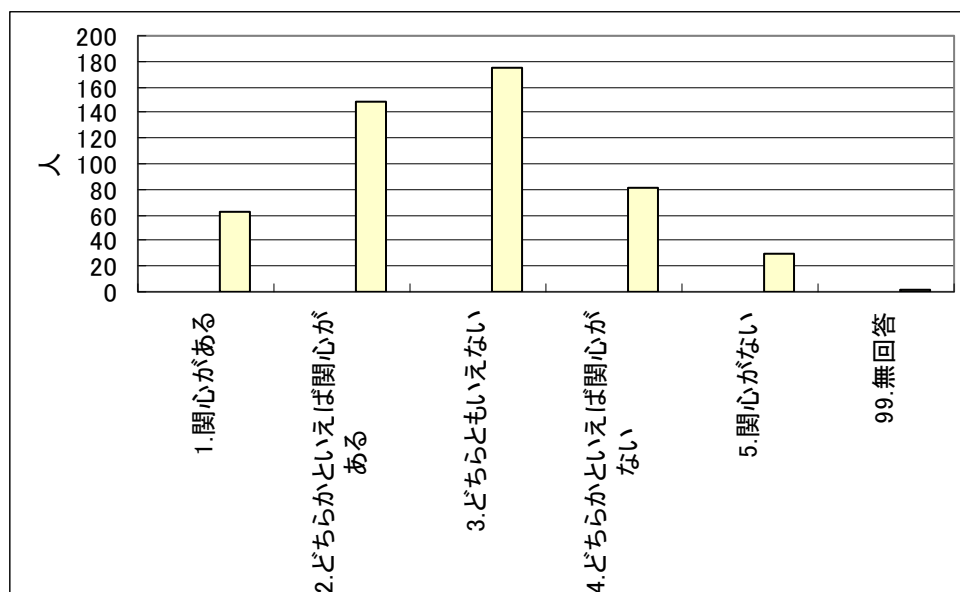
### (3) 分析結果

以下、本アンケートにおける経年調査項目について、今年度の調査結果を示す。

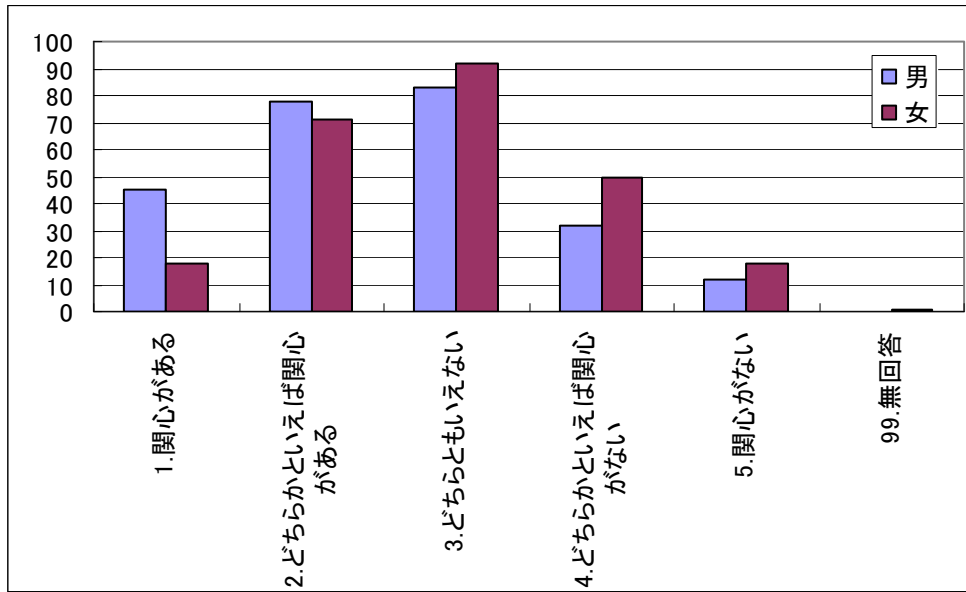
#### 1) 原子力発電に対する関心

原子力発電に対して、関心があると回答する者（関心がある、どちらかといえば関心があると回答した者）が4割を超えている。また、男性の方が、関心があると回答する割合が高い。

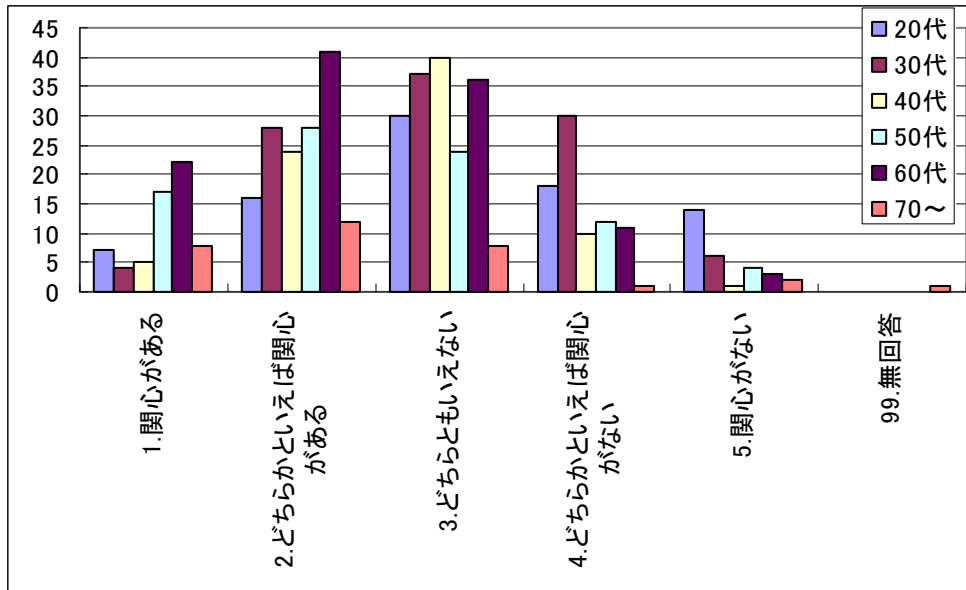
Q5. あなたは、原子力発電に関心がありますか、それともありませんか。



全回答者の結果



男女別の結果



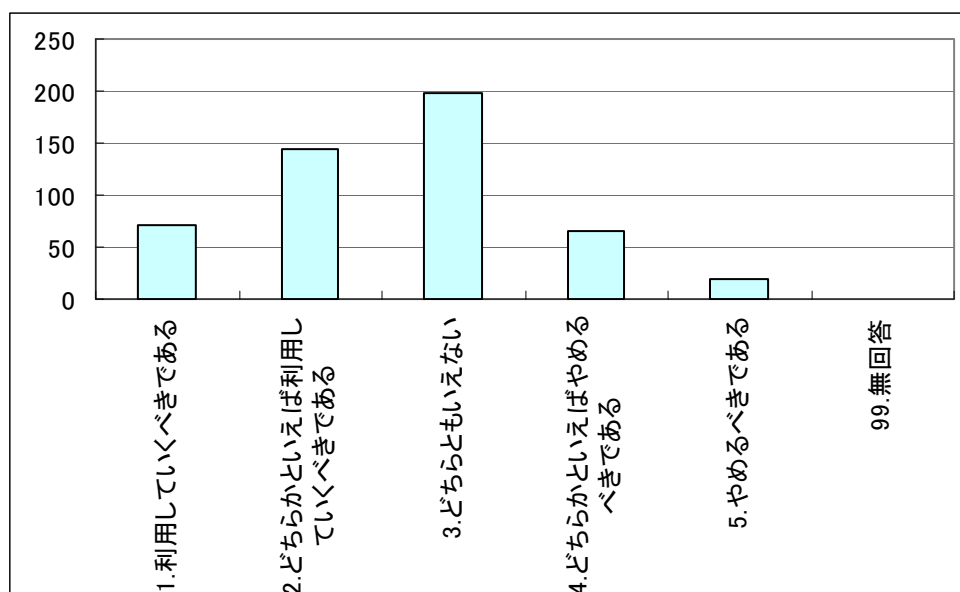
年齢別の結果

## 2) 原子力発電の利用

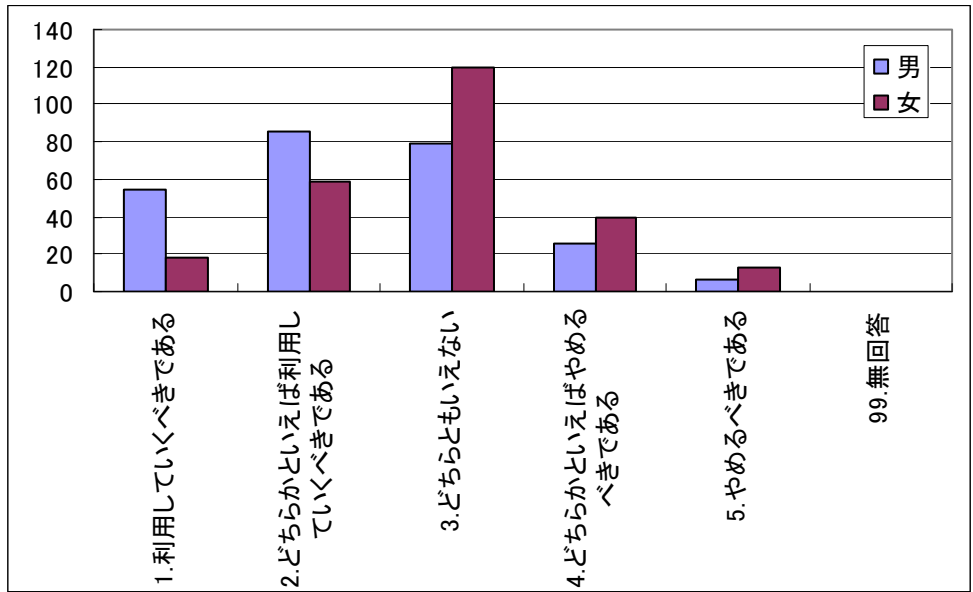
原子力発電を利用してゆくべきと回答する者が4割を超える。一方、やめるべきと回答するものは2割に満たない。また、利用してゆくべきと回答する者は男性の方が多い。

20歳代、30歳代で「どちらともいえない」と回答する者が多く、自らの意見を確定できていないことが予想される。

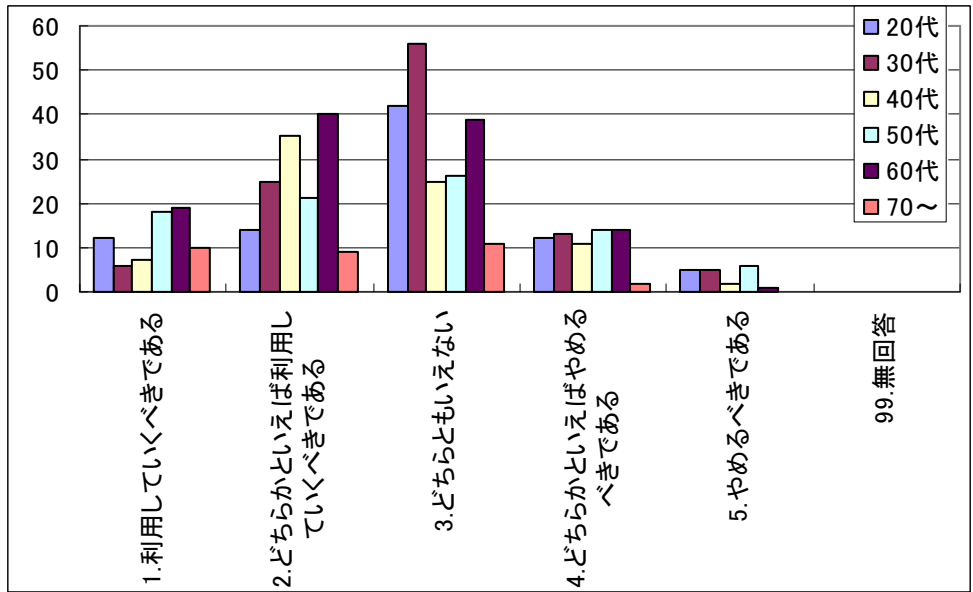
Q6. あなたは、今後、原子力発電を利用してゆくべきだと考えますか、それともやめるべきだと考えますか。



全回答者の結果



男女別の結果



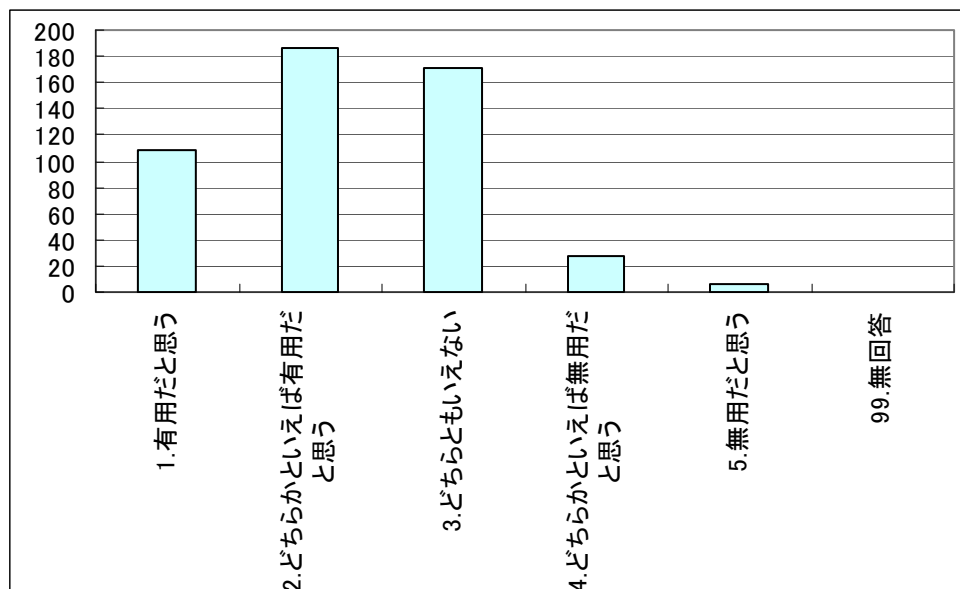
年齢別の結果

### 3) 原子力発電の有用性

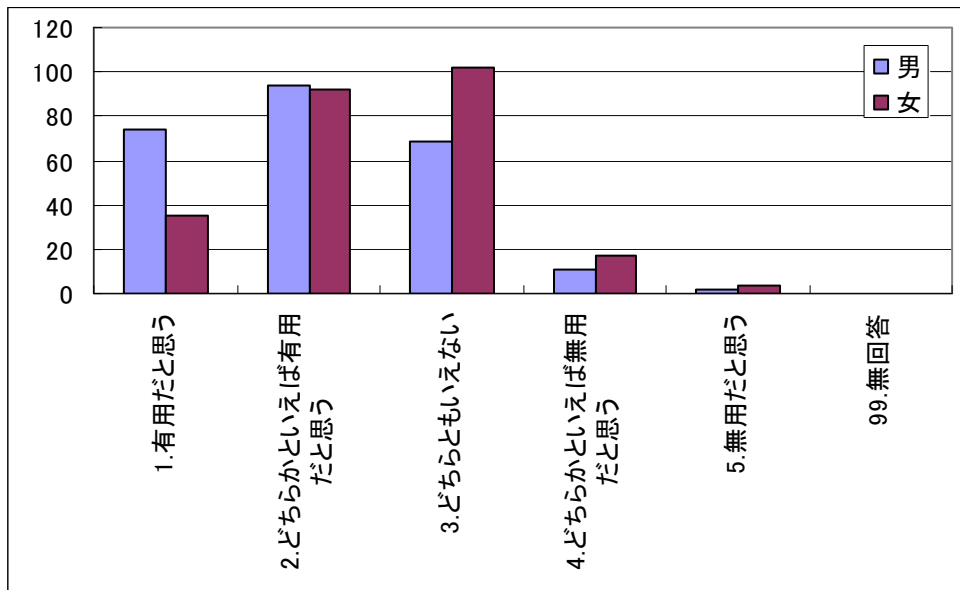
およそ6割の回答者が、原子力発電が有用であると回答している。一方、無用であると回答する者は、1割にも満たない。(6.8%)

20歳代、30歳代で「どちらともいえない」と回答する者が多く、自らの意見を確定できていないことが予想される。

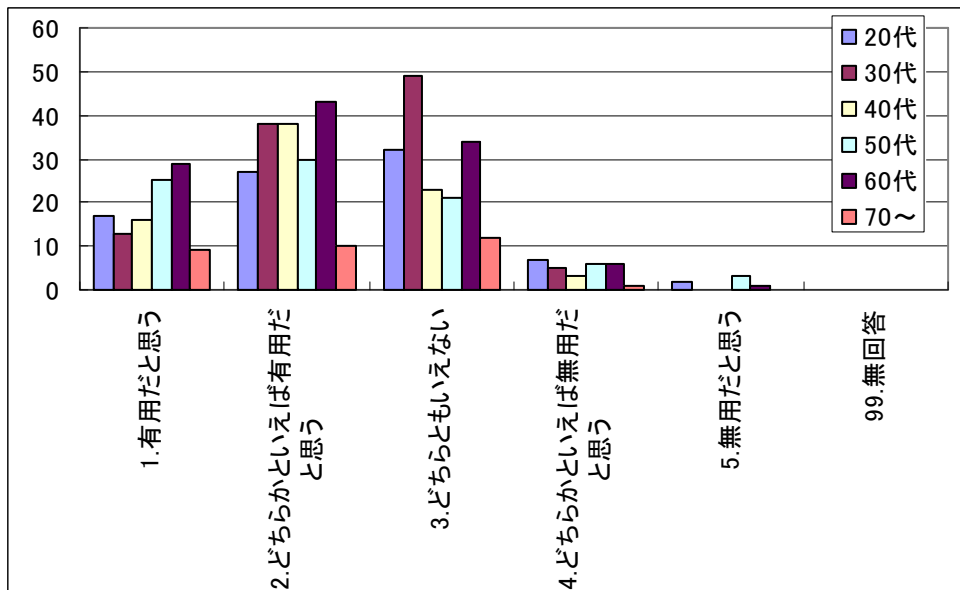
Q7. あなたは、原子力発電は今日の社会や人びとの生活にとって有用だと思いますか、それとも無用だと思いますか。



全回答者の結果



男女別の結果

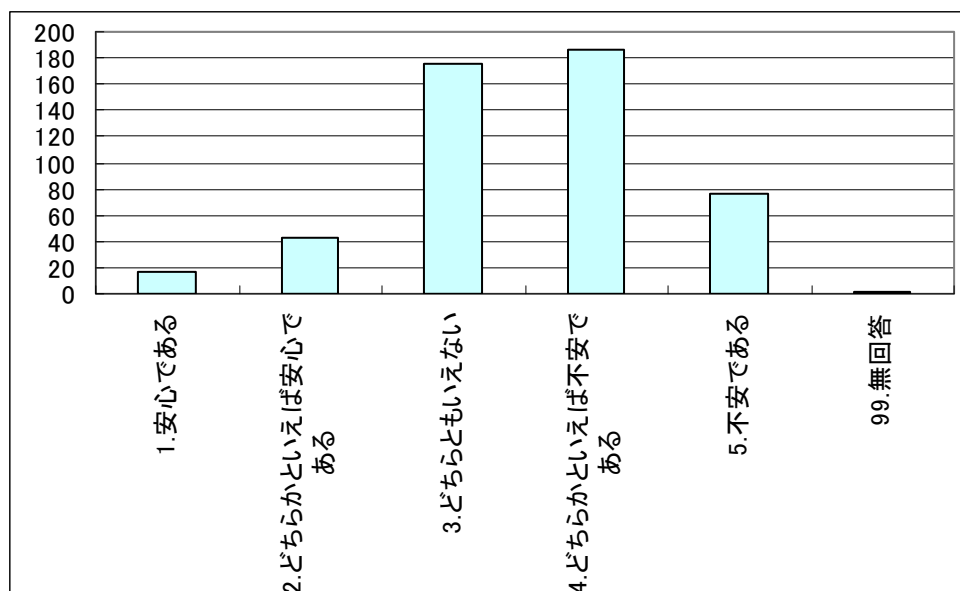


年齢別の結果

#### 4) 原子力発電に対する安心感

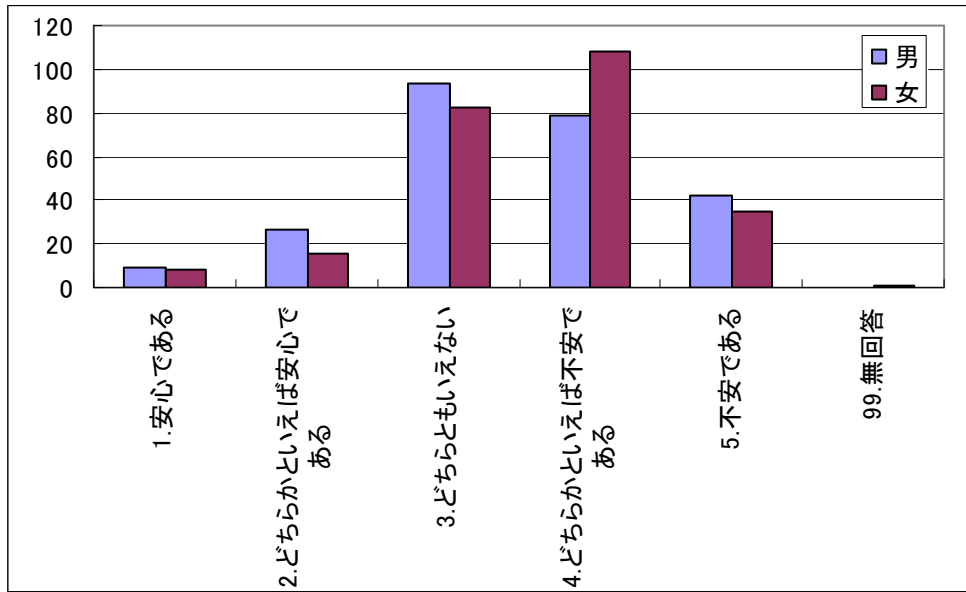
原子力発電に対して不安と回答する者は、5割を越える。一方、安心であると回答するものは1割程度である。また、原子力発電に対して不安感を抱くものの割合は、女性の方が高い。

Q 8. あなたは原子力発電の利用について、安心ですか、それとも不安ですか。

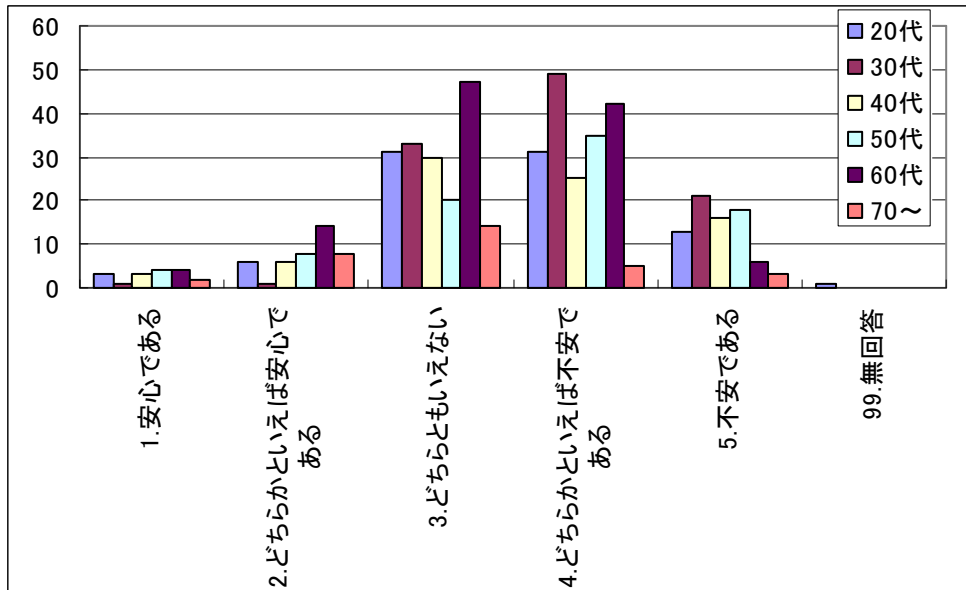


全回答者の結果





男女別の結果

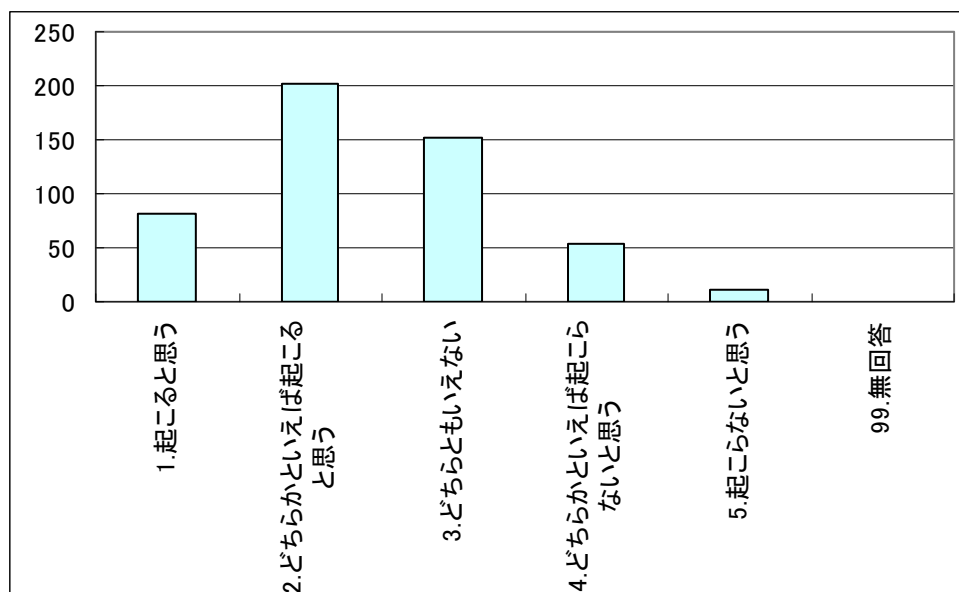


年齢別の結果

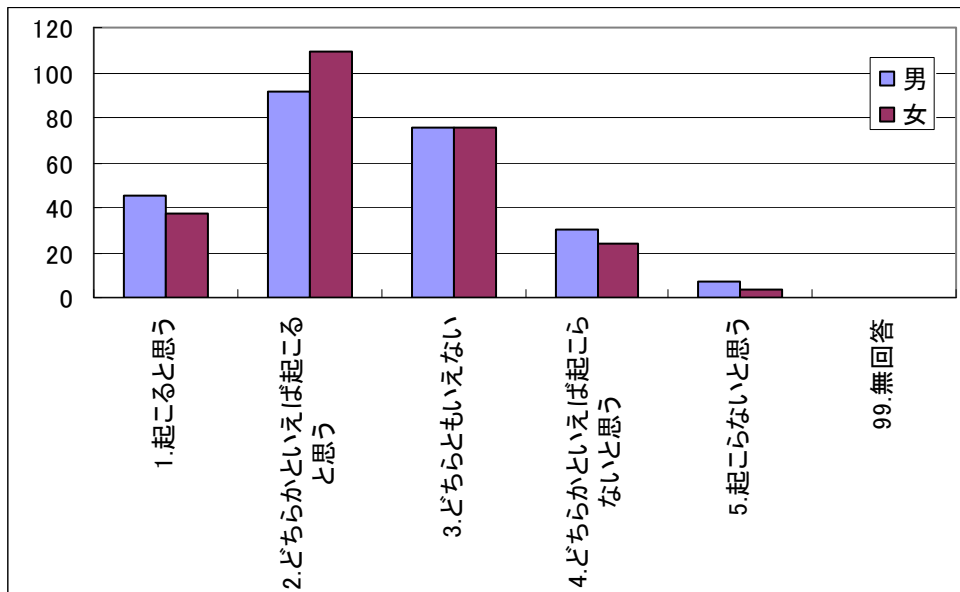
## 5) 原子力事故の可能性の認識

今後 100 年間に放射性物質が原子力発電施設から外へ漏れて、一般の人びとが死亡するような事故が起こると思っている回答者が 56.6%に達する。一方、起こらないと思う回答者は 13%である。この設問に関して、男女の差はあまりみられないが、どちらかといえば、女性のほうが事故が起こると感じているようである。

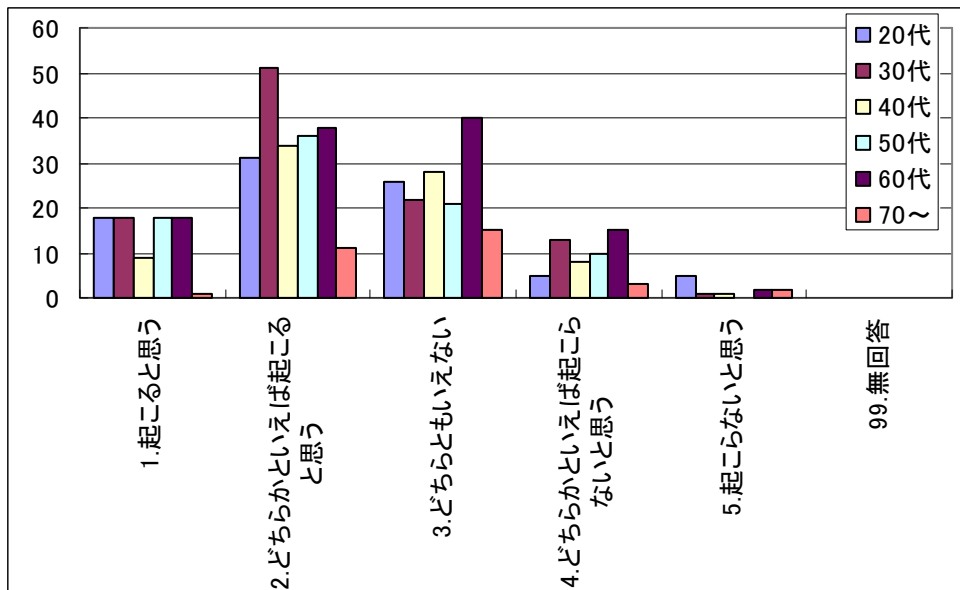
Q 9. あなたは、日本で今後 100 年の間に、原子力発電施設から放射性物質が敷地外に漏れて、一般の人びとが死亡するような事故が起こると思いますか、それとも起こらないと思いますか。



全回答者の結果



男女別の結果



年齢別の結果

## 6) 原子力発電の利用に係わる意見について

以下に、原子力発電の利用に係わる人びとの認識を示す。

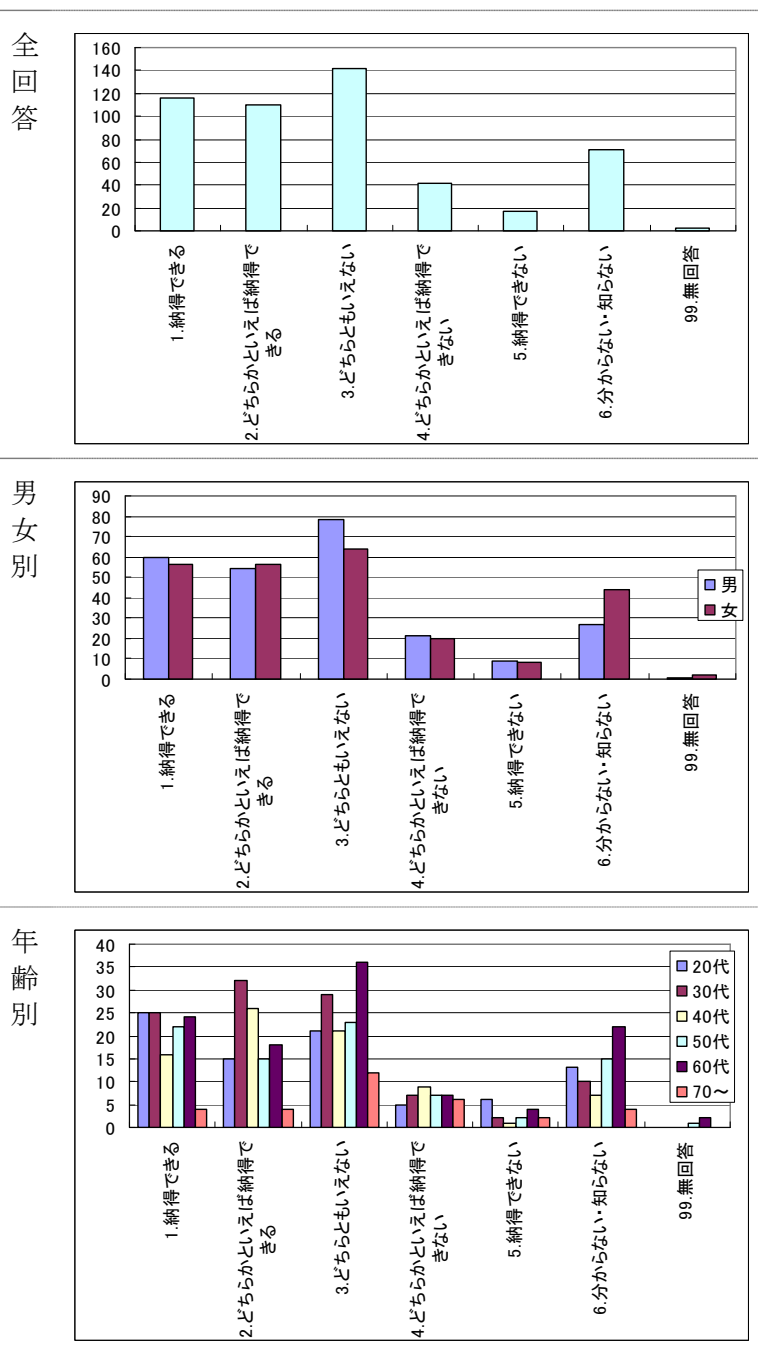
- 原子力発電なしで電力を十分供給できるとは思っておらず、また、原子力が CO2 を排出せず、地球温暖化に貢献していることは認識している。
- 一方で、発電所の運転年数増加に伴って、安全性が低下していると感じている。
- 本調査は中越沖地震の前に実施されているが、それでも、地震国に原子力発電所は危険であると認識している。
- 放射性廃棄物の処分に関しては、早急に対応しなければならないが、その実現はしばらく難しいと認識している。また、再処理によって、プルトニウムは抽出すべきではないと認識している。
- 今後は新エネルギーの開発・育成に力を入れるべきと認識している。

また、再処理に関する事項、放射性廃棄物処分に関する事項、CO2 抑制に関する事項に対して、「わからない・知らない」と回答する者が多い。具体的には、再処理に関する事項（ケ）36.0%、（ア）14.2%、放射性廃棄物処分に関する事項（コ）17.0%、（サ）19.6%、CO2 抑制に関する事項（ウ）15%となっている。これらの質問は「どちらともいえない」と回答する者も多く、判断に対してグレーゾーンの領域が大きい。

Q10. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。

あなたは納得できますか、納得できませんか。

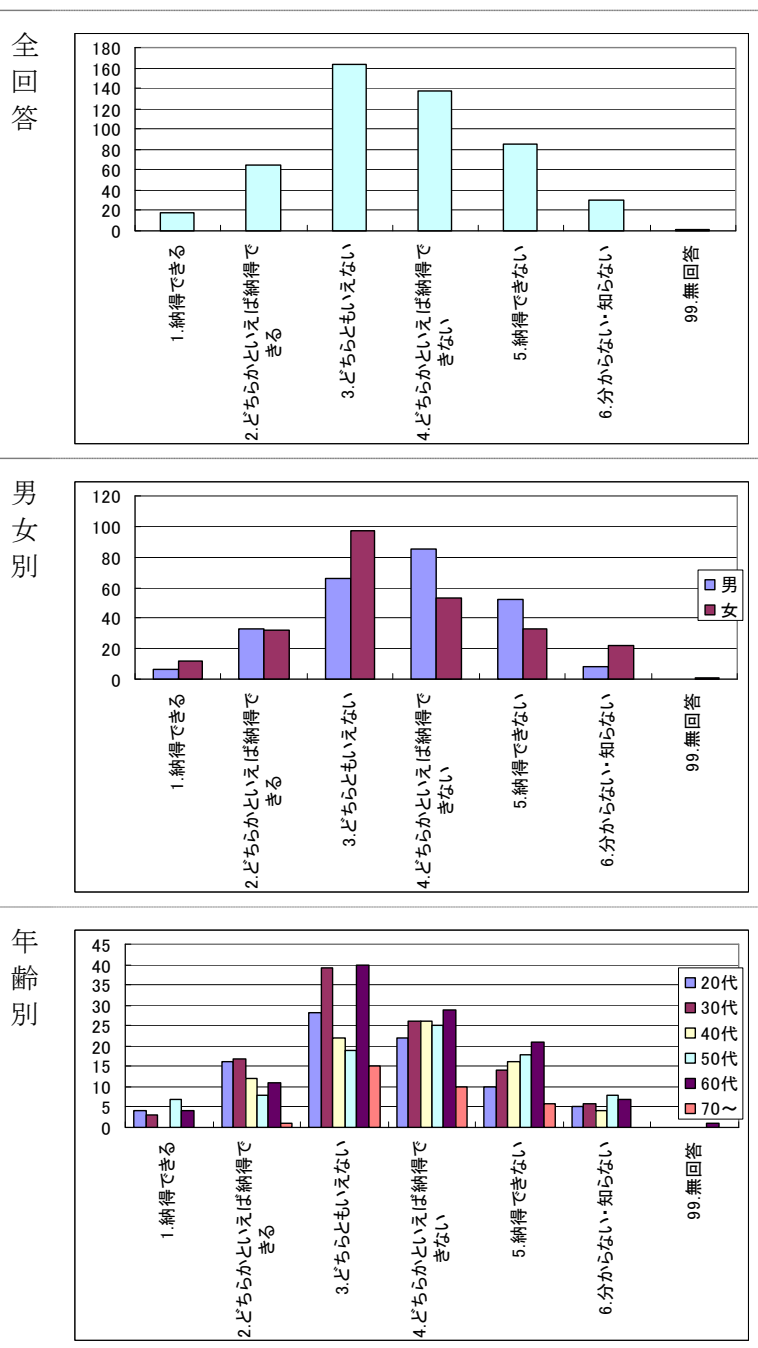
(ア) 使用済み燃料を再処理することによって、核兵器に使用される可能性のあるプルトニウムを抽出すべきでない



Q10. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。

あなたは納得できますか、納得できませんか。

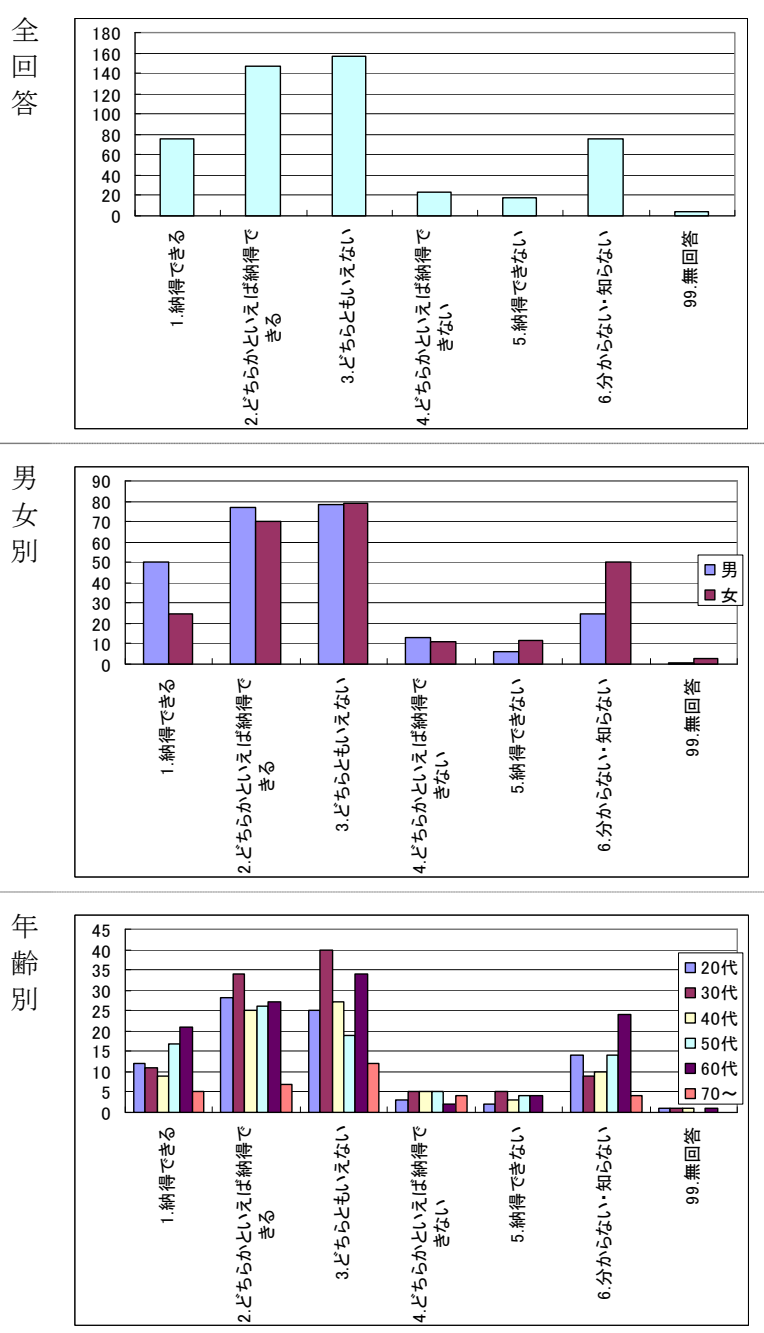
(イ) 原子力発電がなくても、電力は十分供給できる



Q10. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。

あなたは納得できますか、納得できませんか。

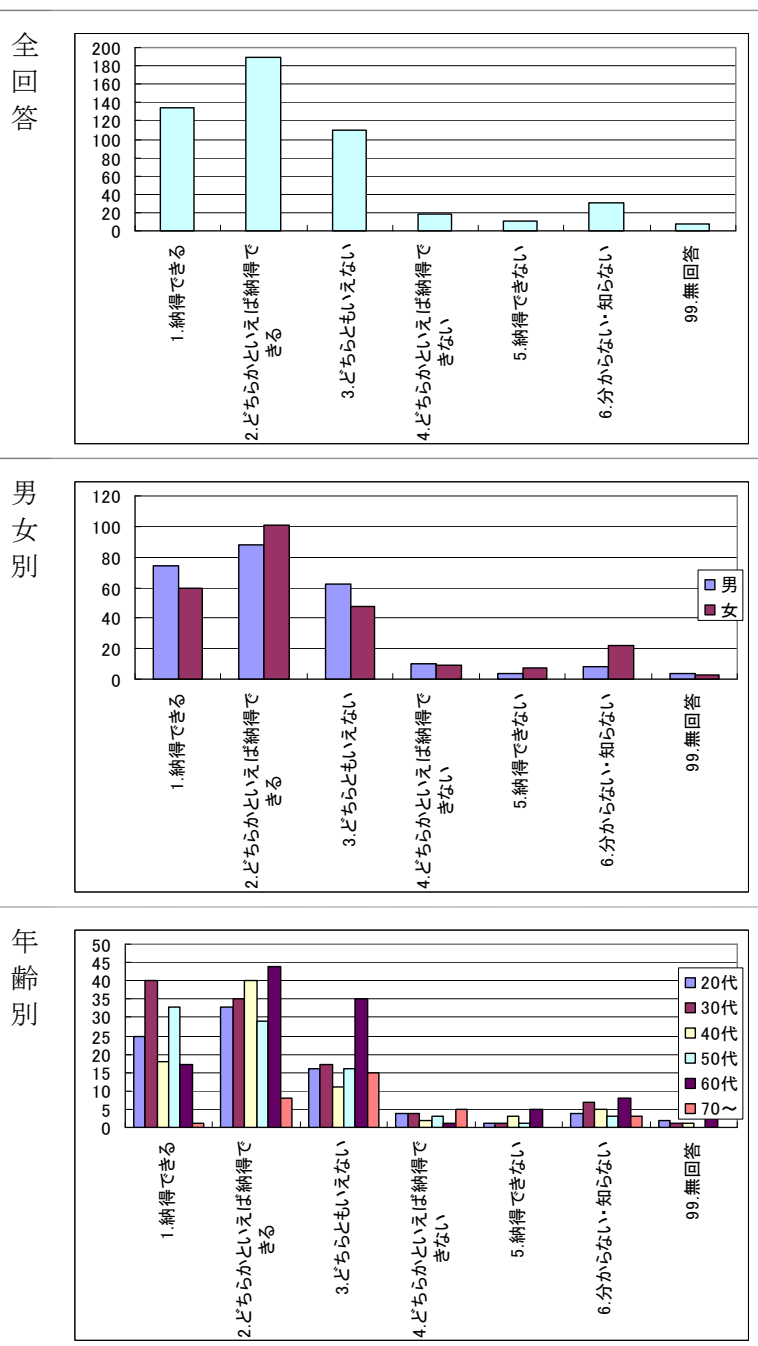
(ウ) 原子力発電は、発電の際に二酸化炭素 (CO2) を出さないのので、地球温暖化の防止に貢献できる



Q10. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。

あなたは納得できますか、納得できませんか。

(エ) 原子力発電は、放射性物質による環境汚染の恐れがある

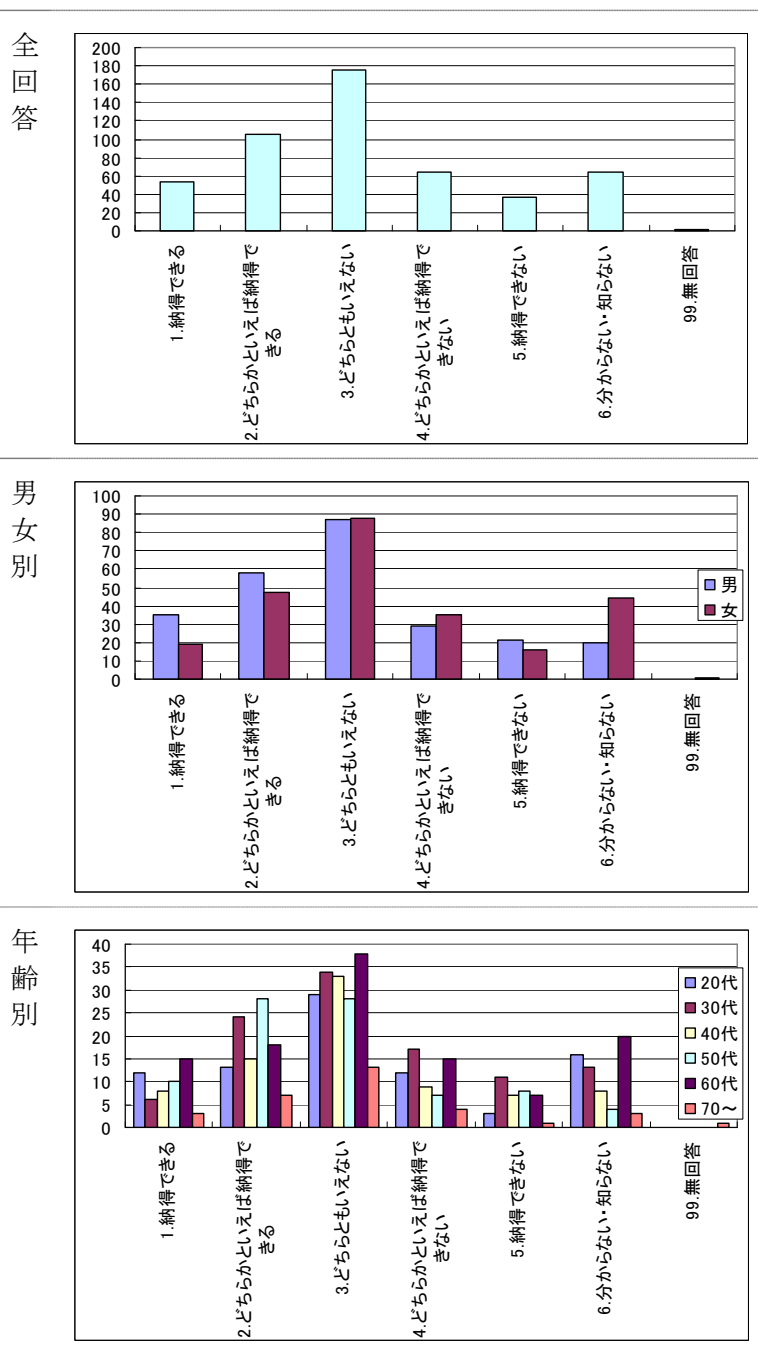




Q10. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。

あなたは納得できますか、納得できませんか。

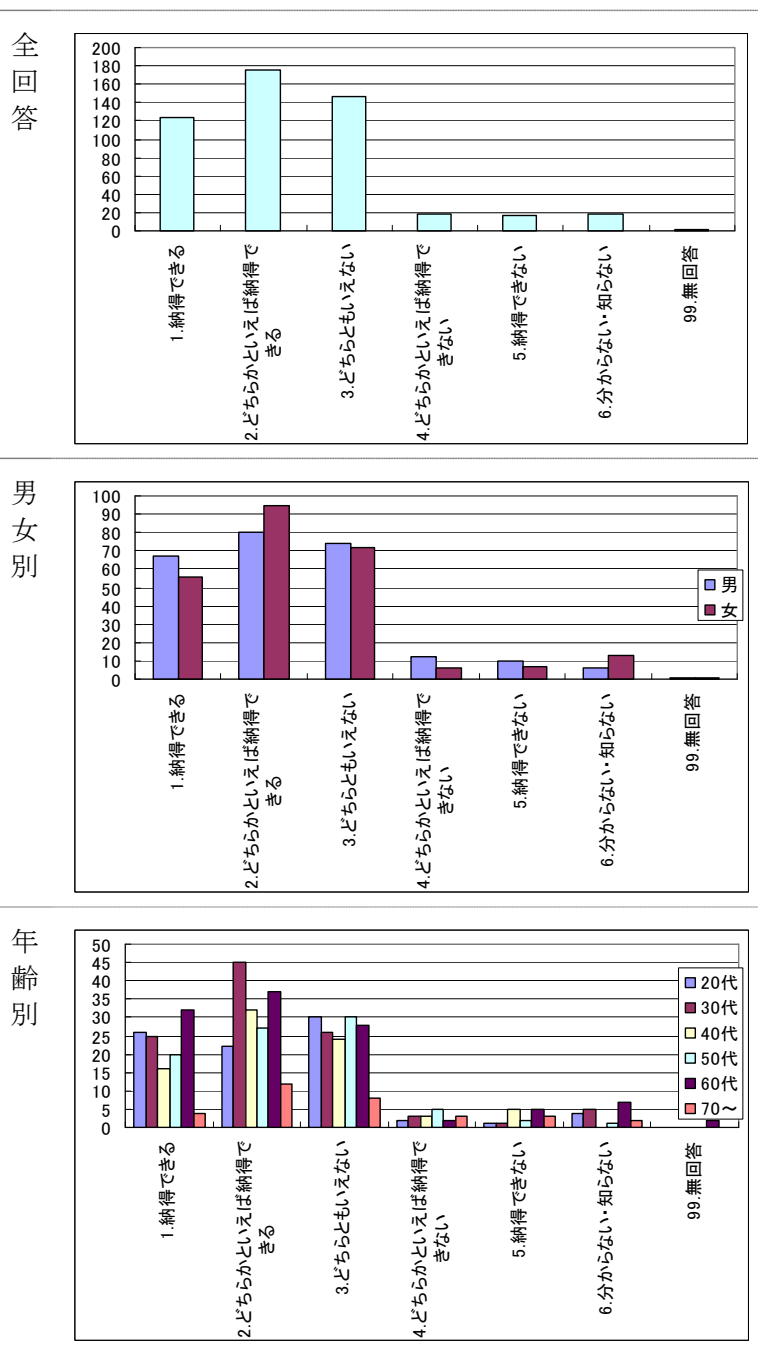
(オ) 日本での原子力発電による現在の発電量を考えると、近い将来に原子力発電に代わる発電方法はない



Q10. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。

あなたは納得できますか、納得できませんか。

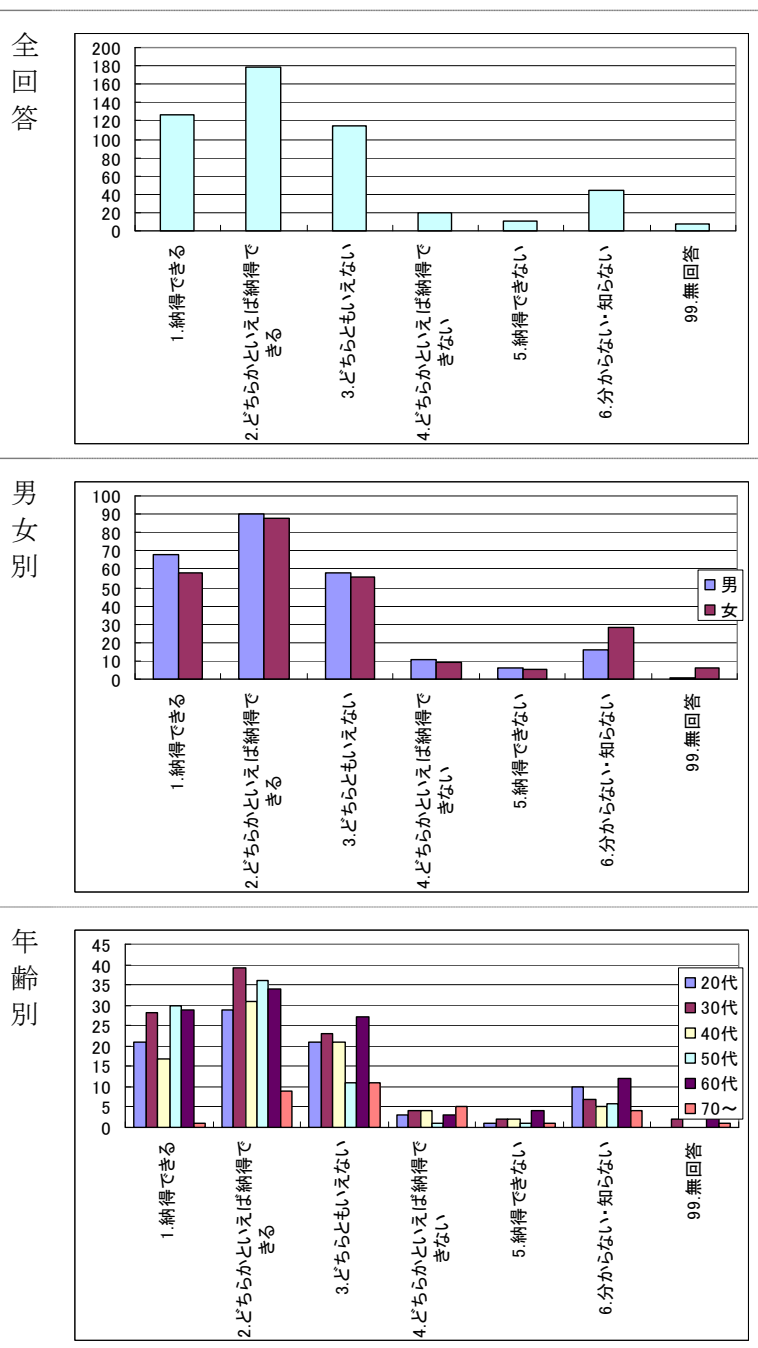
(カ) 原子力発電の技術開発より、新しいエネルギーの開発と育成に重点をおくべきだ



Q10. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。

あなたは納得できますか、納得できませんか。

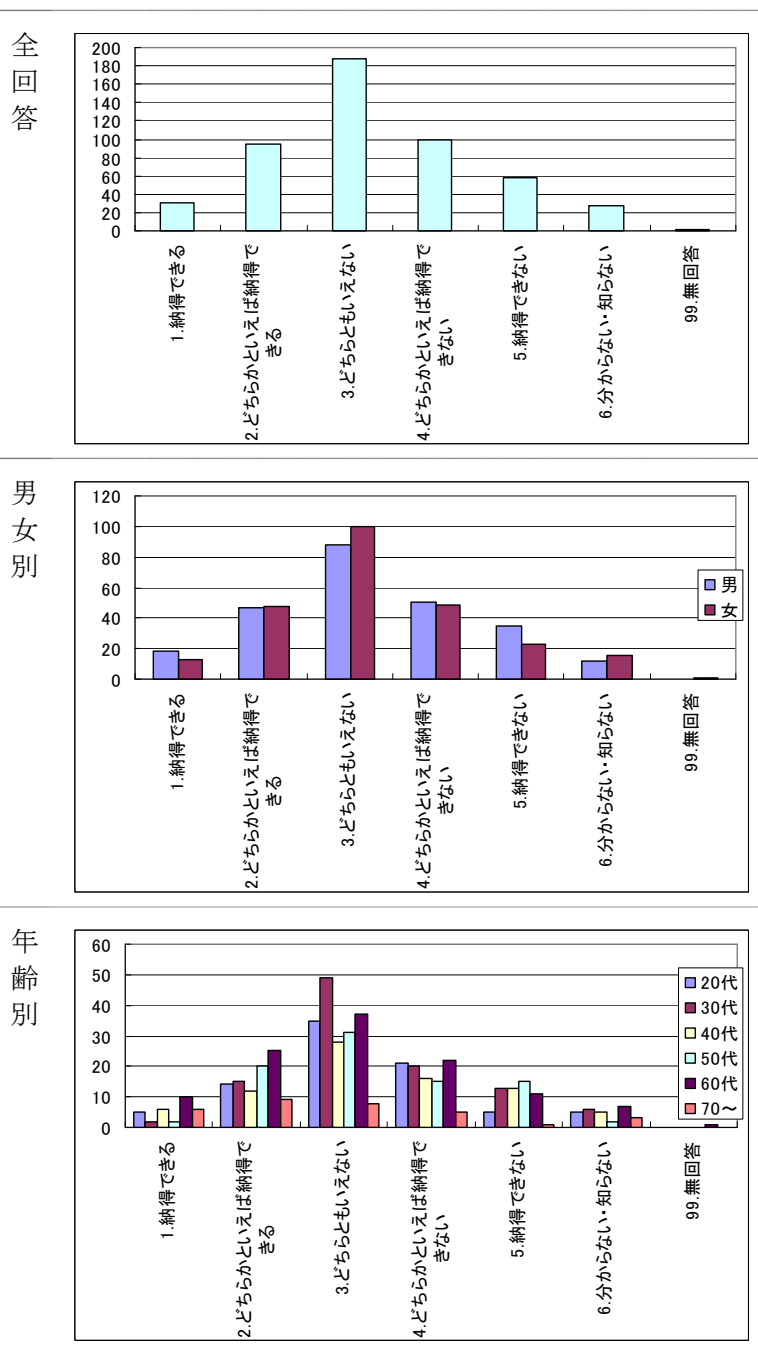
(キ) 運転年数が長い原子力発電所が増えているので、安全性は低下している



Q10. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。

あなたは納得できますか、納得できませんか。

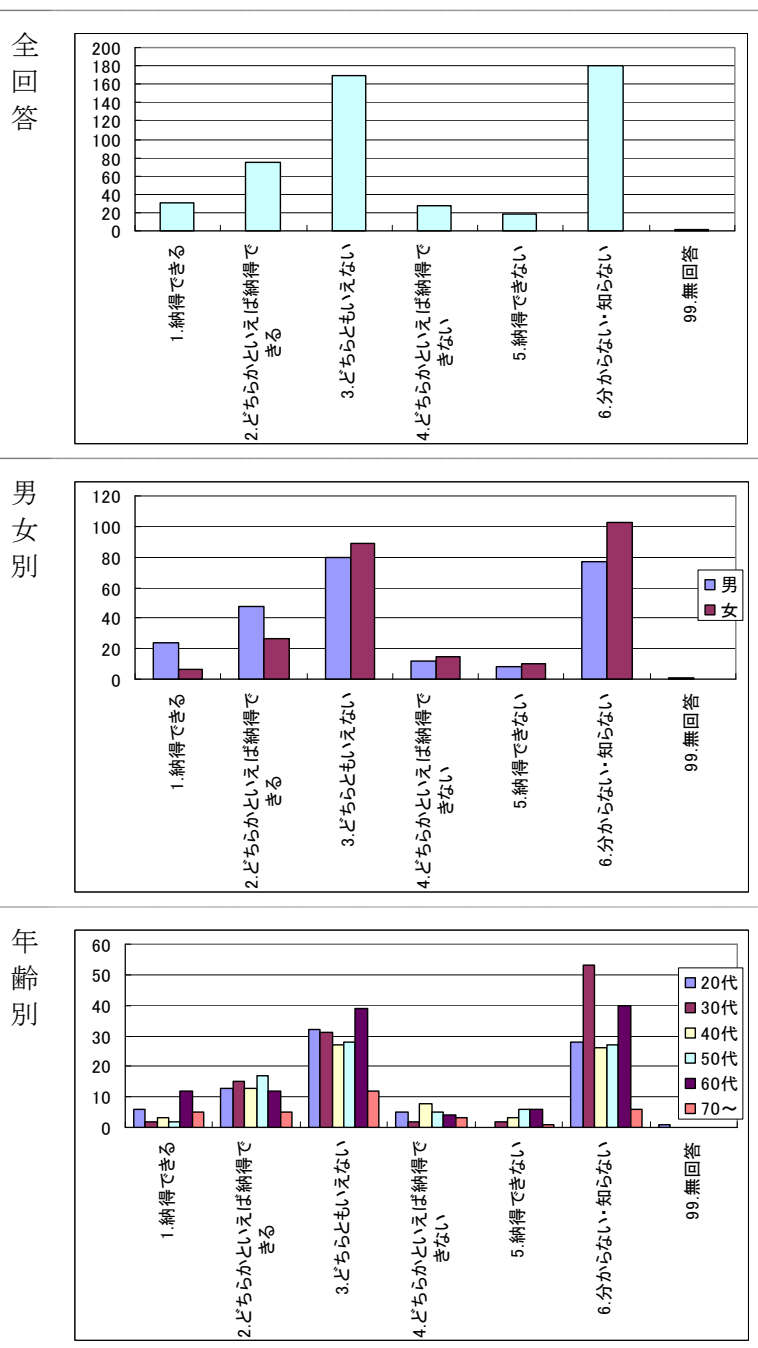
(ク) 原子力に携わる人たちの安全確保に対する意識や努力を信頼している



Q10. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。

あなたは納得できますか、納得できませんか。

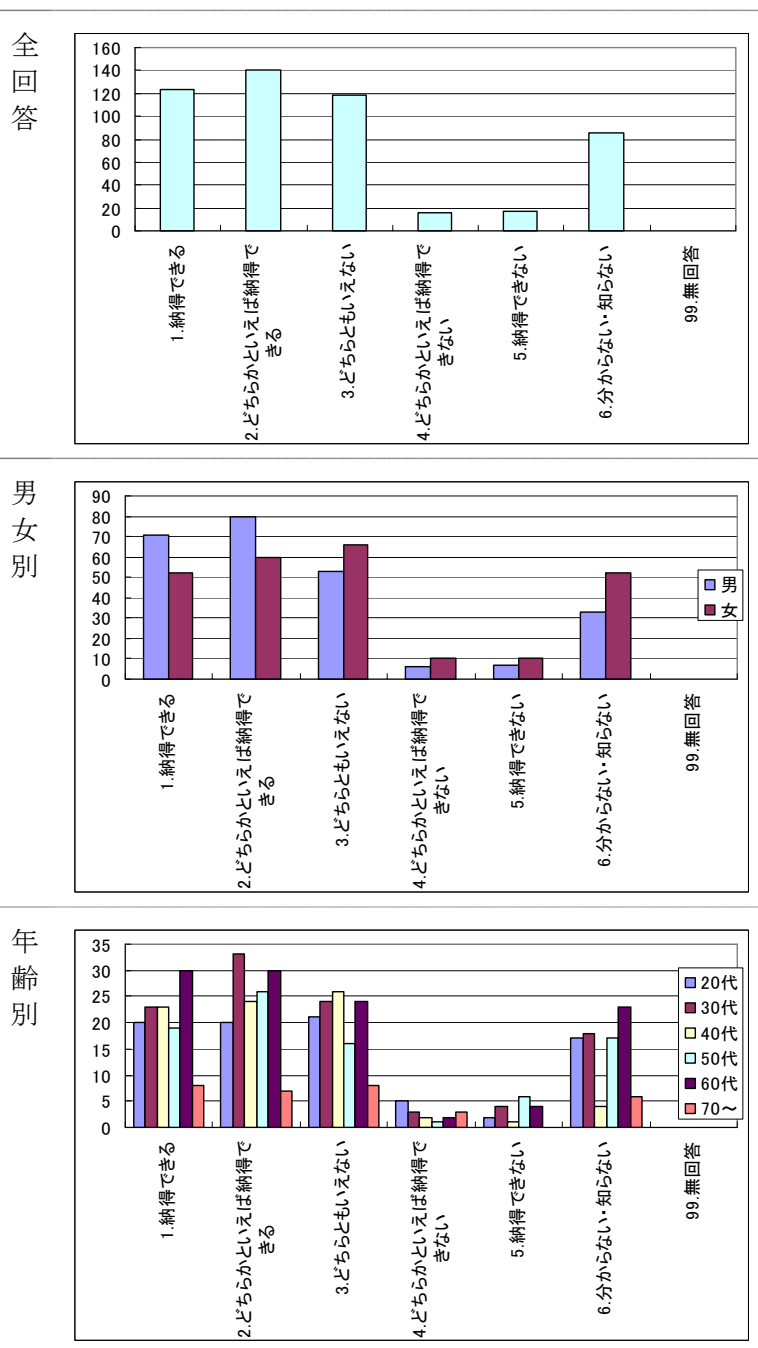
(ケ) 使用済み燃料を再処理することによって、ウラン資源を半永久的に発電に利用することができる



Q10. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。

あなたは納得できますか、納得できませんか。

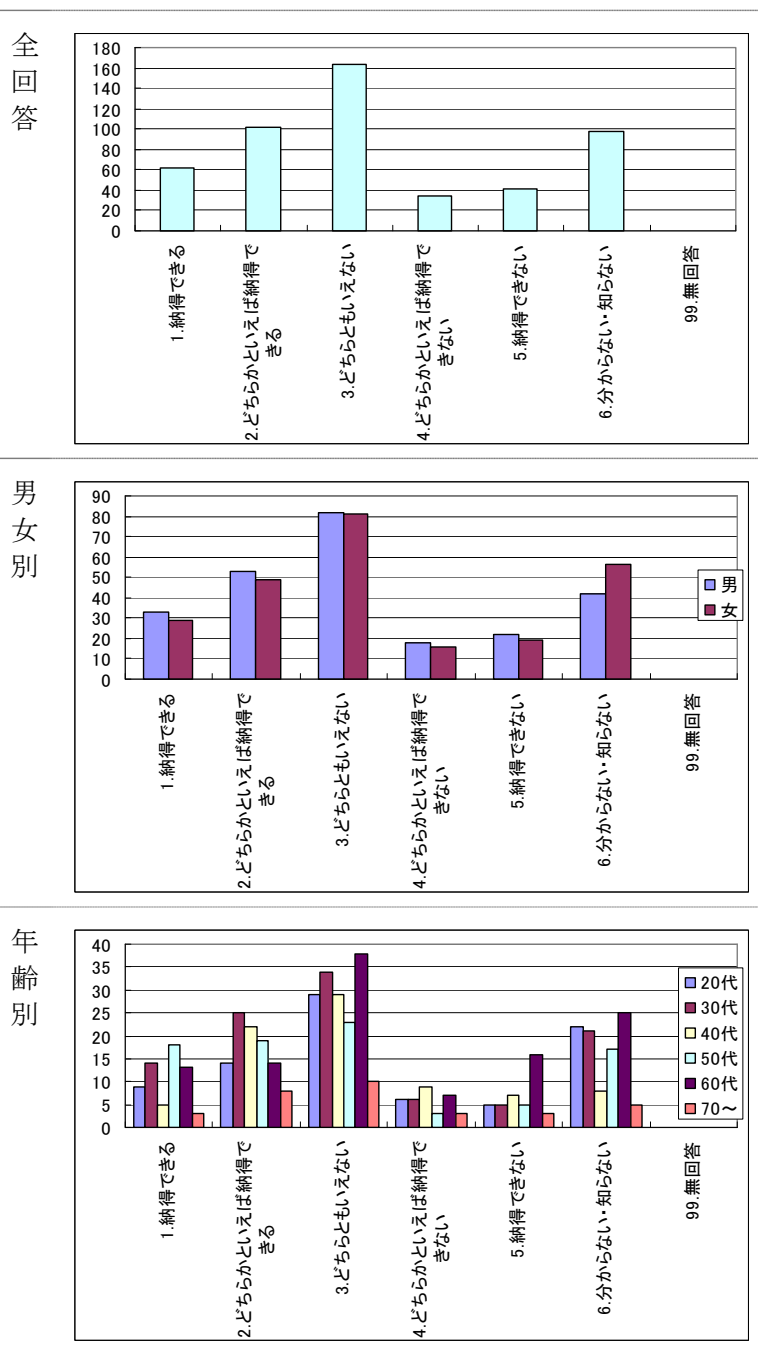
(コ) 高レベル放射性廃棄物の最終処分地を早急に決定しなければならない



Q10. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。

あなたは納得できますか、納得できませんか。

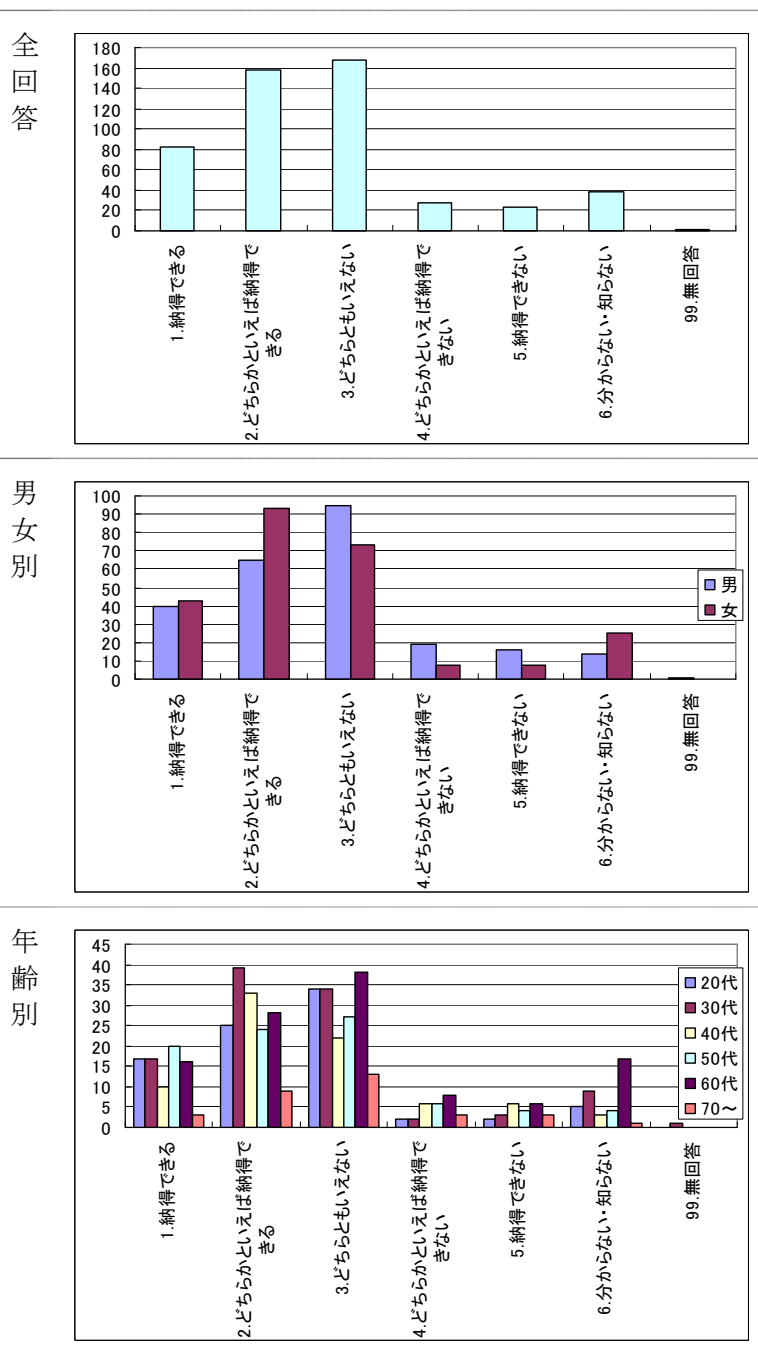
(サ) 高レベル放射性廃棄物の最終処分地は、当分の間決定できない



Q10. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。

あなたは納得できますか、納得できませんか。

(シ) わが国のような地震国に原子力発電所は危険である





## 2 エネルギー・原子力に関する専門家調査の実施

平成 18 年度に「エネルギーと原子力に関するアンケート」第 1 回専門家調査を実施した。その際と同じ調査票を用いて、第 2 回専門家調査（以下、単に専門家調査という）を実施した。

### (1) 実施概要

時 期：2008 年 1 月～2 月

対 象：日本原子力学会員

方 法：無作為抽出 1,400 名に対し、郵送調査

回収数：591 名（42%）

### (2) フェースの分析

専門家調査の回答者の性別および年齢の分布は表 2-2、表 2-3 のとおり。

表 2-2 専門家調査の回答者のフェース（男女別・年齢別）

	男性（人）	女性（人）	無回答（人）	計（人）
20～29 歳	20	1	0	21
30～39 歳	72	7	6	85
40～49 歳	136	11	14	161
50～59 歳	148	2	34	184
60～69 歳	62	1	19	82
70 歳以上	43	0	14	57
無回答	0	0	1	1
計	481	22	88	591

表 2-3 専門家調査の回答者のフェース（男女別・職業別）

	男性（人）	女性（人）	無回答（人）	計（人）
大学	37	4	10	51
国や地方の行政機関	8	0	0	8
政府系特殊法人	99	6	14	119
財団法人・社団法人	32	2	3	37
電力会社	72	1	8	81
企業（電力会社を除く）	169	8	30	207
学生	2	0	0	2
無職	44	0	13	57
その他	14	1	9	24
無回答	4	0	1	5
計	481	22	88	591

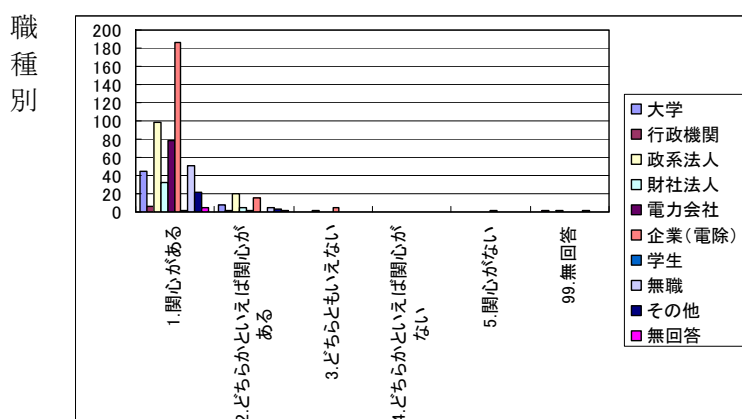
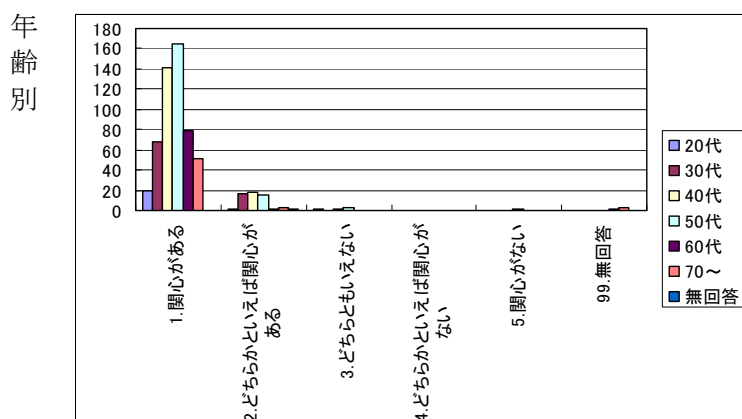
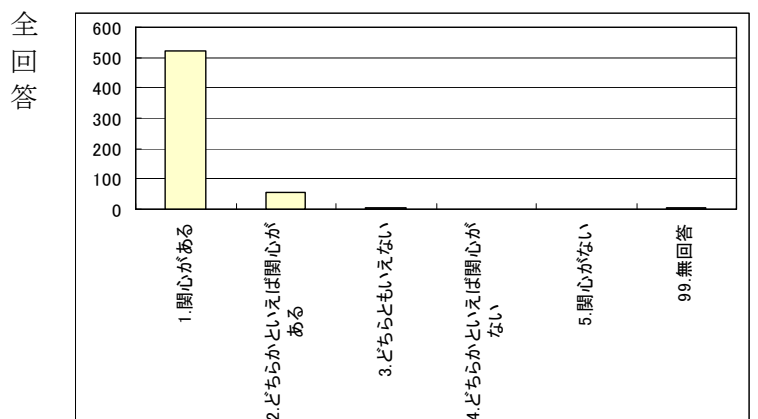
### (3) 分析結果の概要

以下に、原子力に係わる専門家（原子力学会員）回答者の認識を示す。

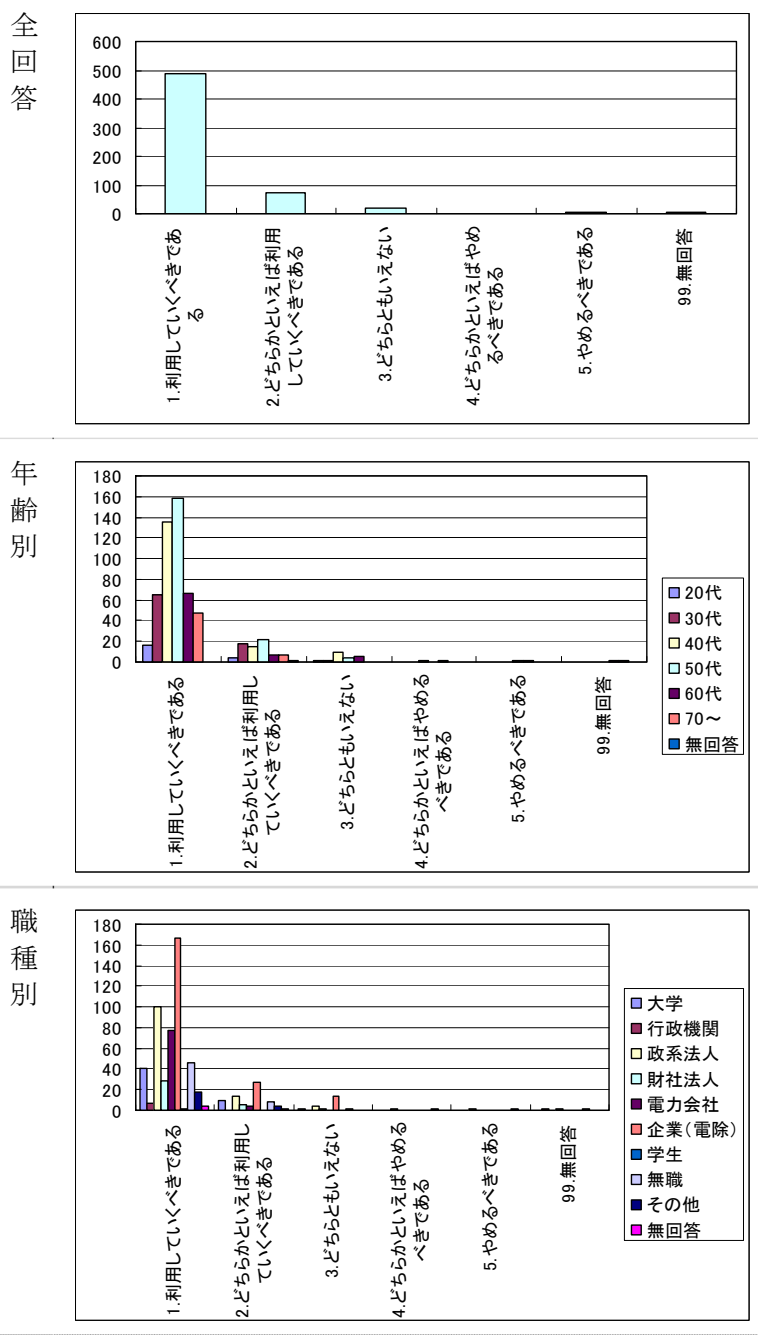
- 原子力発電に対する関心は高い。
- 原子力発電が有用であると認識している。具体的には、現時点において、原子力発電なしでは電力供給できず、近い将来においても原子力発電に代わる発電方法はないと考えている。原子力発電はCO<sub>2</sub>を排出せず、地球温暖化に貢献でき、使用済み燃料を再処理することによって、ウランを半永久的に有効利用できると認識している。プルトニウムを抽出することは容認する姿勢を見せている。今後も原子力発電を利用してゆくべきであると考えている。
- 原子力発電の利用について安心であると認識しており、原子力に携わる人たちの安全確保に対する意識や努力を信頼している。
- 原子力発電による放射性物質の環境汚染の有無については意見が分かれる。しかし、原子力発電施設から放射性物質が漏れて一般の人びとが死亡するような事故は起こらないと考えている。
- 原子力発電所の高経年化に伴う安全性の低下に対しては、意見が分かれる。
- 放射性廃棄物処分の処分場を早く決定すべきと考えているが、最終処分場の決定の時期について、認識がわかれる。
- 大勢は、新エネルギーの開発や育成よりも、原子力発電の技術開発に力を入れるべきと考えているが、一部そうでない回答者も見受けられる。
- 日本のような地震国であっても、原子力発電は安全にやれると認識している。

(4) 結果の詳細

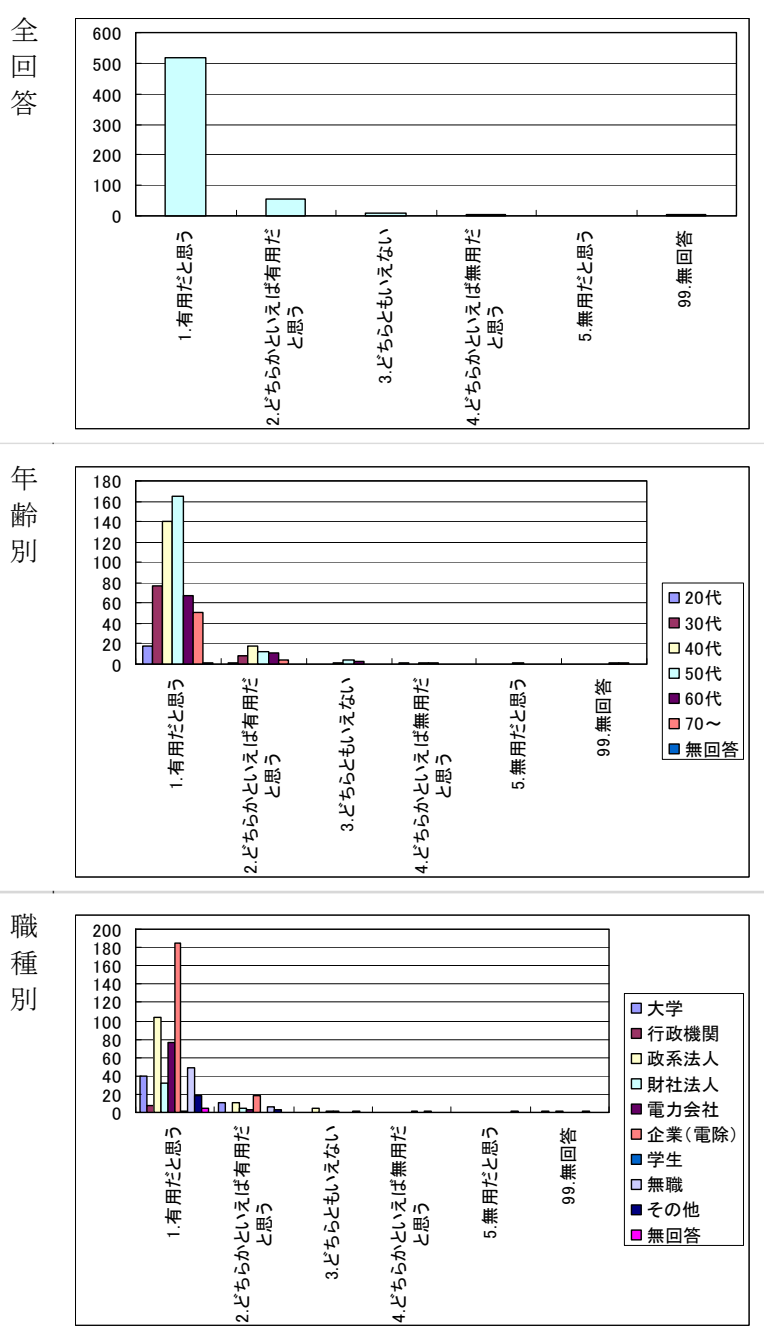
Q 5. あなたは、原子力発電に関心がありますか、それともありませんか。



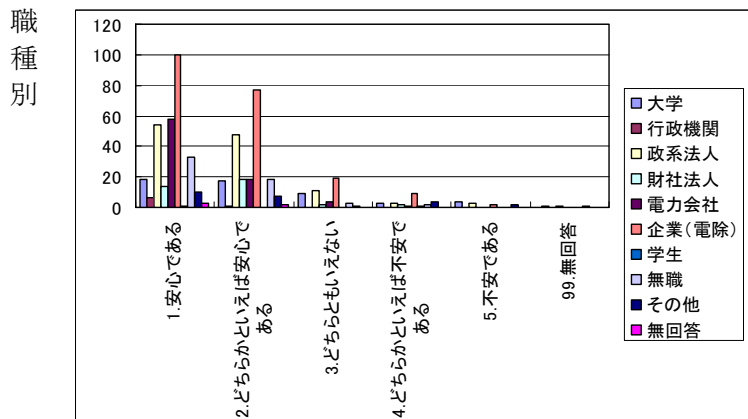
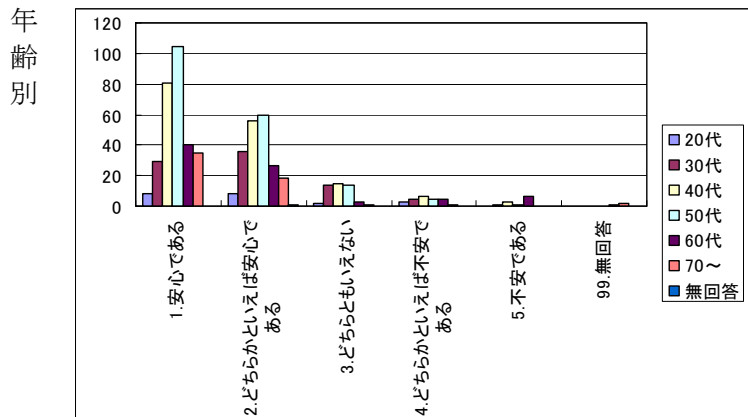
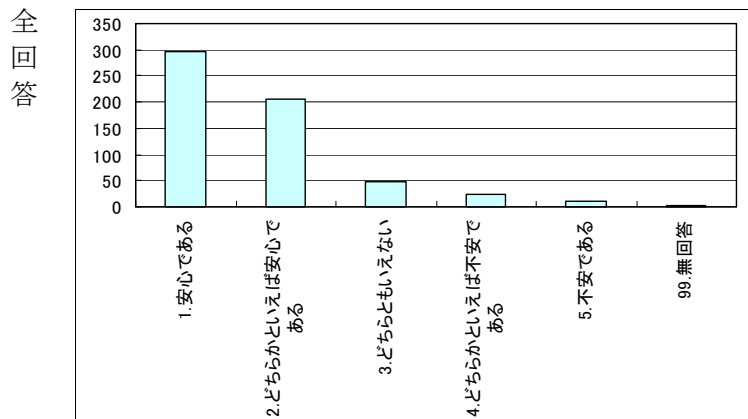
Q6. あなたは、今後、原子力発電を利用してゆくべきだと考えますか、それともやめるべきだと考えますか。



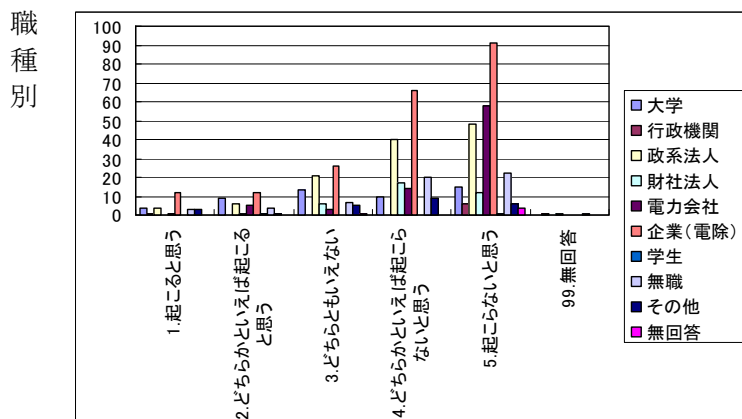
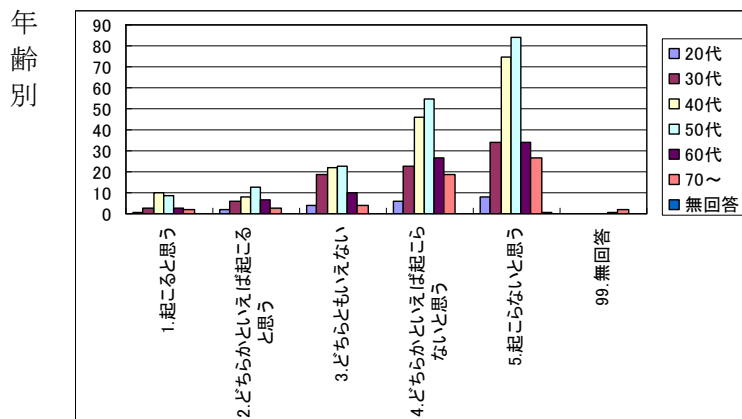
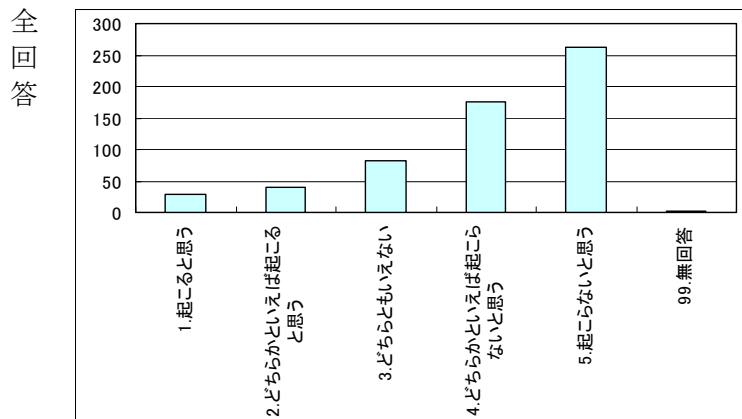
Q7. あなたは、原子力発電は今日の社会や人びとの生活にとって有用だと思いますか、それとも無用だと思いますか。



Q 8. あなたは原子力発電の利用について、安心ですか、それとも不安ですか。



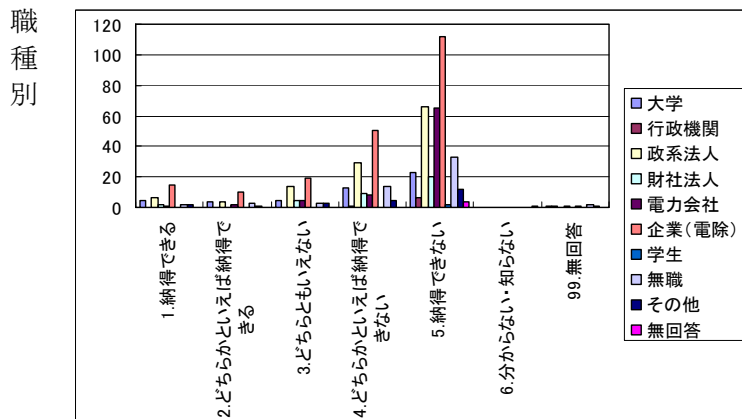
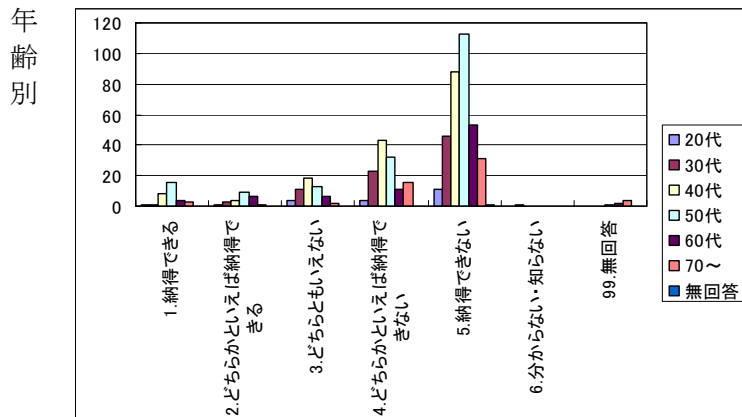
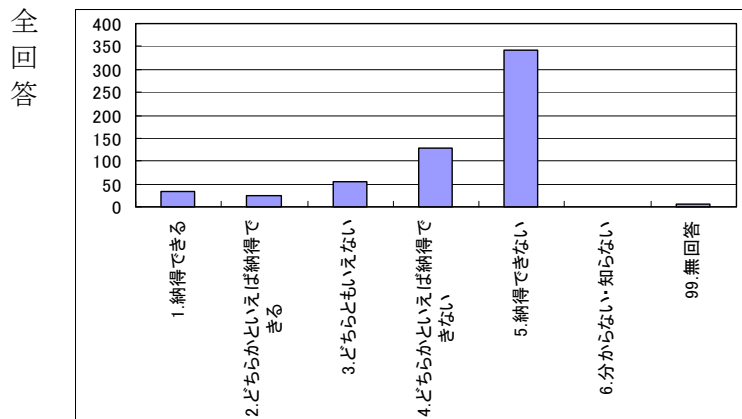
Q9. あなたは、日本で今後100年の間に、原子力発電施設から放射性物質が敷地外に漏れて、一般の人びとが死亡するような事故が起こると思いますか、それとも起こらないと思いますか。





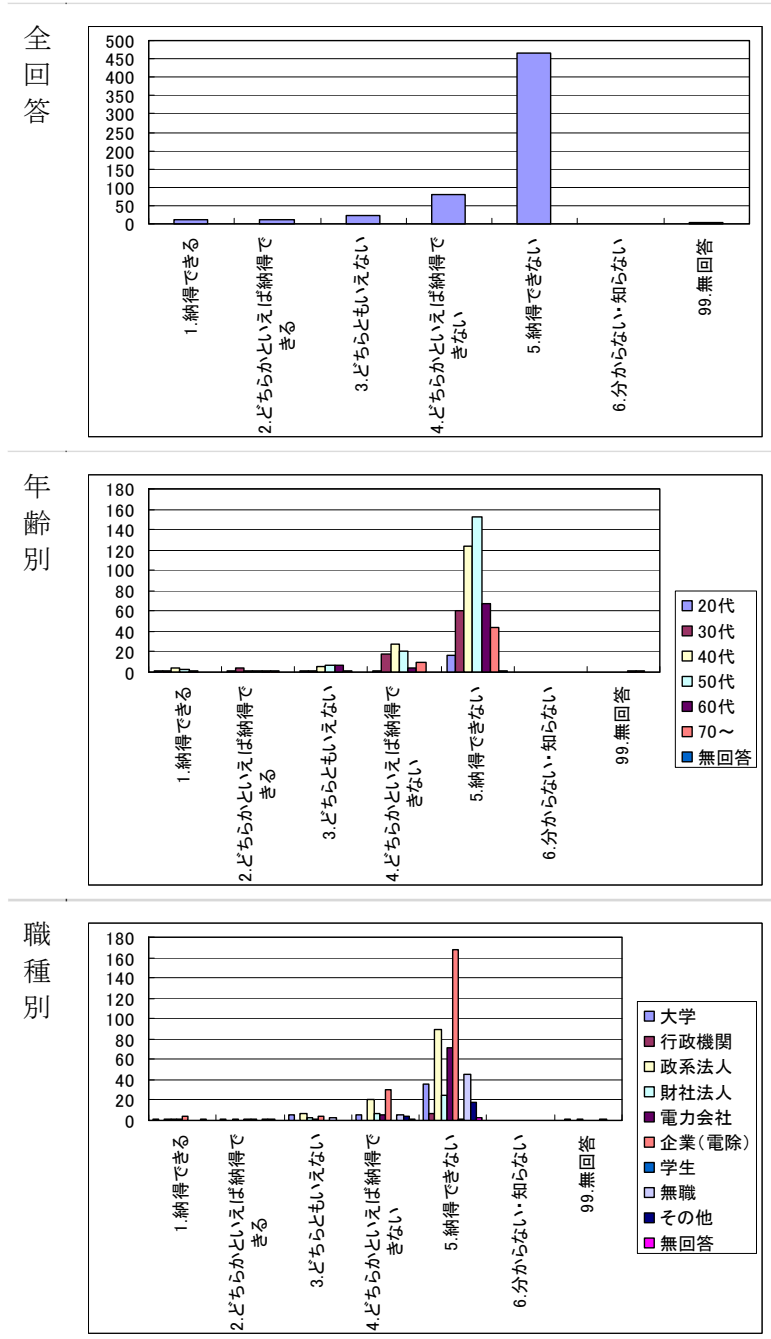
Q10. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。  
あなたは納得できますか、納得できませんか。

(ア) 使用済み燃料を再処理することによって、核兵器に使用される可能性のあるプルトニウムを抽出すべきでない



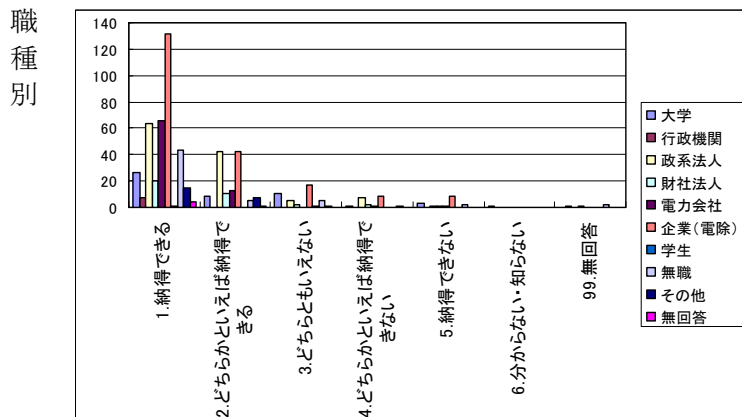
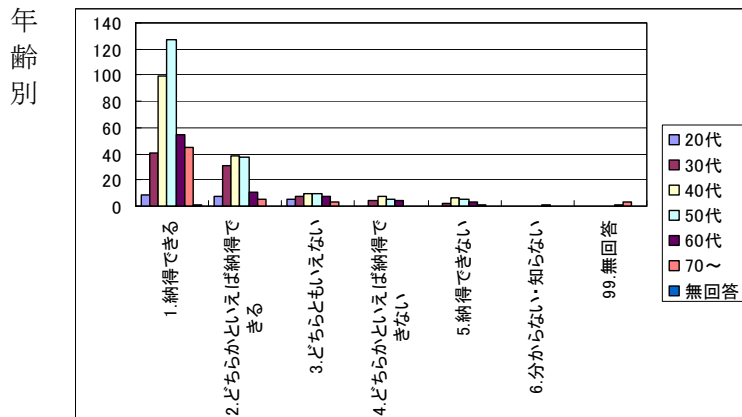
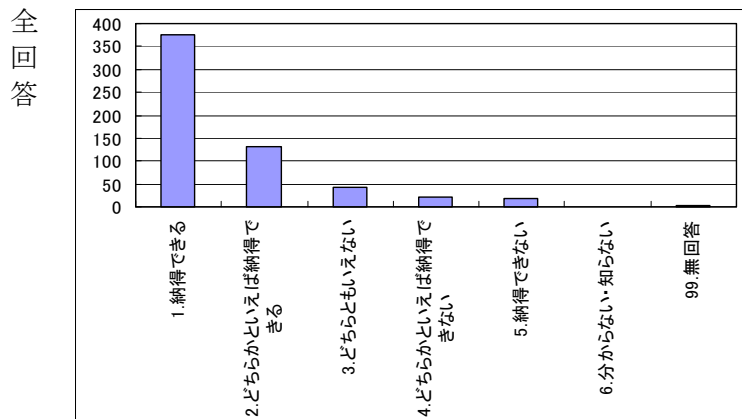
Q10. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。  
あなたは納得できますか、納得できませんか。

(イ) 原子力発電がなくても、電力は十分供給できる



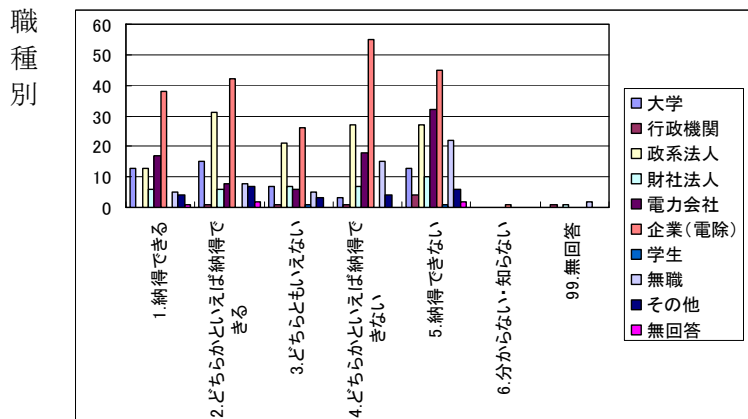
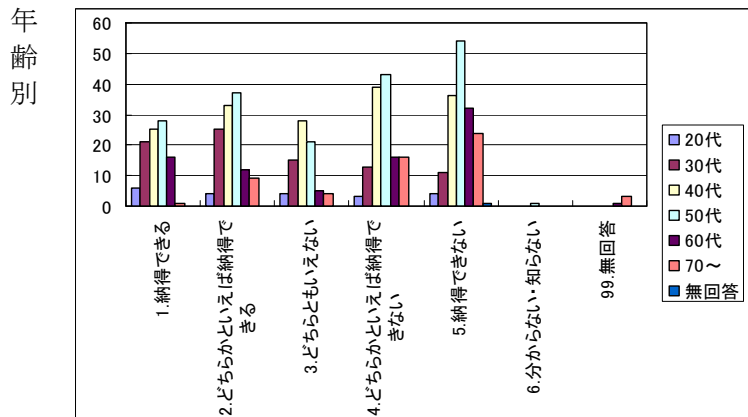
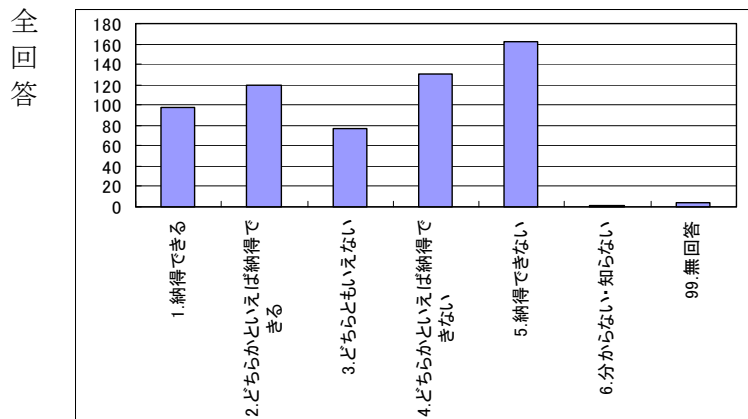
Q10. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。  
あなたは納得できますか、納得できませんか。

(ウ) 原子力発電は、発電の際に二酸化炭素（CO2）を出さないで、地球温暖化の防止に貢献できる



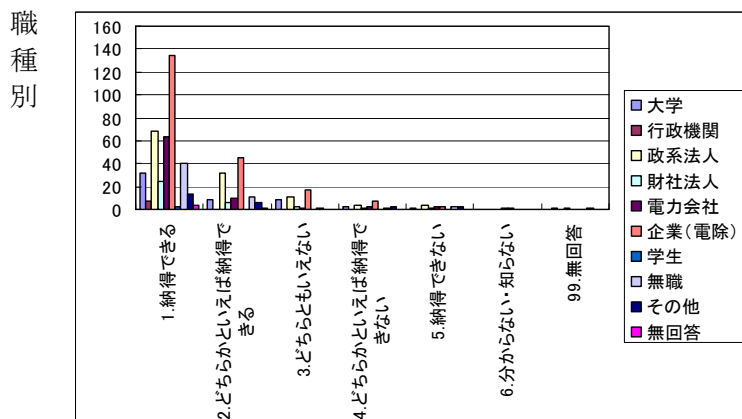
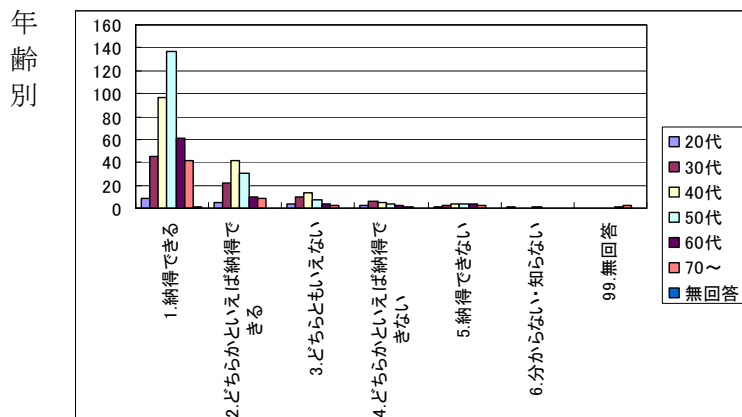
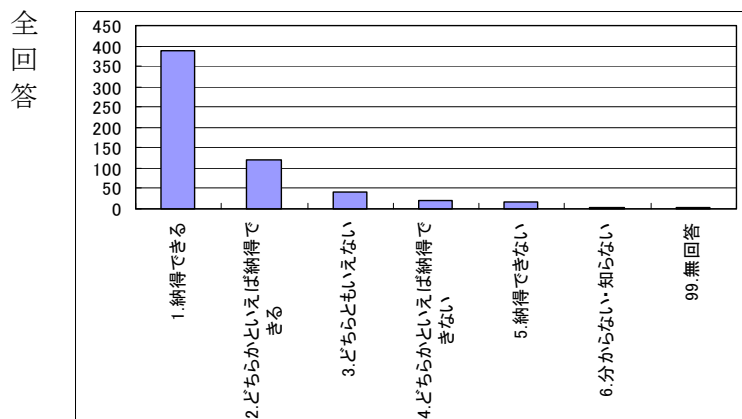
Q10. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。  
あなたは納得できますか、納得できませんか。

(エ) 原子力発電は、放射性物質による環境汚染の恐れがある



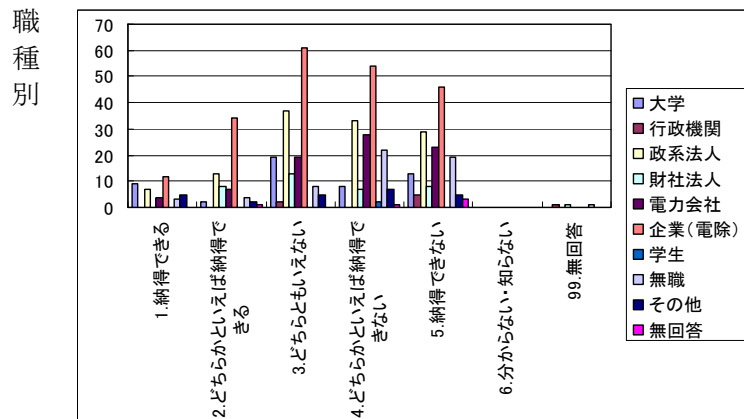
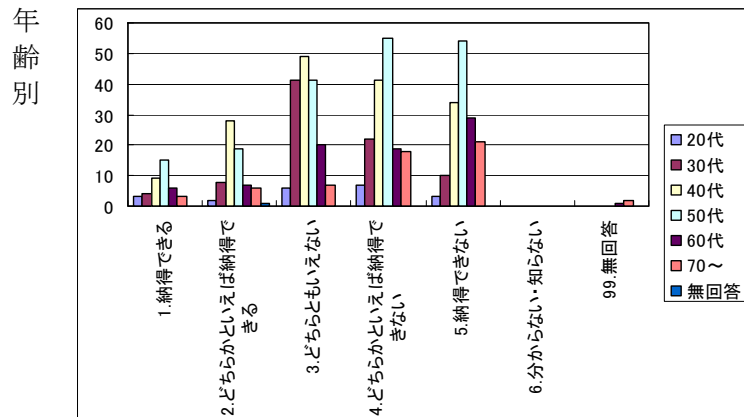
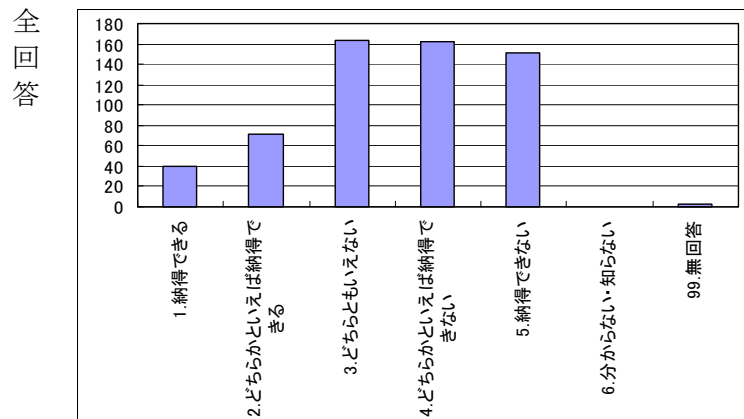
Q10. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。  
あなたは納得できますか、納得できませんか。

(オ) 日本での原子力発電による現在の発電量を考えると、近い将来に原子力  
発電に代わる発電方法はない



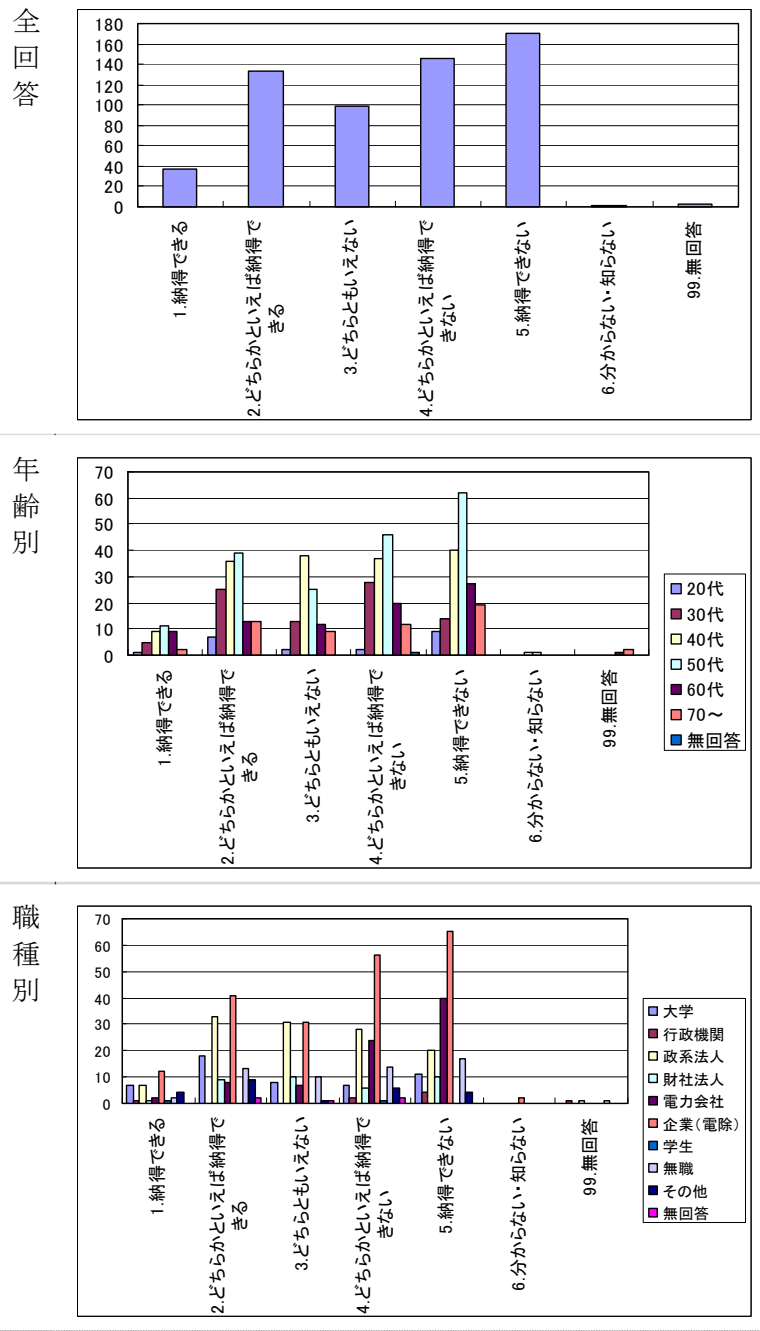
Q10. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。  
あなたは納得できますか、納得できませんか。

(カ) 原子力発電の技術開発より、新しいエネルギーの開発と育成に重点をおくべきだ



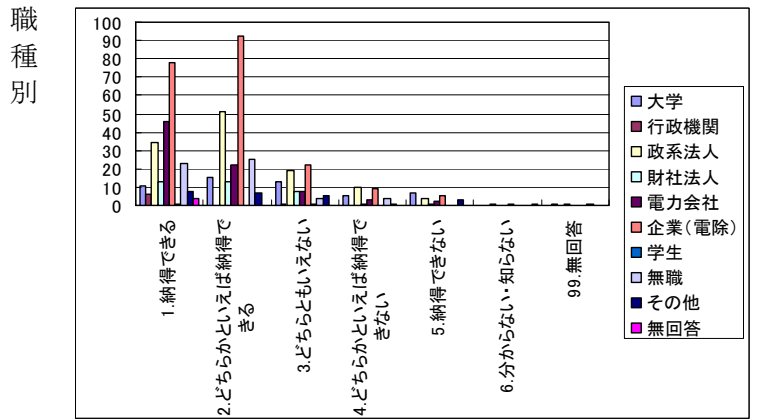
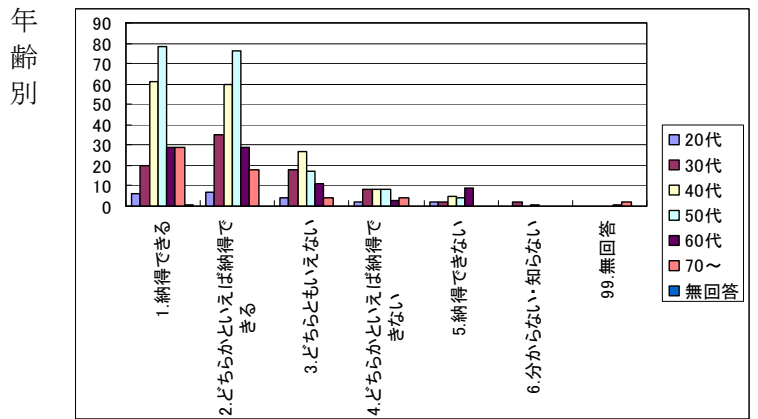
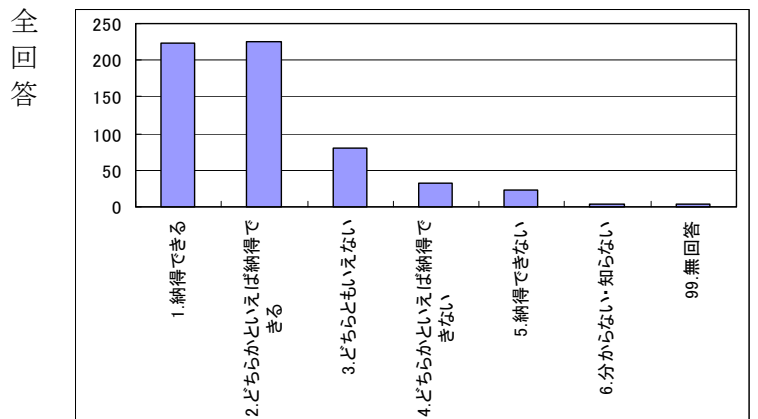
Q10. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。  
あなたは納得できますか、納得できませんか。

(キ) 運転年数が長い原子力発電所が増えているので、安全性は低下している



Q10. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。  
あなたは納得できますか、納得できませんか。

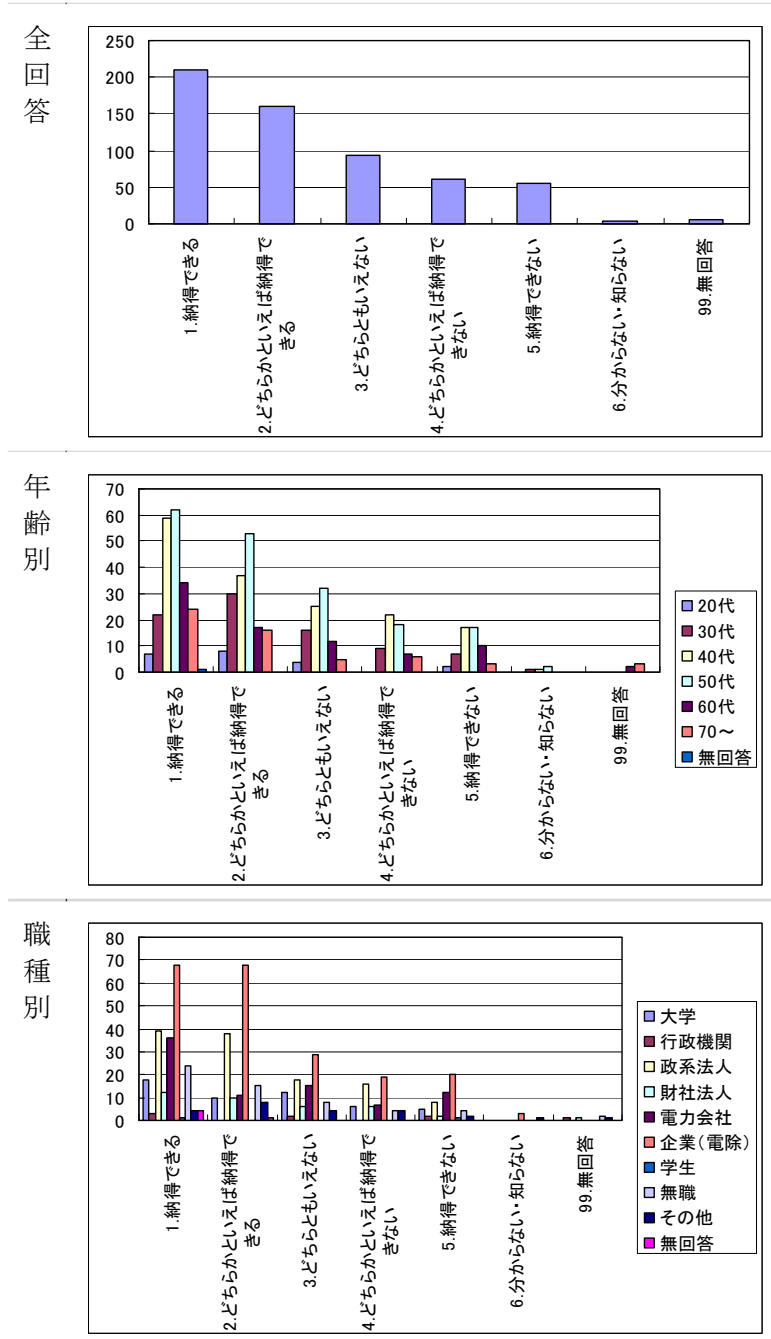
(ク) 原子力に携わる人たちの安全確保に対する意識や努力を信頼している





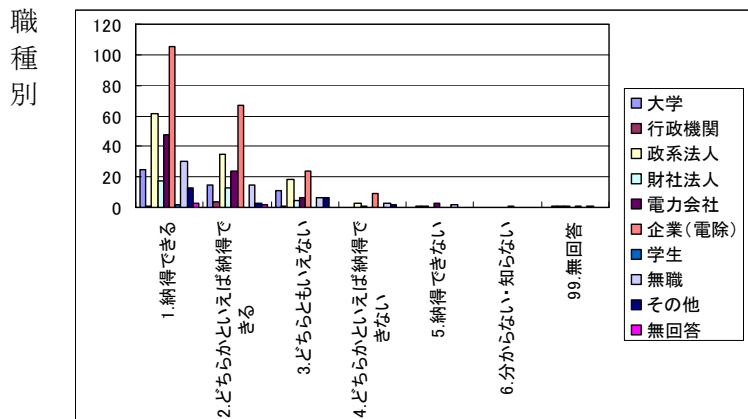
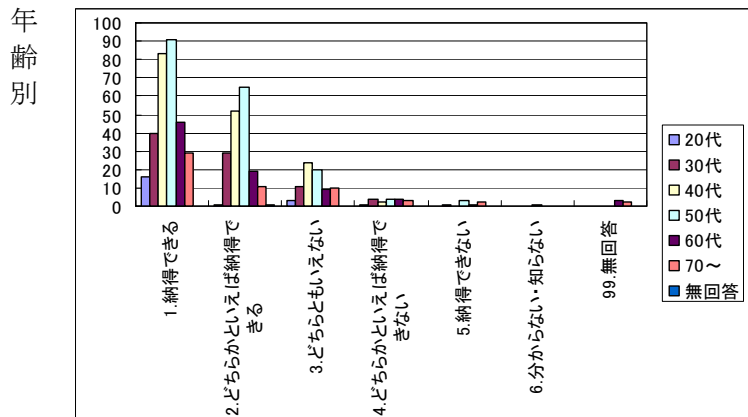
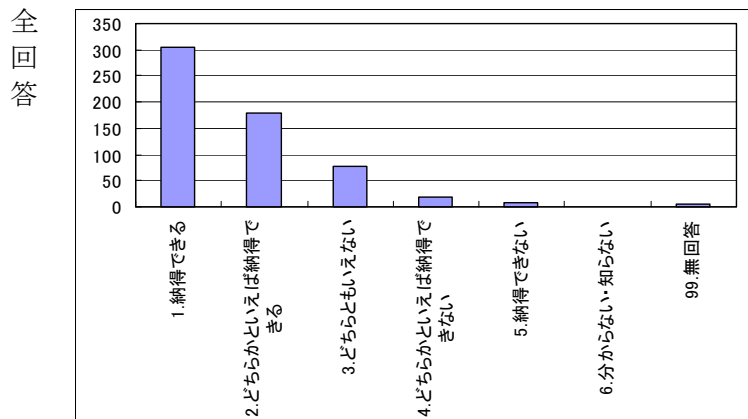
Q10. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。  
あなたは納得できますか、納得できませんか。

(ケ) 使用済み燃料を再処理することによって、ウラン資源を半永久的に発電に利用することができる



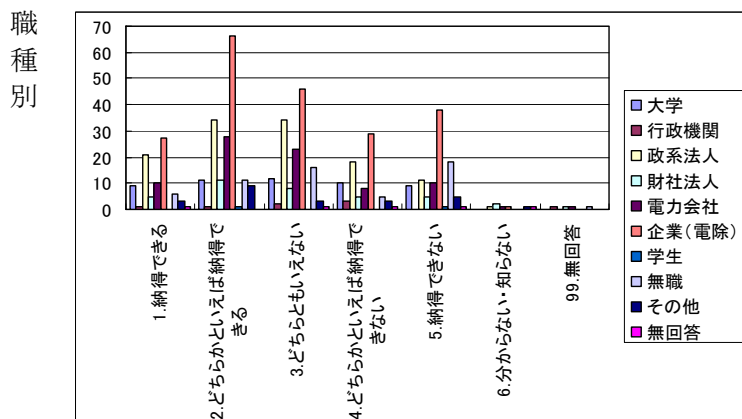
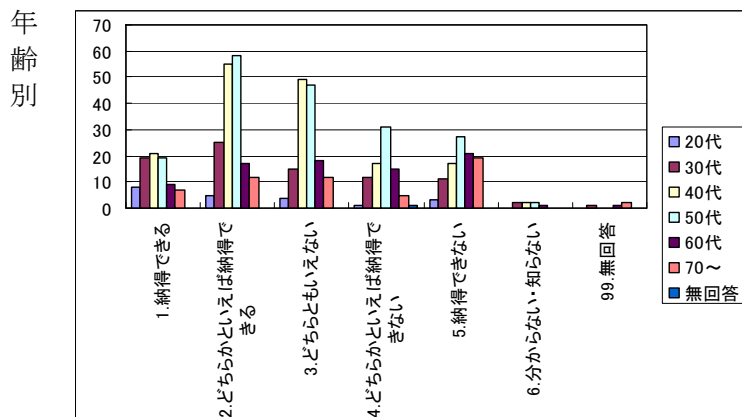
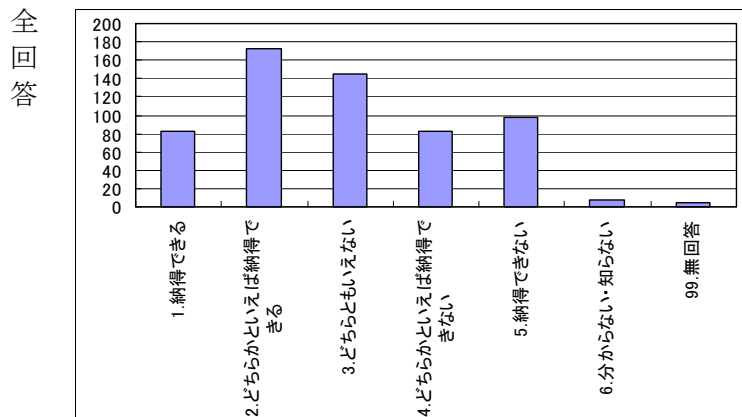
Q10. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。  
あなたは納得できますか、納得できませんか。

(コ) 高レベル放射性廃棄物の最終処分地を早急に決定しなければならない



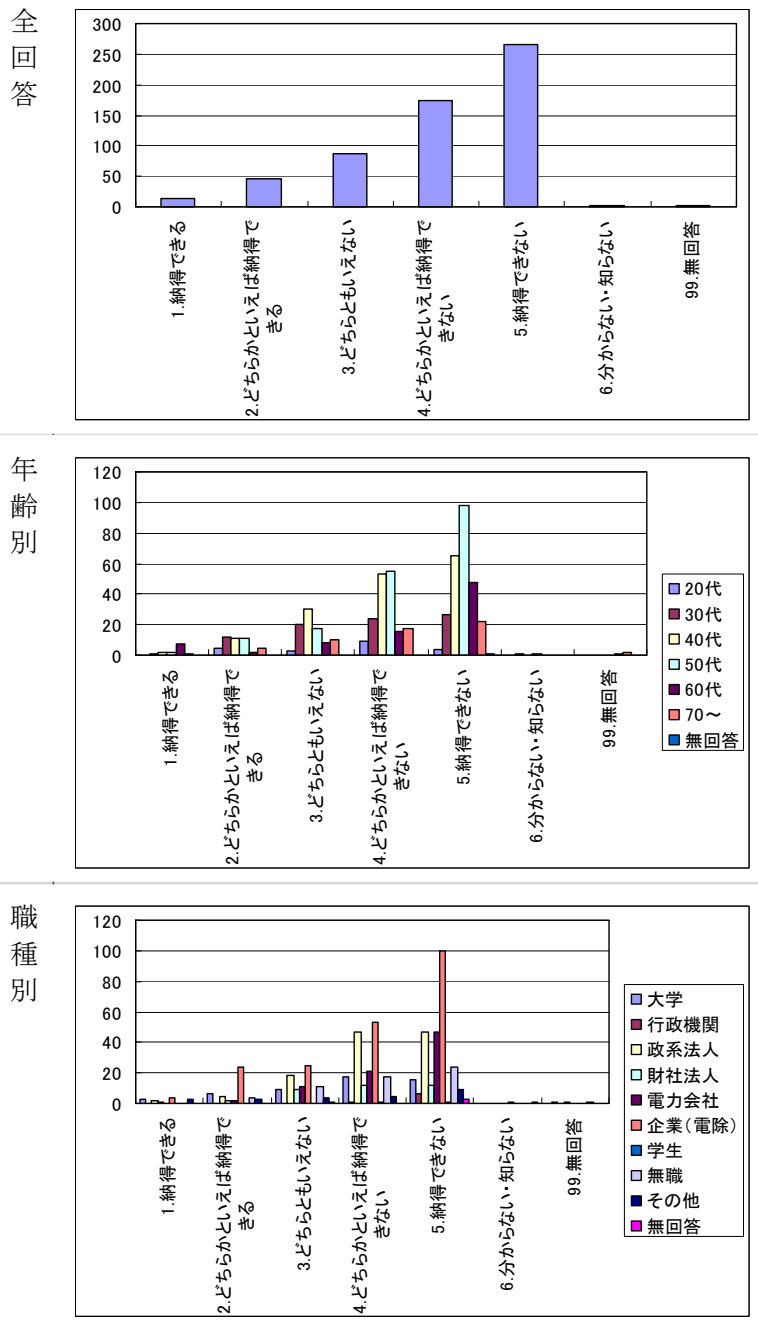
Q10. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。  
あなたは納得できますか、納得できませんか。

(サ) 高レベル放射性廃棄物の最終処分地は、当分の間決定できない



Q10. 原子力発電の利用に係わる意見として、たとえば以下のような意見が聞かれます。  
あなたは納得できますか、納得できませんか。

(シ) わが国のような地震国に原子力発電所は危険である



### 3 首都圏住民と専門家の考え方の比較

#### (1) アンケート比較の概要

- 原子力学会員は〔エネルギー〕〔原子力〕関係の事項以外は首都圏住民とほぼ同様の回答傾向を示している。
- 首都圏住民は〔環境〕には関心が高いが、〔エネルギー〕〔原子力〕への関心は低く、知識も少ない。
- 首都圏住民は、原子力発電の利用－廃止については原子力学会員とは程度の差はあるが同傾向の回答（利用意見優勢）であるが、中間回答が多いのが大きな差異である。
- 首都圏住民は、原子力の〔有用〕関係の事項は原子力学会員とほぼ同傾向の回答であるが、中間回答が多いのが大きな差異である。中間回答が多いは、関心が低く、知識も少ない事が原因の一つと考えられる。
- 首都圏住民は、原子力の〔安全・安心〕関係の事項は原子力学会員とほぼ逆の回答傾向を示している。
- 首都圏住民は、調べたり、教えてもらった原子力関係の言葉として、〔放射能〕の回答割合が一番高い。おそらく、報道などで、〔放射線〕や〔放射性物質〕のことも〔放射能〕と便利に誤用、乱用しているためと思われる。
- 首都圏住民は、処理・処分関係の関心や知識は低い。
- 今後のわが国のエネルギー政策で取り組むべきものとして、首都圏住民は〔新エネルギー〕〔環境〕への回答率が高い。原子力学会員は〔原子力発電の推進〕への回答率が高い以外は、首都圏住民とほぼ同様の回答傾向を示している。
- 原子力発電情報の情報源は、首都圏住民は、〔テレビ番組〕〔新聞記事〕〔インターネット〕への回答が多い。原子力学会員は〔新聞記事〕〔インターネット〕〔書籍・専門書〕〔身内・友人・知人〕への回答が多い。特に〔インターネット〕への評価が意外に高い。

今回の調査で特に注目できるのは、Q1, Q2, Q8, Q10-ケである。

つまり、首都圏住民と原子力学会員はQ1に代表されるように〔原子力〕関係の事項についてその知識や関心に大きな差異（首都圏住民はそれらが小さい、原子力学会員はそれらが大きい）がある。

Q10-ケに代表されるように、首都圏住民は原子力について知識や関心は小さく（特に処理・処分関係は顕著）、それがいくつかの質問において中間回答が多くなる原因となっていると思われる。

また、首都圏住民は、原子力の〔安全・安心〕関係の事項についても、首都圏住民と原子力学会員はQ8に代表されるように安心－不安感に大きな差異（首都圏住民は不安が大きい、原子力学会員は不安が小さい）がある。

しかし、その差異は原子力という範囲内のことであって、Q2のように全体の中からみて他事項と比較すると、首都圏住民も原子力学会員も、その不安の存在は小さいということになる。

この首都圏住民の原子力に対する無知識・無関心と、不安に対する2つの結果（安心か不安か？と問えば不安と答えるが、他不安事項と比べるとその不安感は小さい）について考慮する必要があるといえる。

以下に詳細な比較を示す。

## 4 回答結果と分析

### ■ 普段から特に興味を持っている事柄

首都圏住民は〔環境〕には関心が高いが、〔エネルギー〕〔原子力〕への関心は低い。

原子力学会員は首都圏住民と比べると、当然ではあるが〔エネルギー〕〔原子力〕〔科学技術〕などへの関心が特に高く、それ以外の事柄では概して同様の傾向である。

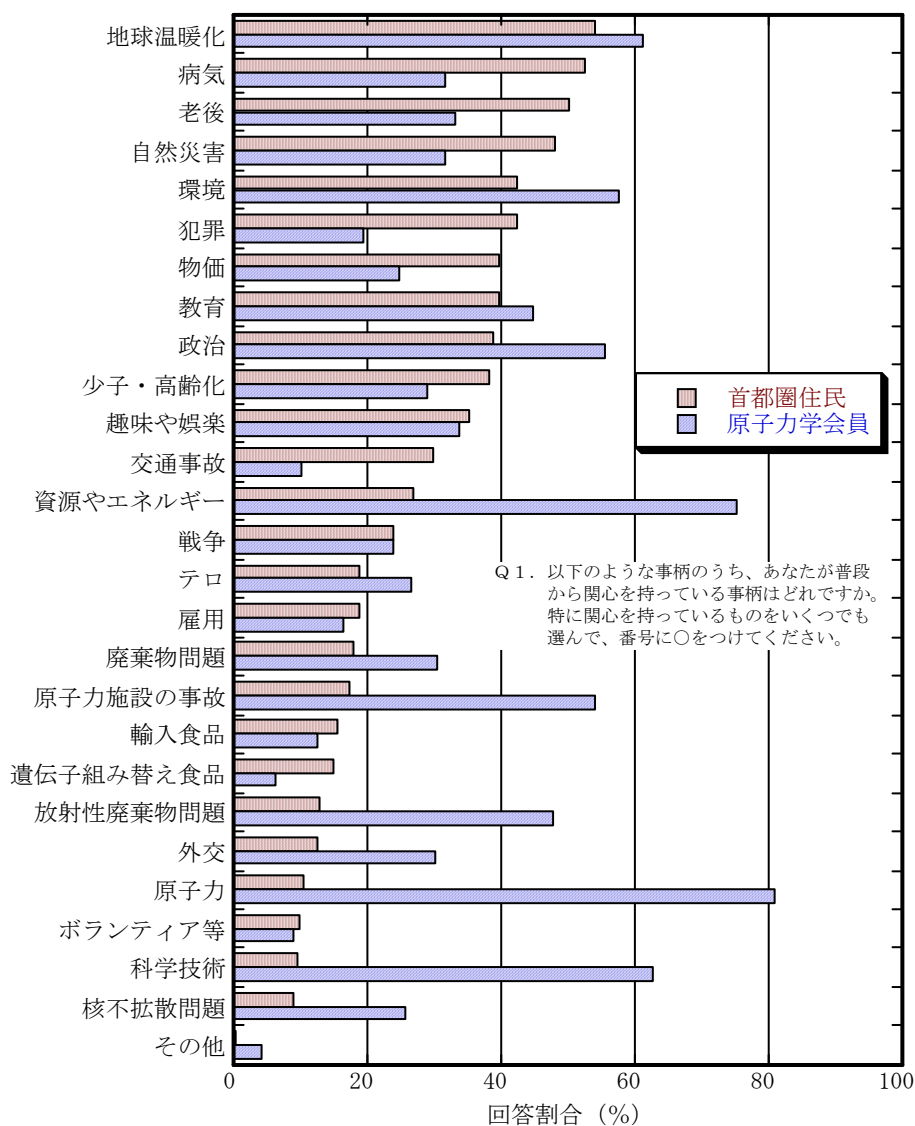


図1. 普段から特に興味を持っている事柄 (Q1/複数回答)  
 (首都圏住民: 2007年/5月/首都圏30km圏内)  
 (原子力学会員: 2008年/1月)

■特に不安に感じる事柄

首都圏住民は不安に感じる事柄と関心のある事柄の順序はほぼ同様の傾向を示している。  
 原子力学会員も首都圏住民とほぼ同様の傾向を示している。原子力関係への不安は相対的に双方とも低い。

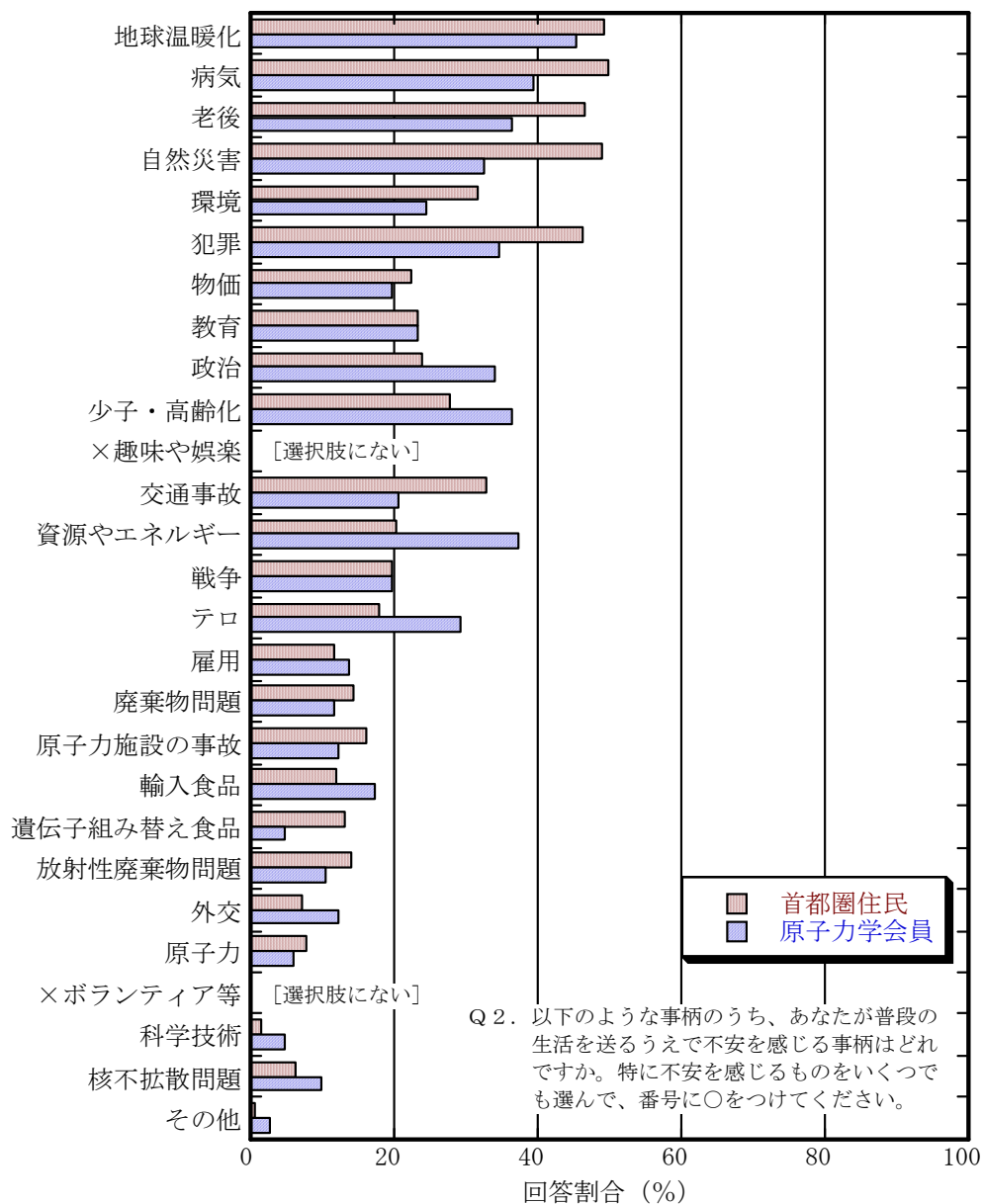


図2. 特に不安に感じる事柄 (Q2/複数回答)  
 (首都圏住民: 2007年/5月/首都圏30km圏内)  
 (原子力学会員: 2008年/1月)



■会社が信頼できる理由

首都圏住民は〔活動内容（製品、経営状態）〕〔社員〕〔情報〕などの回答率が高い。  
原子力学会員も首都圏住民とほぼ同様の傾向を示している。

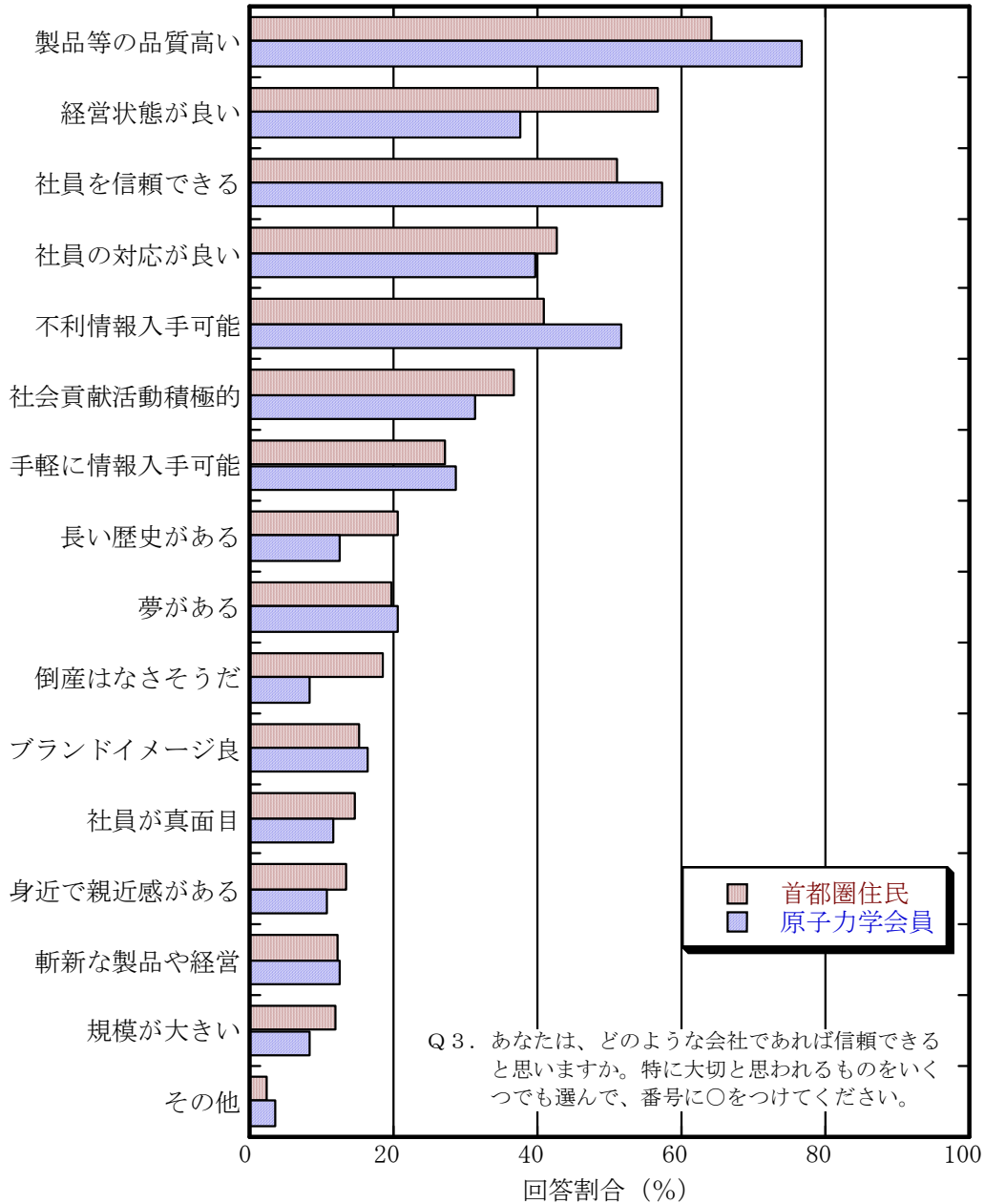


図3. 会社が信頼できる理由 (Q3/複数回答)  
(首都圏住民: 2007年/5月/首都圏30km圏内)  
(原子力学会員: 2008年/1月)

■ 公的機関が信頼できる理由

首都圏住民は、会社の場合と同様に「活動内容（サービス）」「社員」「情報」などの回答率が高い。会社の場合と比べ「経営状態が良い」の割合が小さい。

原子力学会員も首都圏住民とほぼ同様の傾向を示している。

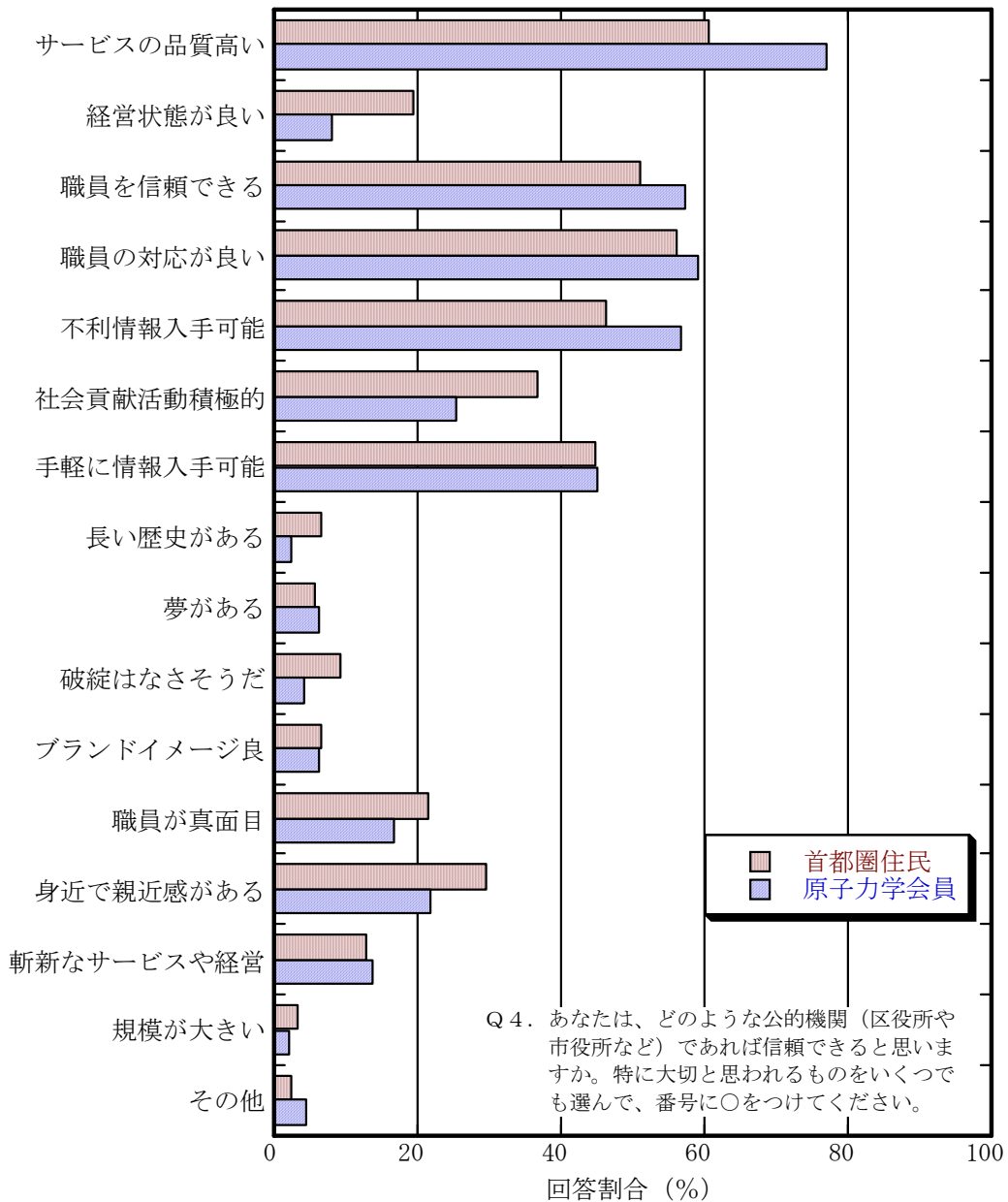


図 4. 公的機関が信頼できる理由 (Q 4 / 複数回答)  
 (首都圏住民: 2007年 / 5月 / 首都圏30km圏内)  
 (原子力学会員: 2008年 / 1月)

■原子力発電の関心

首都圏住民は、Q 1 では他事項と比べると原子力への関心は相対的に低いですが、関心の有無を聞くと約4割が「ある」と回答している。

原子力学会員は当然のことであるがほぼ全員が「ある」と回答している。

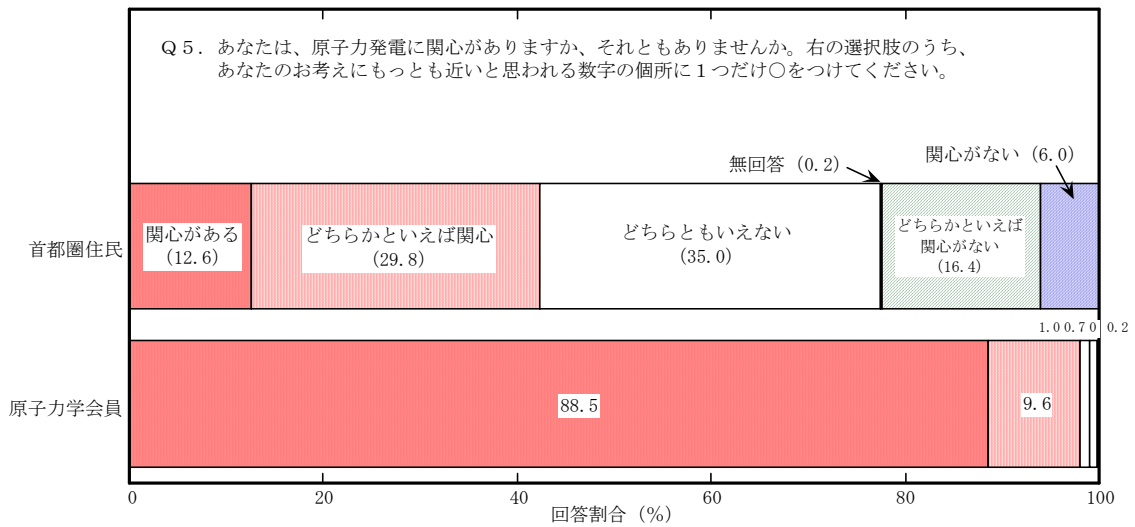


図5. 原子力発電の関心 (Q 5)  
 (首都圏住民：2007年/5月/首都圏30km圏内)  
 (原子力学会員：2008年/1月)

■原子力発電の利用－廃止の意見

首都圏住民は、[利用]意見が約4割、[廃止]意見が約2割であり、中間意見が約4割である。

原子力学会員は当然のことであるがほぼ全員が[利用]意見である。

両グループは程度の差はあるが同傾向の回答（利用意見優勢）である。その大きな差は中間意見の差である。

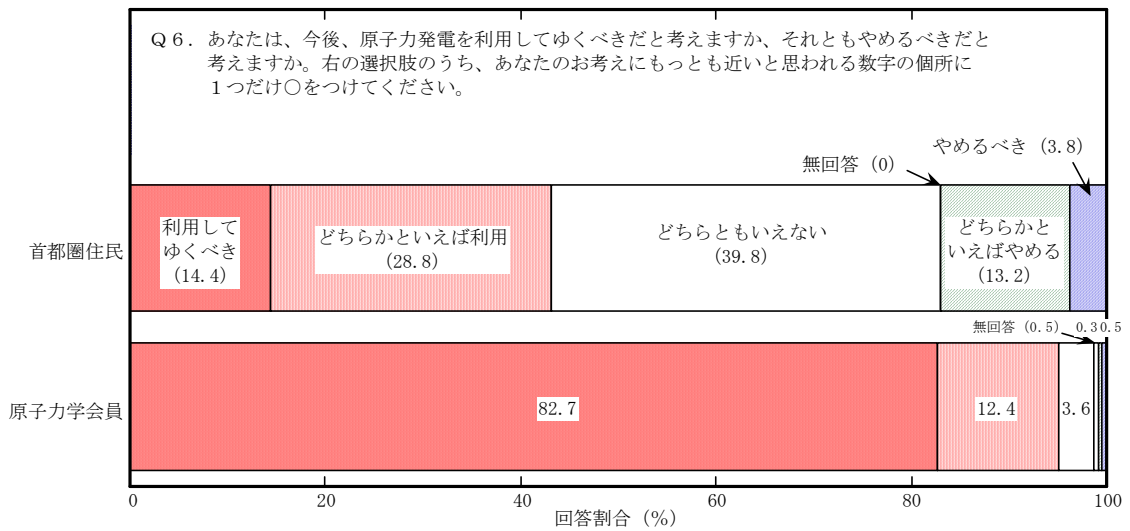


図6. 原子力発電の利用－廃止の意見（Q 6）  
 （首都圏住民：2007年／5月／首都圏30km圏内）  
 （原子力学会員：2008年／1月）

■原子力発電の有用－無用の意見

首都圏住民は、[有用]意見が約6割、[無用]意見はほとんどなく、中間意見が3割強である。

原子力学会員は当然のことであるがほぼ全員が[有用]意見である。

両グループは程度の差はあるが同傾向の回答（有用意見優勢）である。その大きな差は中間意見の差である。

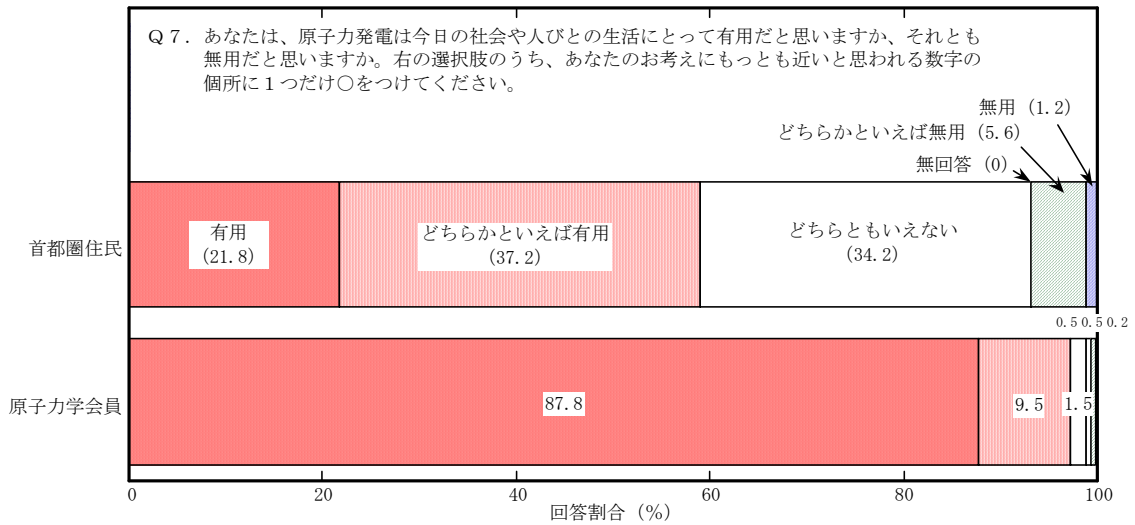


図7. 原子力発電の有用－無用の意見（Q 7）  
 （首都圏住民：2007年／5月／首都圏30km圏内）  
 （原子力学会員：2008年／1月）

■原子力発電の安心－不安の意見

首都圏住民は、[安心]意見が約1割、[不安]意見が約5割、中間意見が3割強である。

原子力学会員は当然のことであるがほぼ全員が[安心]意見である。

両グループはほぼ逆の回答傾向を示している。また、首都圏住民は中間意見の割合が大きい。

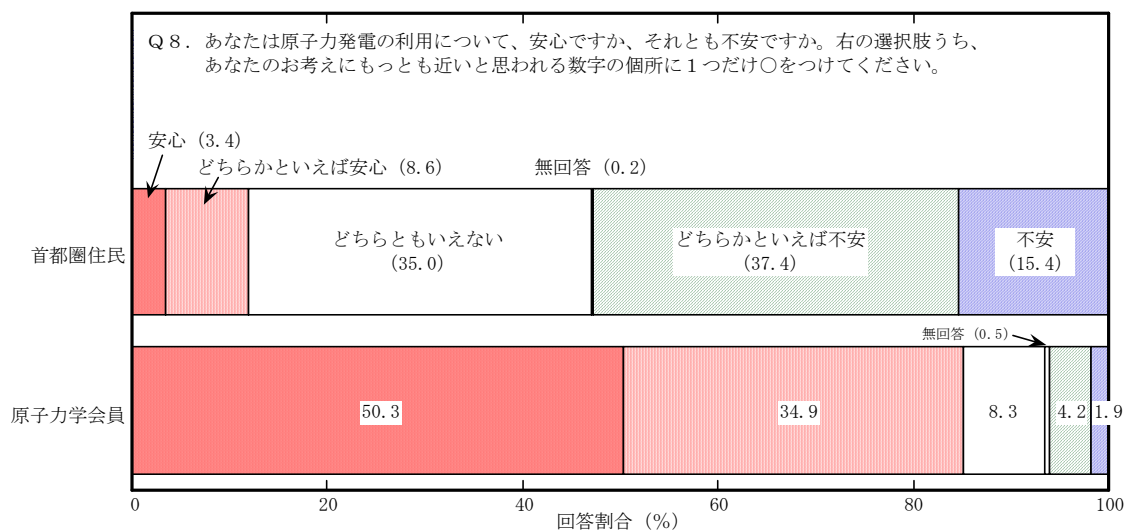


図8. 原子力発電の安心－不安の意見 (Q 8)  
 (首都圏住民：2007年/5月/首都圏30km圏内)  
 (原子力学会員：2008年/1月)

■原子力発電施設の敷地外死亡事故の可能性

首都圏住民は、[起こる]意見が約6割、[起こらない]意見が約1割、中間意見が約3割である。

原子力学会員は大多数が [起こらない]意見である。

両グループはほぼ逆の回答傾向を示している。また、首都圏住民は中間意見の割合が大きい。

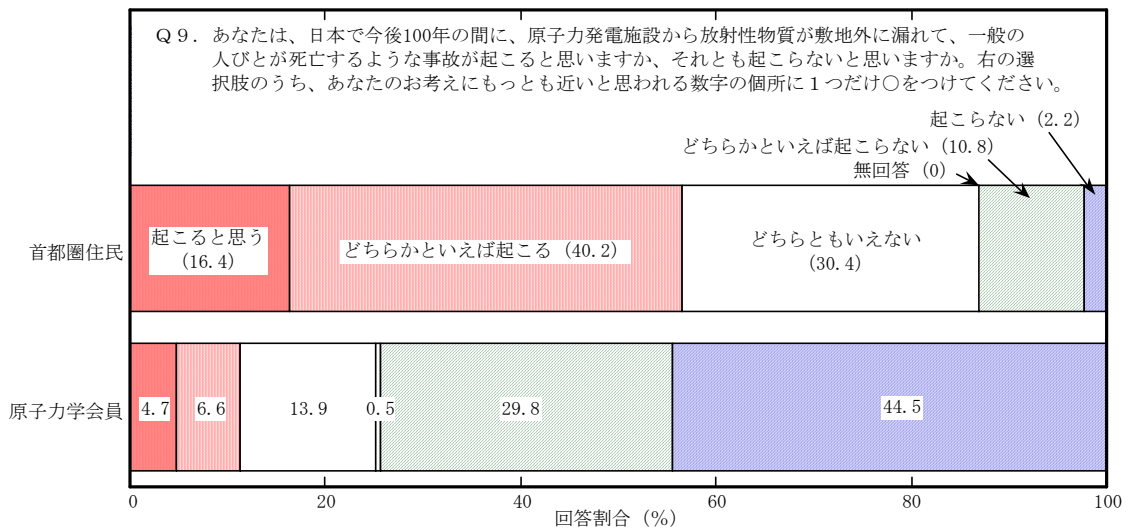


図9. 原子力発電施設の敷地外死亡事故の可能性 (Q 9)  
 (首都圏住民：2007年/5月/首都圏30km圏内)  
 (原子力学会員：2008年/1月)

■原子力に係わる各意見への納得の有無

1) プルトニウムの抽出

首都圏住民は、[納得できる]意見が約5割、[納得できない]意見が約1割、中間意見が約3割である。また、[わからない・しらない]の割合が比較的高い。「再処理」などと言っても多分分からない人も多かったものと思われる。

原子力学会員は大多数が [納得できない]意見である。

両グループはほぼ逆の回答傾向を示している。また、首都圏住民は中間意見の割合が大きい。

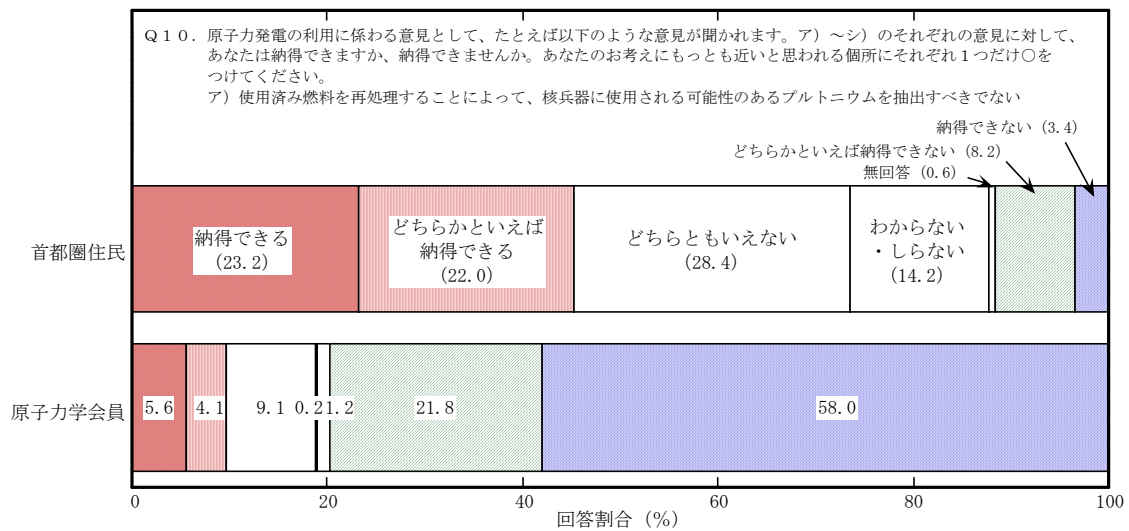


図10-1. 原子力に係わる各意見への納得の有無（プルトニウムの抽出）（Q10）  
（首都圏住民：2007年/5月/首都圏30km圏内）  
（原子力学会員：2008年/1月）



2) 原子力発電がなくても、電力は十分供給できる

首都圏住民は、[納得できる]意見が約2割、[納得できない]意見が4割強、中間意見が約3割である。

原子力学会員はほぼ全員が[納得できない]意見である。

両グループは程度の差はあるが同傾向の回答（納得できない意見優勢）である。その大きな差は中間意見の差である。

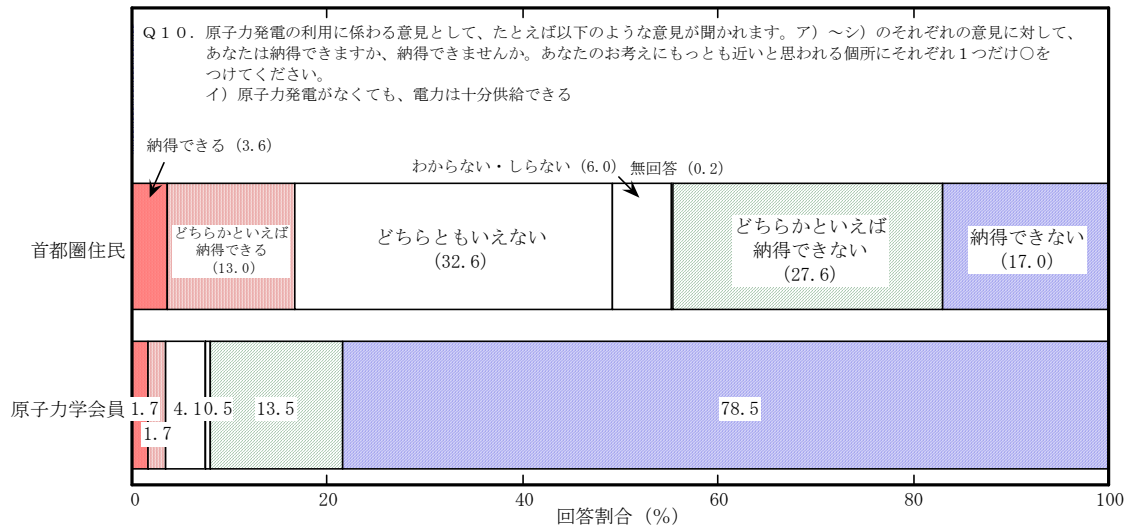


図10-2. 原子力に係わる各意見への納得の有無（原子力発電がなくても、電力は十分供給できる）（Q10）  
（首都圏住民：2007年/5月/首都圏30km圏内）  
（原子力学会員：2008年/1月）

### 3) 原子力発電は地球温暖化防止に貢献できる

首都圏住民は、[納得できる]意見が4割強、[納得できない]意見が約1割、中間意見が約3割である。また、[わからない・知らない]の割合が比較的高い。この問題の広報が不足しているものと思われる。

原子力学会員はほぼ全員が[納得できる]意見である。

両グループは程度の差はあるが同傾向の回答（納得できる意見優勢）である。その大きな差は中間意見の差である。

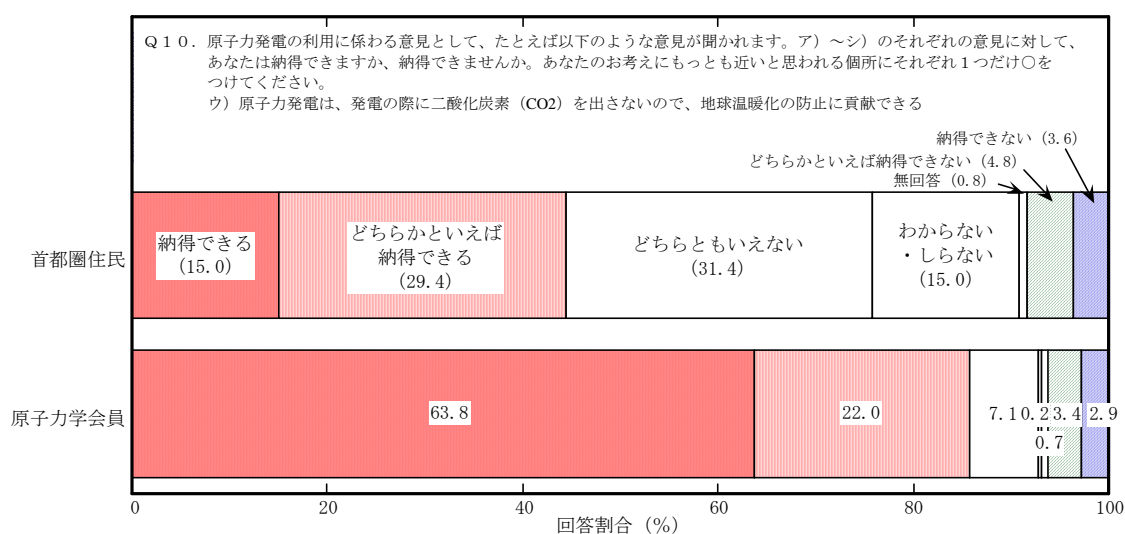


図10-3. 原子力に係わる各意見への納得の有無（原子力発電は地球温暖化防止に貢献できる）（Q10）  
（首都圏住民：2007年/5月/首都圏30km圏内）  
（原子力学会員：2008年/1月）

4) 原子力発電放射性物質による環境汚染の恐れ

首都圏住民は、[納得できる]意見が6割強、[納得できない]意見がほとんどいない、中間意見が約2割である。

原子力学会員は意見が割れているが、若干[納得できない]意見が多い。

両グループはやや逆の回答傾向を示している。

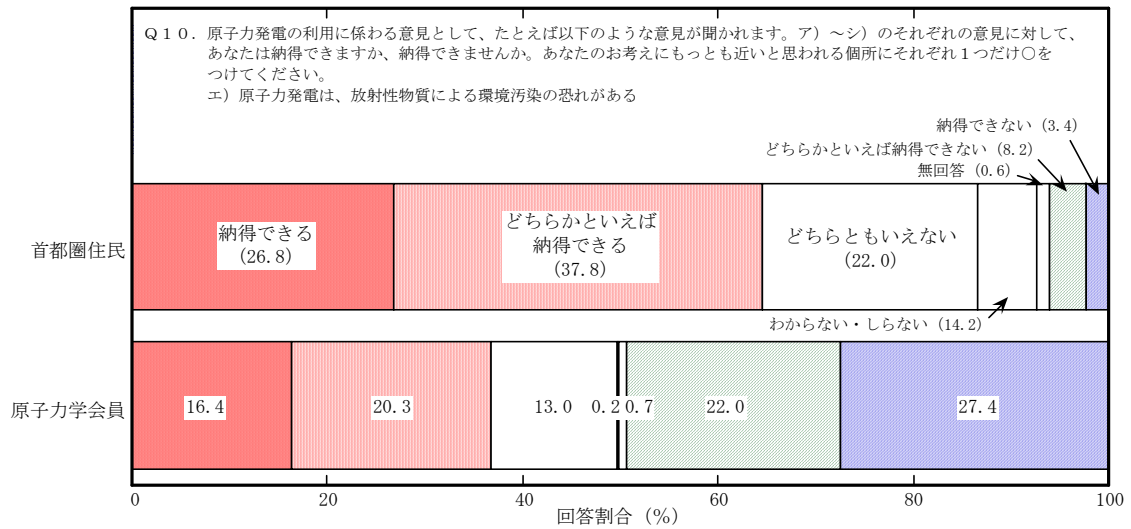


図10-4. 原子力に係わる各意見への納得の有無（原子力発電の放射性物質による環境汚染の恐れ）（Q10）  
 （首都圏住民：2007年/5月/首都圏30km圏内）  
 （原子力学会員：2008年/1月）

5) 近い将来に原子力発電に代わられる発電方法はない

首都圏住民は、[納得できる]意見が約3割、[納得できない]意見が約2割、中間意見が約5割である。[わからない・しらない]の割合が比較的高く、中間意見の割合が高い。この問題の広報が不足しているものと思われる。

原子力学会員はほぼ全員が[納得できる]意見である。

両グループの大きな差は中間意見の差といえる。

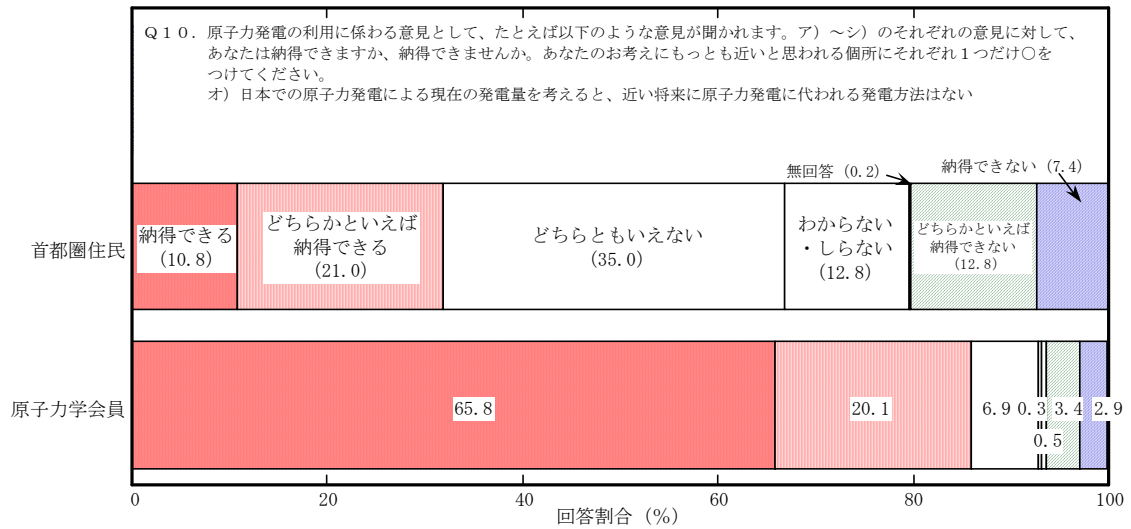


図10-5. 原子力に係わる各意見への納得の有無(近い将来に原子力発電に代わられる発電方法はない)(Q10)  
(首都圏住民: 2007年/5月/首都圏30km圏内)  
(原子力学会員: 2008年/1月)

6) 原子力発電より、新しいエネルギーの開発と育成に重点を

首都圏住民は、[納得できる]意見が約6割、[納得できない]意見が約1割、中間意見が約3割である。

原子力学会員は約5割が [納得できない]意見である。

両グループはほぼ逆の回答傾向を示している。

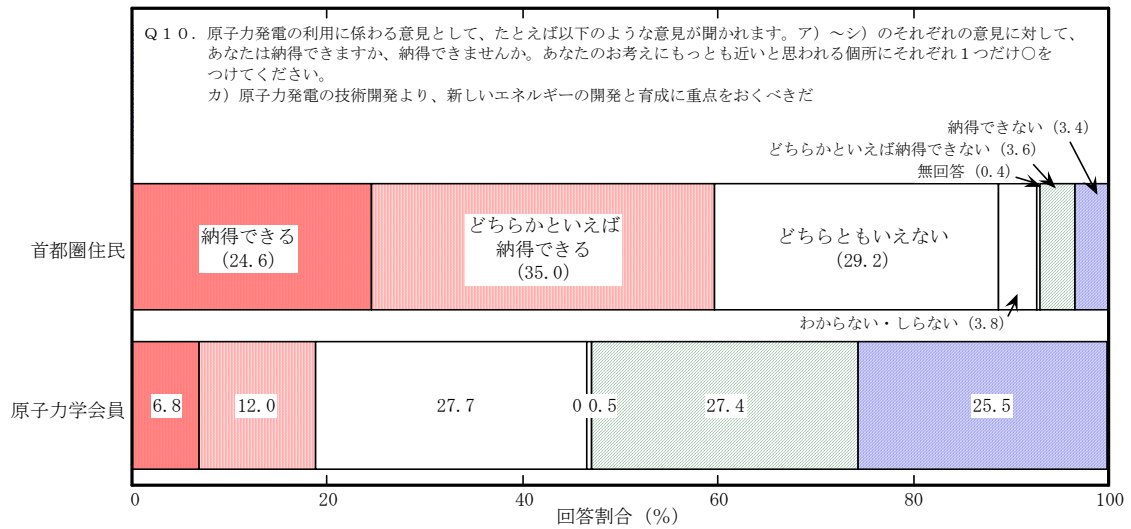


図10-6. 原子力に係わる各意見への納得の有無(原子力発電より、新しいエネルギーの開発と育成に重点を)(Q10)  
(首都圏住民: 2007年/5月/首都圏30km圏内)  
(原子力学会員: 2008年/1月)

7) 運転年数が長い原子力発電所が増えて、安全性は低下

首都圏住民は、[納得できる]意見が約6割、[納得できない]意見がほとんどなく、中間意見が約3割である。

原子力学会員は約5割が [納得できない]意見である。

両グループはほぼ逆の回答傾向を示している。

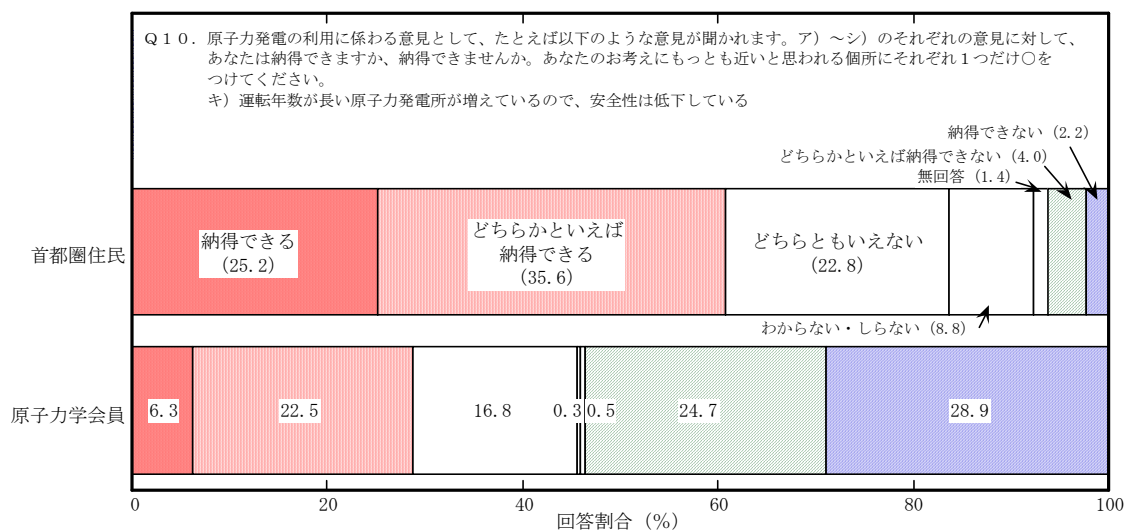


図10-7. 原子力に係わる各意見への納得の有無（運転年数が長い原子力発電所が増えて、安全性は低下）（Q10）  
（首都圏住民：2007年/5月/首都圏30km圏内）  
（原子力学会員：2008年/1月）

8) 原子力に携わる人たちの安全確保の意識や努力を信頼

首都圏住民は、[納得できる]意見が約2割、[納得できない]意見が約3割、中間意見が約4割である。

原子力学会員は大多数が[納得できる]意見である。

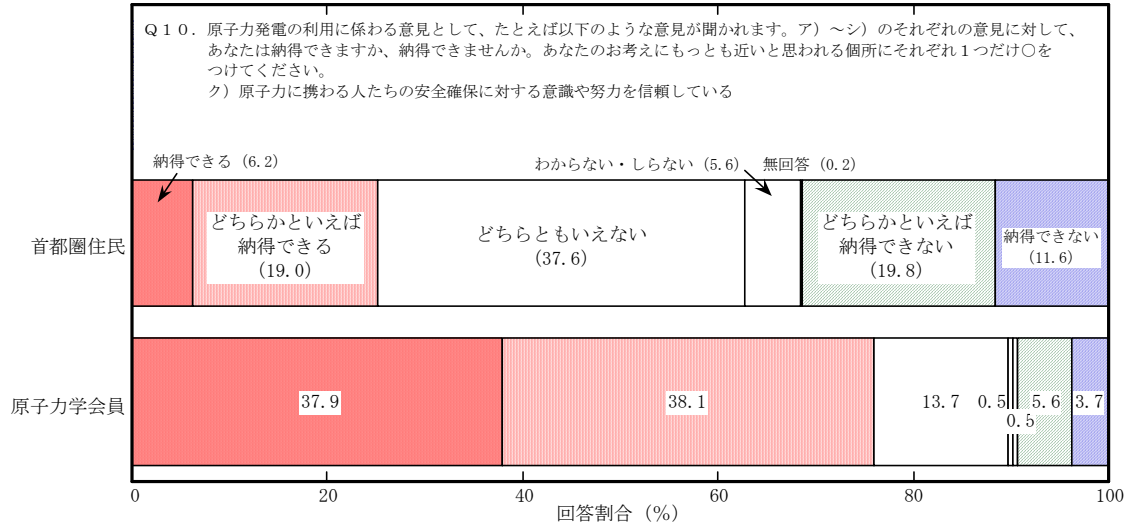


図10-8. 原子力に係わる各意見への納得の有無(原子力に携わる人たちの安全確保の意識や努力を信頼) (Q10)  
(首都圏住民: 2007年/5月/首都圏30km圏内)  
(原子力学会員: 2008年/1月)

9) 再処理でウラン資源を半永久的に発電利用可能

首都圏住民は、[納得できる]意見が約2割、[納得できない]意見が約1割、中間意見が約7割である。[わからない・知らない]の割合が高く、中間意見の割合が高い。[納得できない]意見の割合は原子力学会員のそれよりも小さい。「再処理」などと言っても多分分からない人も多かったものと思われる。

原子力学会員は約6割が[納得できる]意見である。両グループの大きな差は中間意見の差といえる。

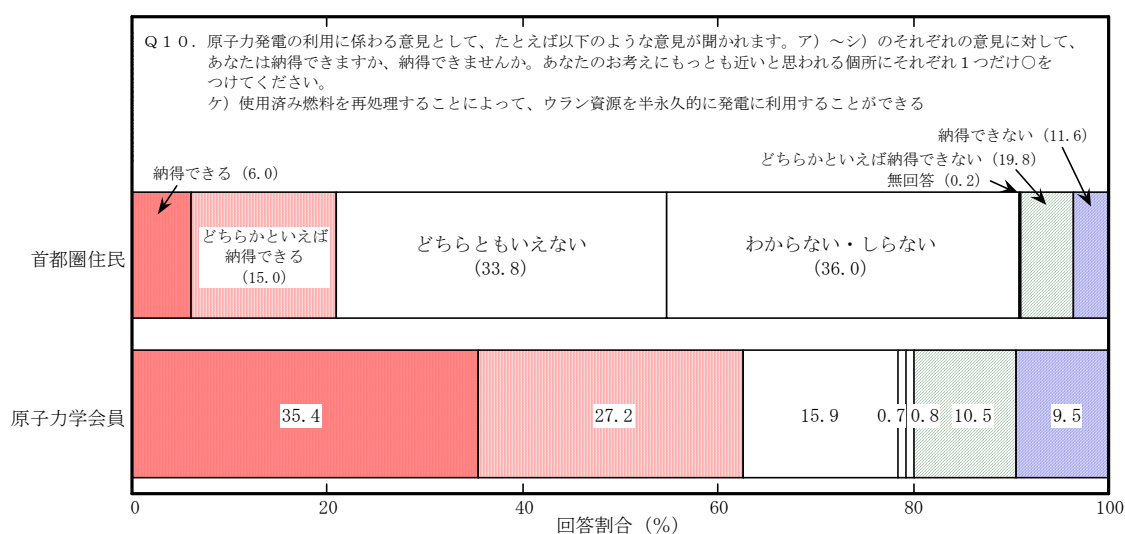


図10-9. 原子力に係わる各意見への納得の有無(再処理でウラン資源を半永久的に発電利用可能)(Q10)  
 (首都圏住民: 2007年/5月/首都圏30km圏内)  
 (原子力学会員: 2008年/1月)



10) 高レベル放射性廃棄物最終処分地を早急に決定すべき

首都圏住民は、[納得できる]意見が約5割、[納得できない]意見がほとんどなく、中間意見が約4割である。また、[わからない・しらない]の割合が比較的高い。この問題の広報が不足しているものと思われる。

原子力学会員はほぼ全員が[納得できる]意見である。

両グループは程度の差はあるが同傾向の回答（納得できる意見優勢）である。その大きな差は中間意見の差である。

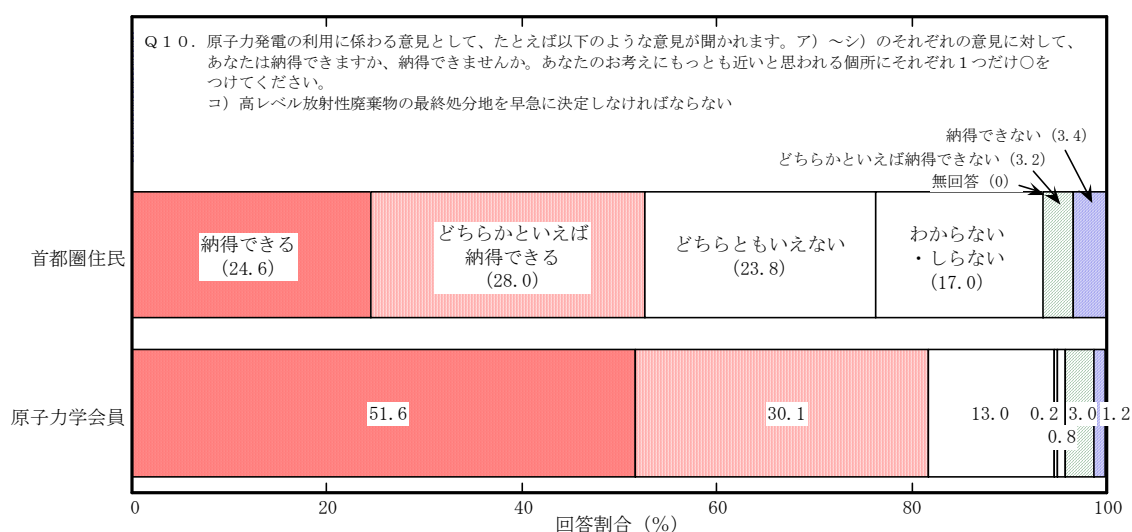


図10-10. 原子力に係わる各意見への納得の有無（高レベル放射性廃棄物最終処分地を早急に決定すべき）（Q10）  
 （首都圏住民：2007年/5月/首都圏30km圏内）  
 （原子力学会員：2008年/1月）

1 1) 高レベル放射性廃棄物最終処分地は当分の間決定不能

首都圏住民は、[納得できる]意見が約3割、[納得できない]意見が約2割、中間意見が約5割である。また、[わからない・知らない]の割合が比較的高い。この問題の広報が不足しているものと思われる。

原子力学会員は意見が割れている。

両グループは程度の差はあるが同傾向の回答（意見が割れている）である。その大きな差は中間意見の差である。

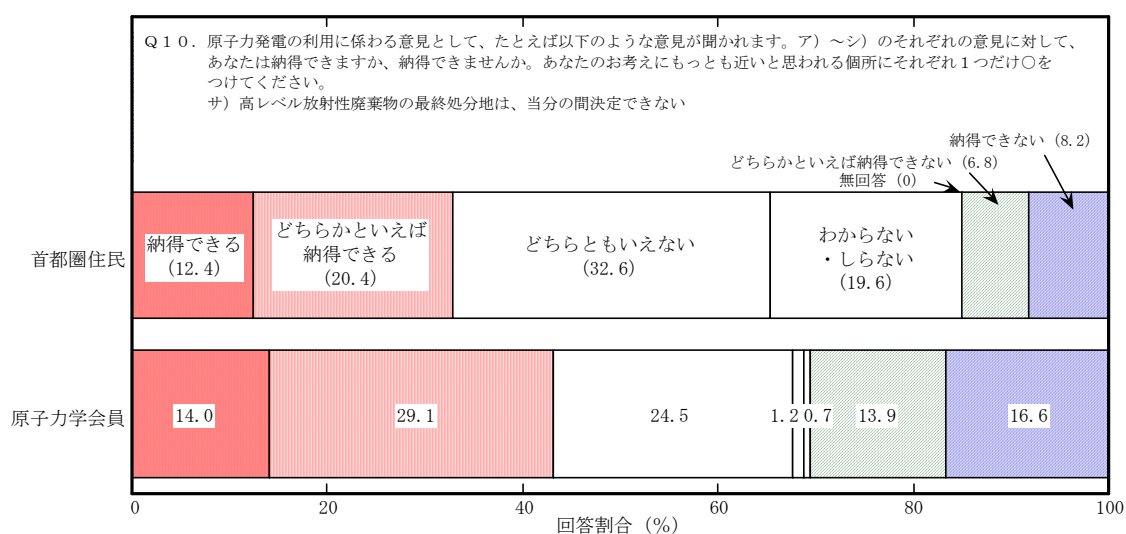


図10-11. 原子力に係わる各意見への納得の有無（高レベル放射性廃棄物最終処分地は当分の間決定不能）（Q10）  
 （首都圏住民：2007年/5月/首都圏30km圏内）  
 （原子力学会員：2008年/1月）

1 2) わが国のような地震国に原子力発電所は危険

首都圏住民は、[納得できる]意見が約5割、[納得できない]意見が約1割、中間意見が約4割である。

原子力学会員は大多数が [納得できない]意見である。

両グループはほぼ逆の回答傾向を示している。

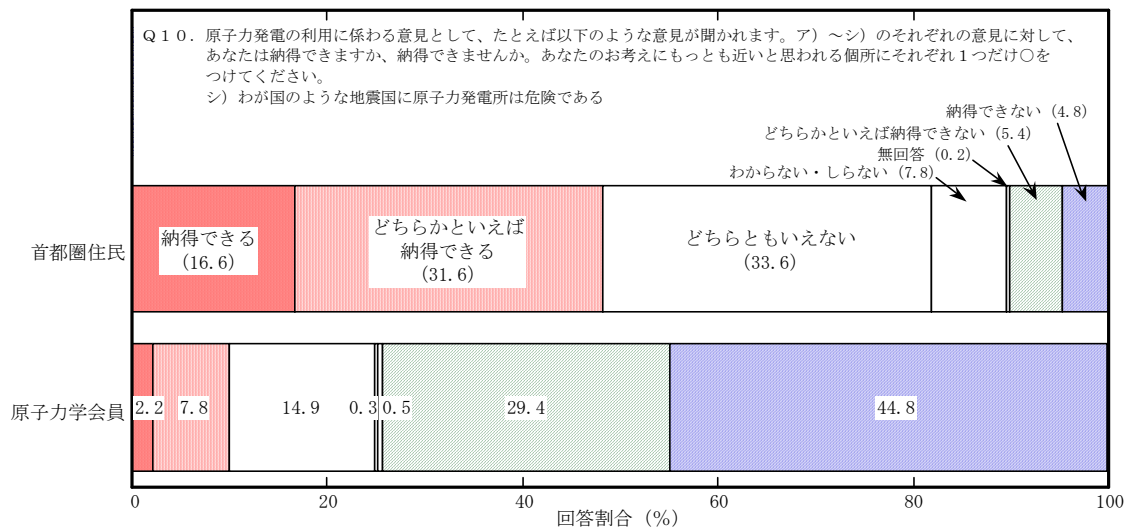


図10-12. 原子力に係わる各意見への納得の有無(わが国のような地震国に原子力発電所は危険) (Q10)  
(首都圏住民: 2007年/5月/首都圏30km圏内)  
(原子力学会員: 2008年/1月)

■原子力発電に係わる知識や情報の有無

首都圏住民は、[持っている方]意見が約1割、[持っていない方]意見が約6割、中間意見が約3割である。自己申告ではあるが、首都圏住民は、原子力発電に係わる知識や情報を持っていないとしている。例えば、Q10で中間意見が多いのも、この低知識が原因の一つと思われる。

原子力学会員は当然のことであるがほぼ全員が [持っている方]意見である。

両グループはほぼ逆の回答傾向を示している。

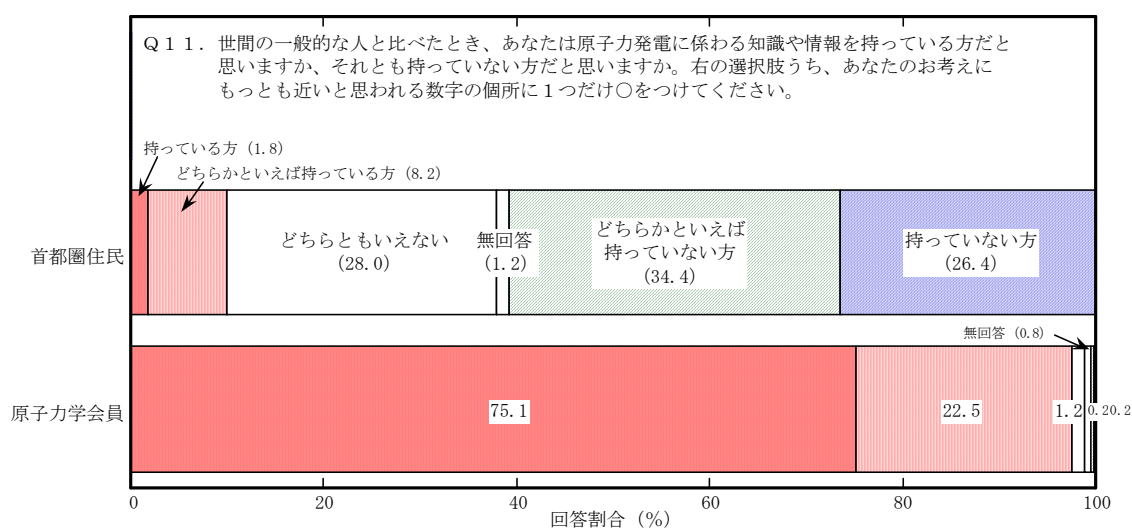


図11. 原子力発電に係わる知識や情報の有無 (Q11)  
 (首都圏住民：2007年/5月/首都圏30km圏内)  
 (原子力学会員：2008年/1月)

■調べたり、教えてもらった原子力関係の言葉

首都圏住民は[放射能]の回答割合が一番高い。おそらく、報道などで、[放射線]や[放射性物質]のことも[放射能]と便利に誤用、乱用しているためと思われる。逆に、処理・処分関係の言葉の回答割合は低い。

原子力学会員は首都圏住民と比べると、当然ではあるが全ての言葉に高い回答率を示している。

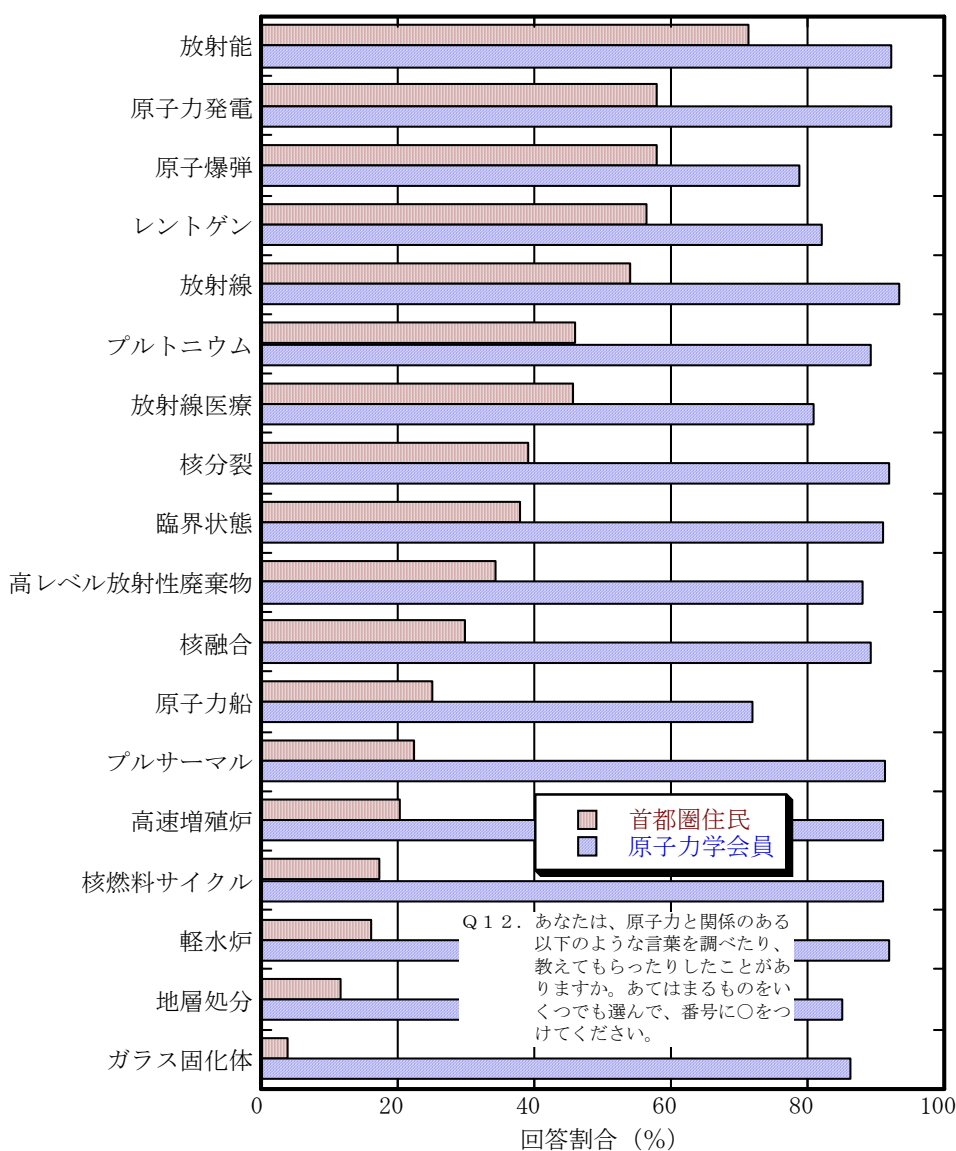


図12. 調べたり、教えてもらった原子力関係の言葉 (Q12/複数回答)  
 (首都圏住民: 2007年/5月/首都圏30km圏内)  
 (原子力学会員: 2008年/1月)

■今後のわが国のエネルギー政策で取り組むべきもの

首都圏住民は「新エネルギー」「環境」への回答率が高い。

原子力学会員は首都圏住民と比べると、当然ではあるが「原子力発電の推進」への回答率が高い以外は、首都圏住民とほぼ同様の回答傾向を示している。

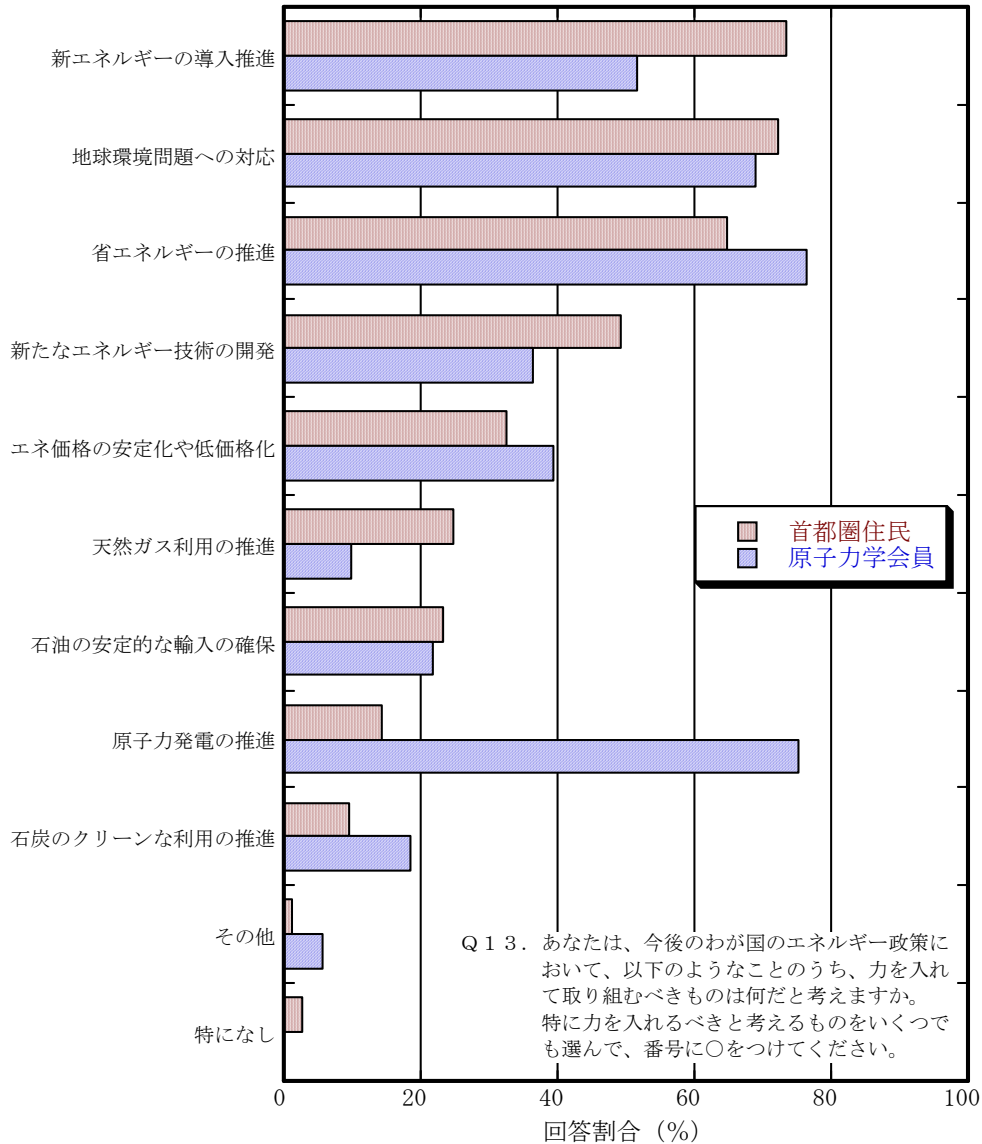


図13. 今後のわが国のエネルギー政策で取り組むべきもの (Q13/複数回答)  
 (首都圏住民: 2007年/5月/首都圏30km圏内)  
 (原子力学会員: 2008年/1月)

■原子力発電情報の公開度の評価

首都圏住民は、[公開]意見が約1割、[非公開]意見が約6割、中間意見が約3割である。

原子力学会員は大多数が [公開]意見である。

両グループはほぼ逆の回答傾向を示している。

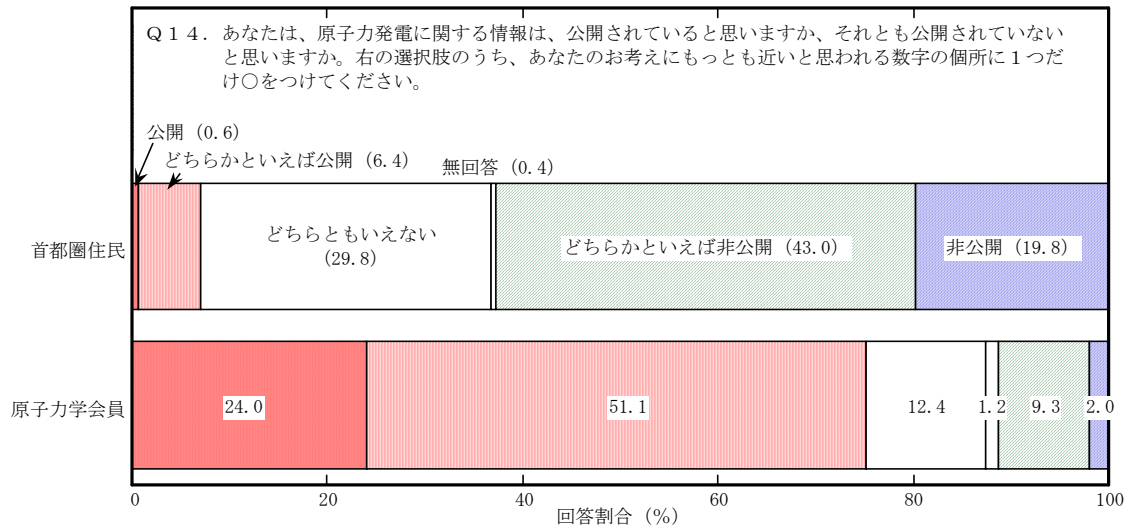


図14. 原子力発電情報の公開度の評価 (Q14)  
 (首都圏住民: 2007年/5月/首都圏30km圏内)  
 (原子力学会員: 2008年/1月)

■原子力発電情報の情報源

図15～20をみると、首都圏住民は、[テレビ番組] [新聞記事] [インターネット] への回答が多い。

原子力学会員は [新聞記事] [インターネット] [書籍・専門書] [身内・友人・知人] への回答が多い。特に [インターネット] への評価が意外に高い。

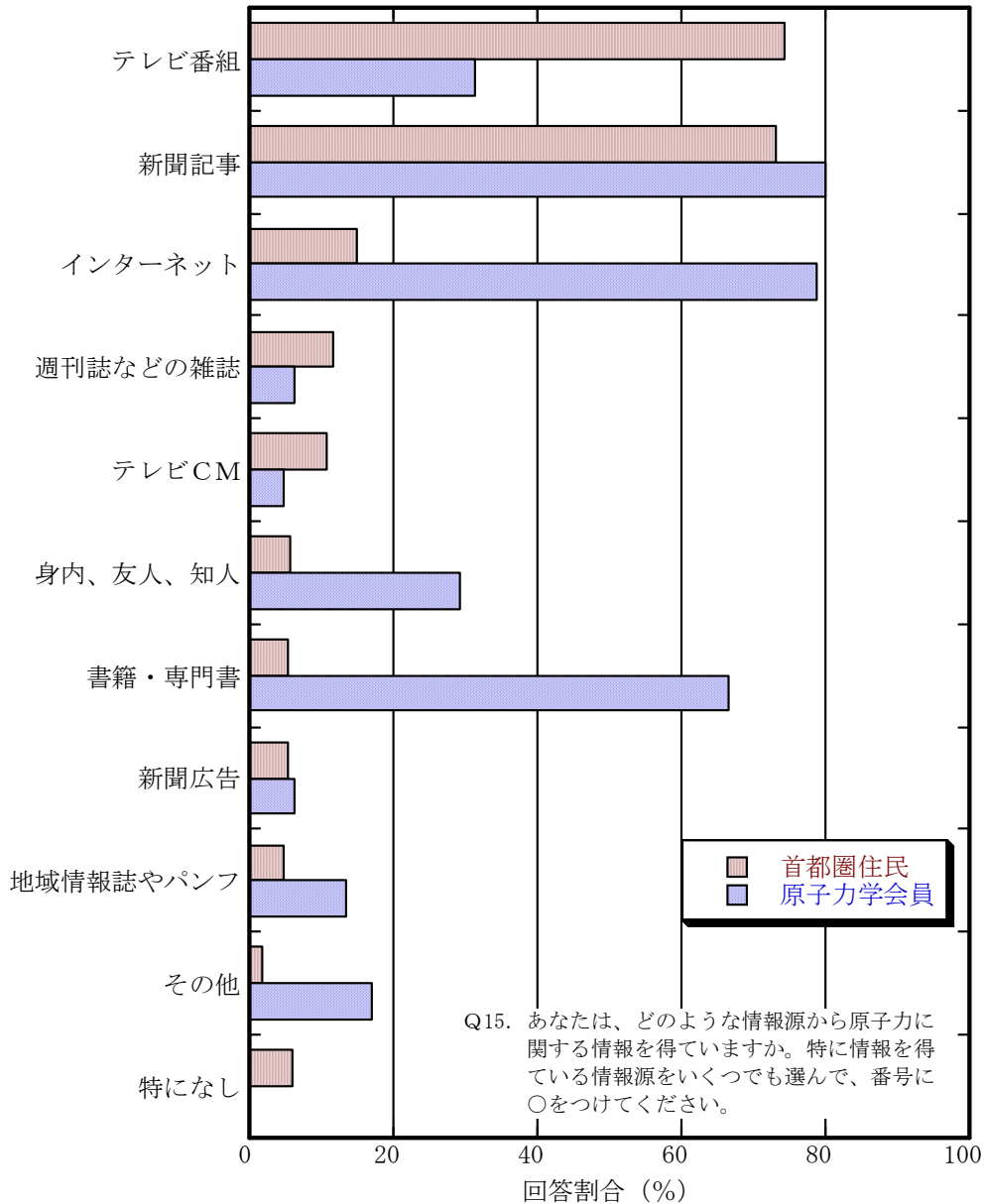


図15. 原子力情報を得ている情報源 (Q15 / 複数回答)  
 (首都圏住民: 2007年/5月/首都圏30km圏内)  
 (原子力学会員: 2008年/1月)



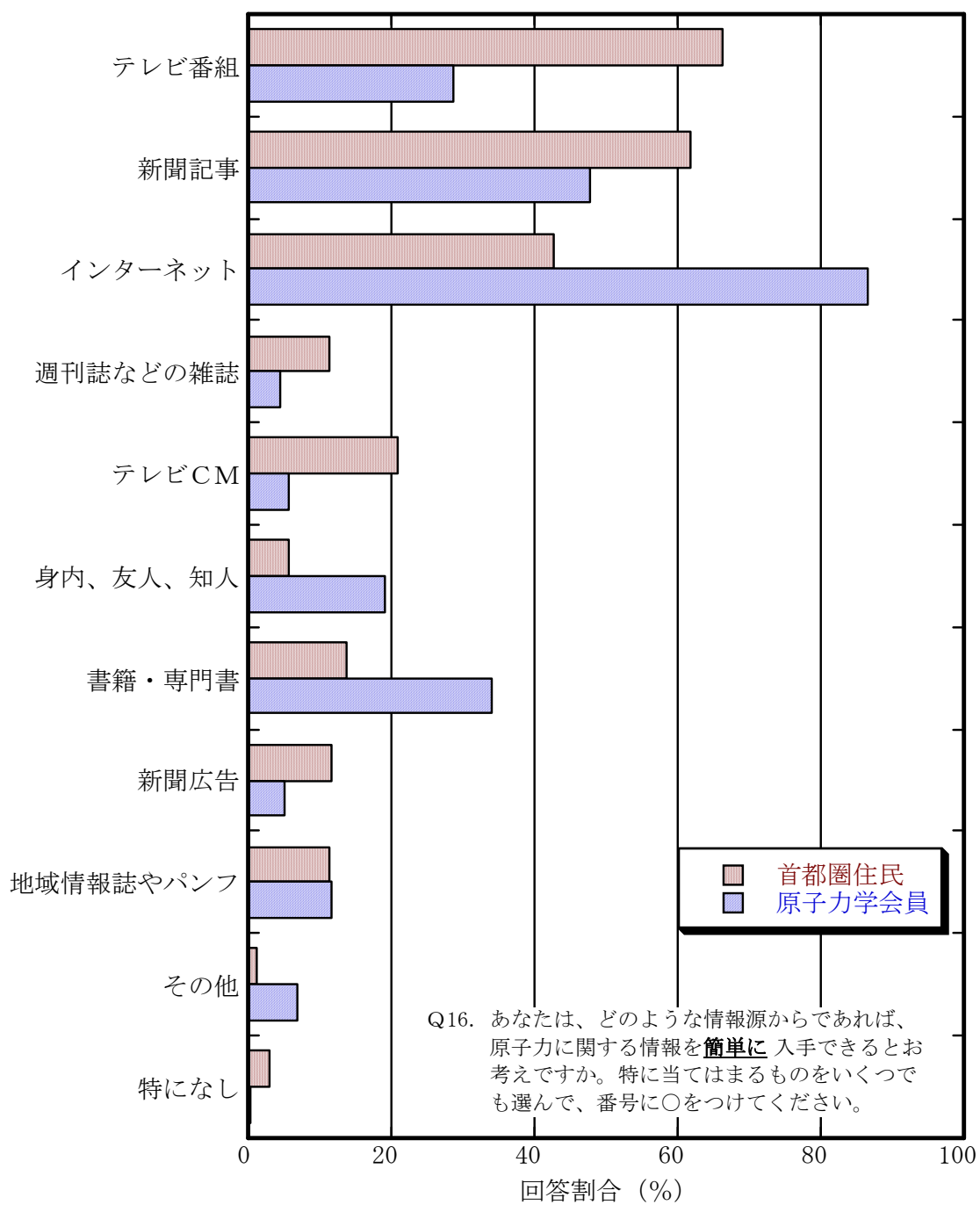


図16. 原子力情報を簡単に入手できる情報源 (Q16/複数回答)  
 (首都圏住民: 2007年/5月/首都圏30km圏内)  
 (原子力学会員: 2008年/1月)

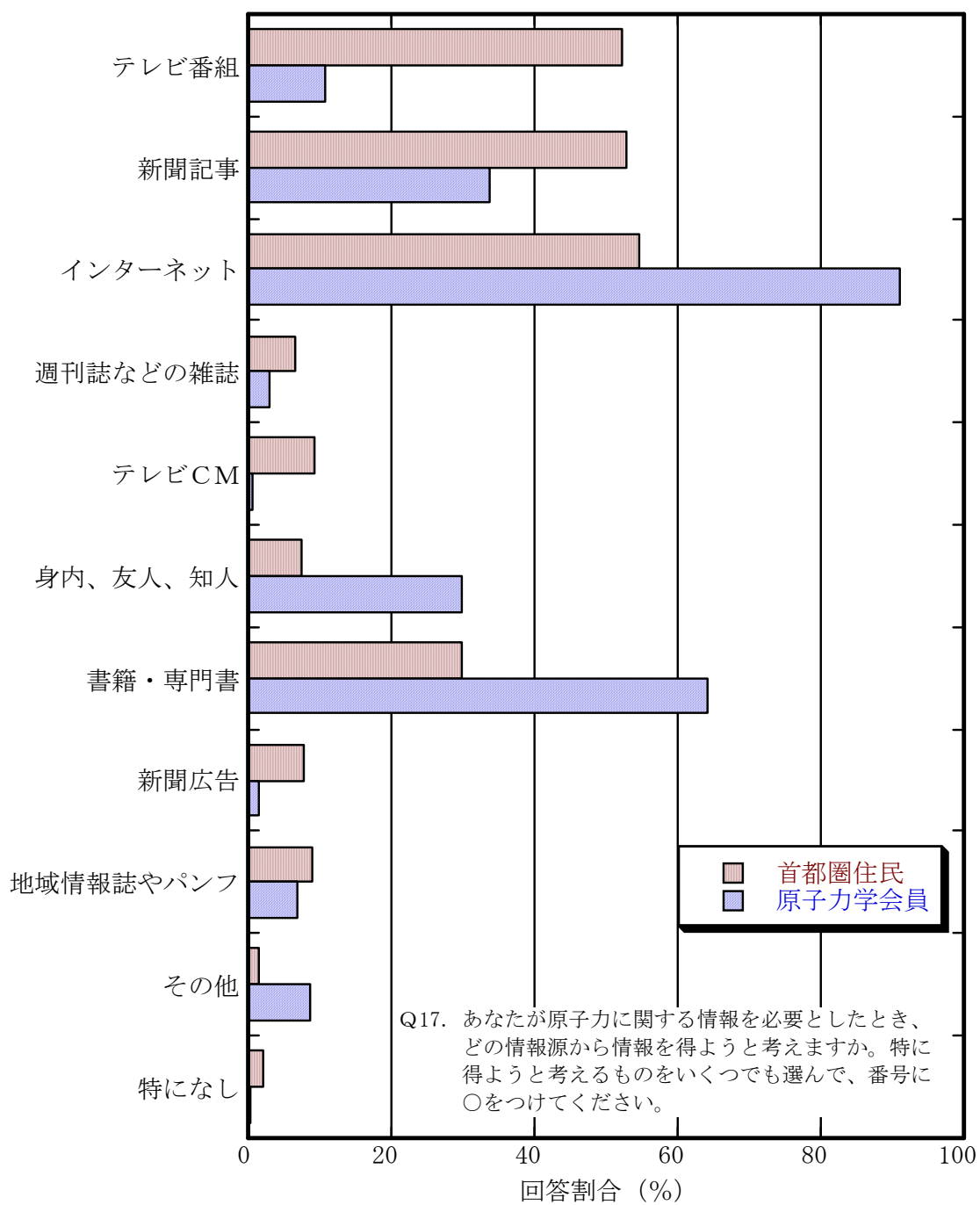


図17. 原子力情報を得ようとする情報源 (Q17/複数回答)  
 (首都圏住民: 2007年/5月/首都圏30km圏内)  
 (原子力学会員: 2008年/1月)

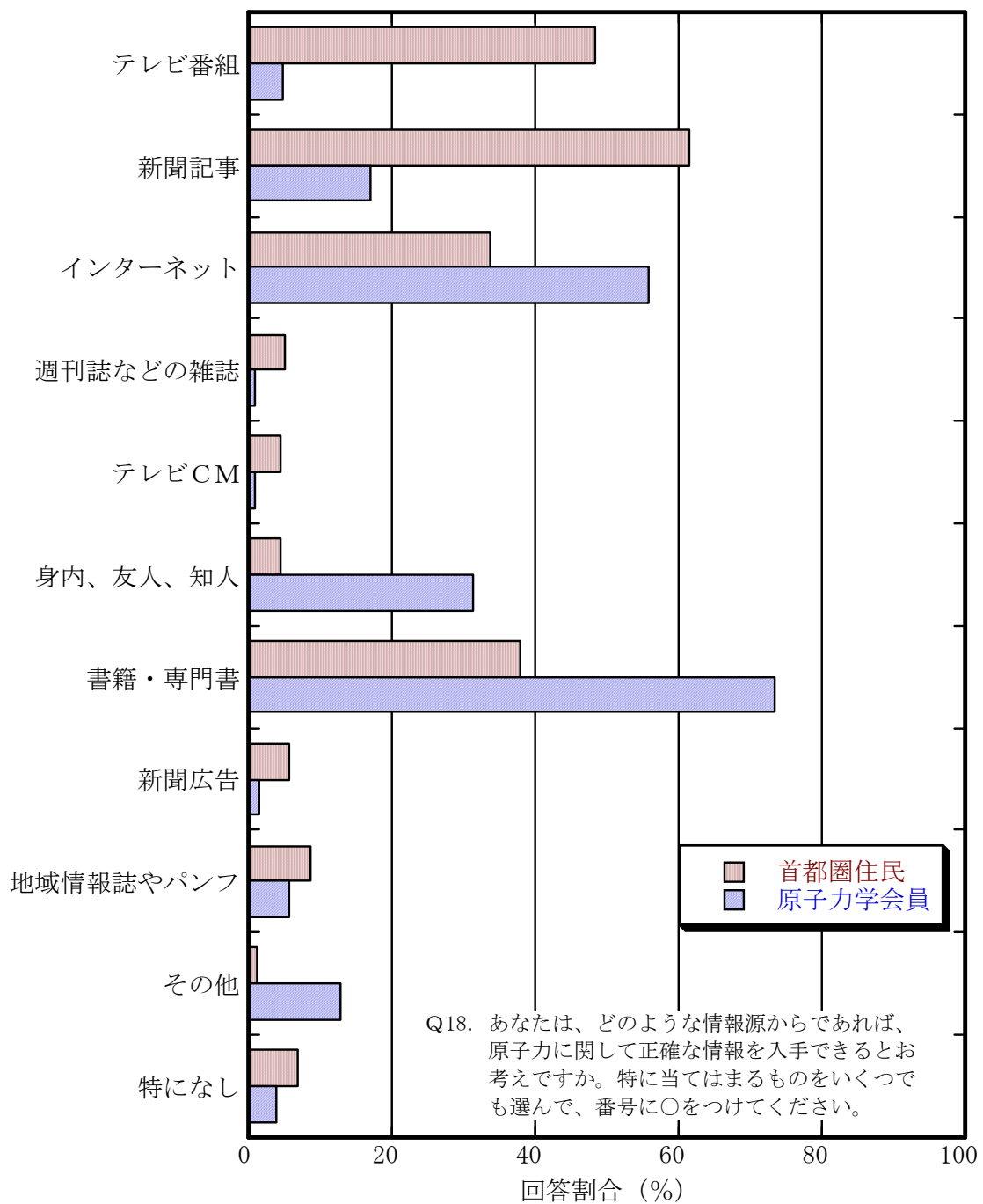


図18. 原子力の正確な情報を入手できる情報源 (Q18/複数回答)  
 (首都圏住民: 2007年/5月/首都圏30km圏内)  
 (原子力学会員: 2008年/1月)

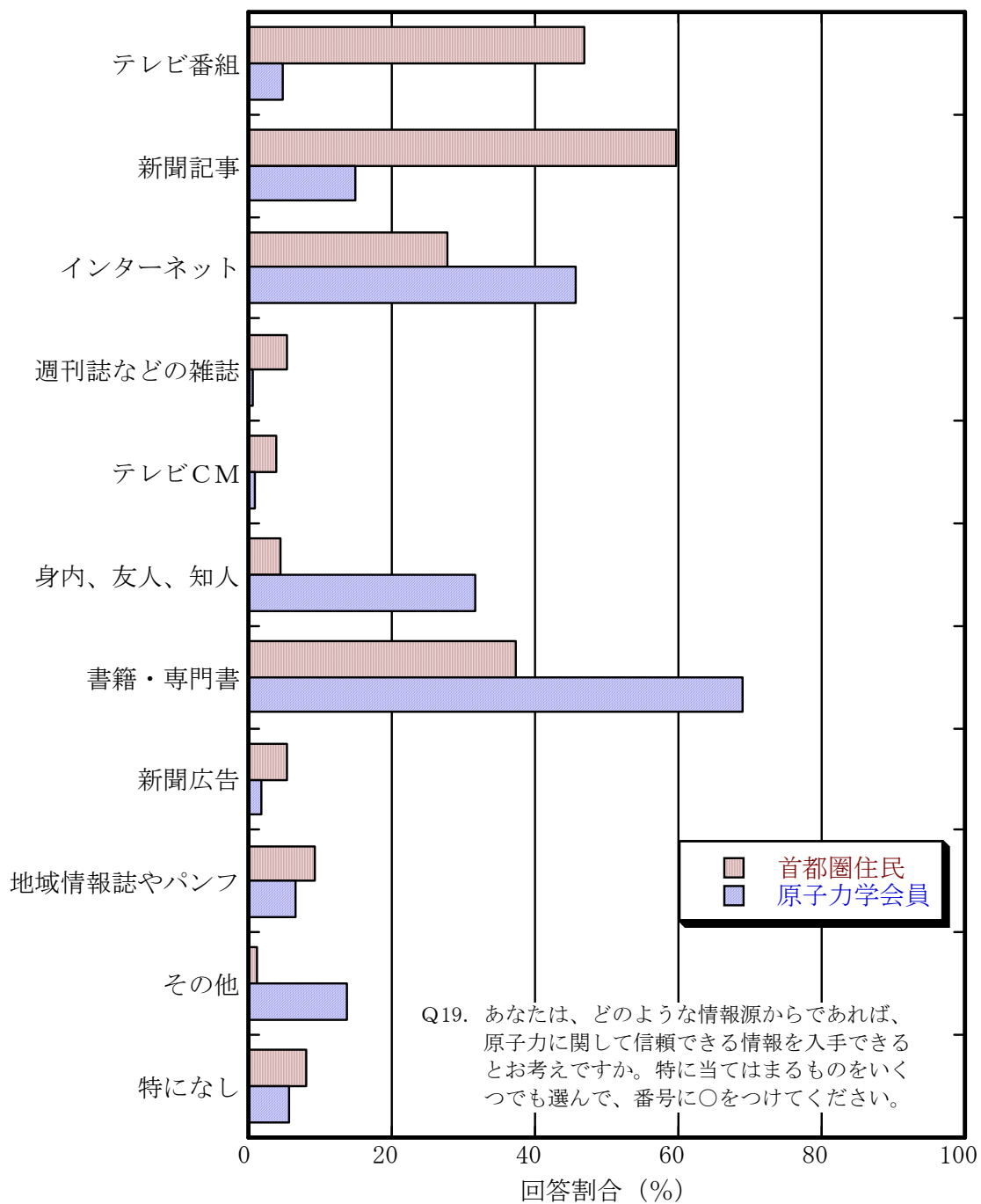


図19. 原子力に関して信頼できる情報源 (Q19/複数回答)  
 (首都圏住民: 2007年/5月/首都圏30km圏内)  
 (原子力学会員: 2008年/1月)

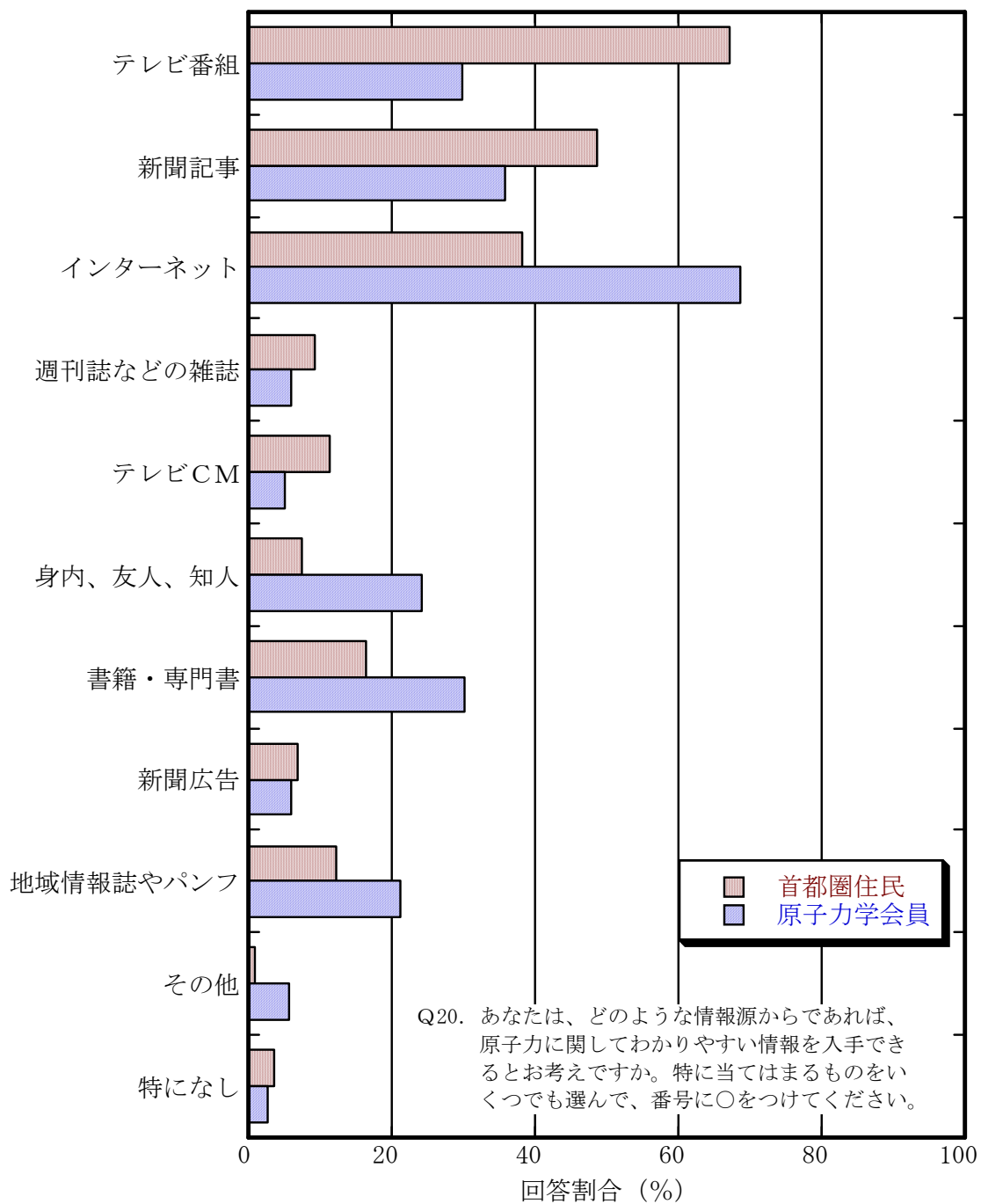


図20. 原子力に関するわかりやすい情報源 (Q20/複数回答)  
 (首都圏住民: 2007年/5月/首都圏30km圏内)  
 (原子力学会員: 2008年/1月)

## まとめと今後の方針

本章では、2007年5月～6月に実施された首都圏調査と、2008年1月～2月に実施された専門家調査の結果を示し、また、首都圏住民と専門家との比較分析を実施した。

さらに、調査データの公開方法について検討し、まだ詳細は検討の余地があるものの、その大枠を固めた。

次年度の世論調査は、継続アンケート項目は経年変化を観測するものとして本年度に実施した項目を踏襲し、一方、新規項目としては新たな項目を検討して、アンケートを構成し、今年度と同様、首都圏調査と専門家調査を実施する。実施時期について、今年度は首都圏調査と専門家調査が異なる時期に実施されたが、次年度からは統一する。